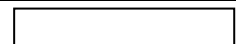


子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 日本国憲法		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 古川 利通	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
☑ 実務経験		大学教員になる前の公務員 (東京都) として福祉行政に従事、その経験を活かした授業を行う。			
[授業の目的・ねらい] 皆さんは、保育士、幼稚園教諭あるいは保育教諭として、子どもの人権＝権利を守り、発展させる仕事につきます。また皆さん一人一人も人間であり、国民です。皆さんも人権の主体であり労働者になります。ですから、子どもの権利や労働者の権利、市民としての権利を定める日本国憲法を学び、人権を守る力と主権を持つ国民として判断する力を身につけることを目的とします。					主に対応するDP 3
[授業全体の内容の概要] 日本国憲法は、国会・内閣・裁判所・象徴天皇制など統治構造にかかわる部分と平和主義、人権にかかわる部分からできています。ここでは、特に自由権、生存権そして子供の権利など重要な人権について講義し、一緒に考えていきます。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 子どもの権利や日本国民の人権、福祉の課題が、今の日本でどの程度実現されているか、課題は何かなどについて、保護者や同僚と話ができて、説明できる力を身につけることが目標です。					
[準備学習の内容] 新聞記事・ニュースには、憲法改正、平和の問題、子どもの事件、格差問題など人権にかかわる出来事が日々報道されています。皆さんは、それらに出来事に意識的に目を向け、どんなことなのか、自分はどう思うかなどを時々考えてください。それが授業の準備になりますし、「授業感想表」に書くことを豊かにします。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1) 授業計画、試験方法、授業感想表、「勉強」の仕方について案内します。そして、「憲法」とはどのような法律か?ほかの法律と何が違うのかについて学びます。まず日本国憲法を読み、その全体と3つの基本原理を知ります。マーカーと六法、テキストが必要です。					
2) 「憲法」という法律は、大きな社会の変動とともに発展してきました。現在の平和主義と人権規定、違憲立法審査権を定める日本国憲法が、人類の歴史の中でどのような位置にあるのか、なぜ、どのようにして制定されたのかを学びます。					
3) まず、「尊属殺重罰規定違憲判決」を取り上げ、人間の「命」の平等と社会的身分の関係を学びます。					
4) 「法の下での平等」と実質的平等との間には難しい問題があります。貧富の格差、ジェンダーなど平等にかかわることを考えます。					
5) 「子どもの権利」に関する憲法の規定は、26条の「子どもの教育を受ける権利」だけです。現在、子どもの権利が国際的に権利条約として重視されるようになったのはなぜか?人類の歴史の中で、「子ども」はどのように扱われてきたのかをまず検討します。					
6) 「子どもの権利」の内容を、子どもの権利条約と憲法に基づき検討し、「幼保一元」の意義と問題点について考えます。					
7) 現代に生きる人間にとって自由とは何を意味するか?自由にも2種類があります。思想や良心の自由、表現の自由などの精神的自由と経済的自由です。まず、精神的自由について検討します。					
8) 経済的自由や財産権と貧富の格差の発生、社会権が21世紀になって誕生した意義を学びます。					
9) 生存権論①生存権の意義とその発生の歴史を学びます。そして、憲法25条の生存権は福祉の基本ですから、暗記してもらいます。					
10) 生存権論②朝日訴訟を取り上げ、生存権特に生活保護受給権について学び、現代の生活保護をめぐる問題を議論する。					
11) 人身の自由と刑事手続き①日本国憲法は、なぜ“人身の自由”を詳しく定めているか。無実であるのに、死刑判決などを受ける事態になるのはなぜか、刑事手続きの概要と問題点を知る。					
12) 人身の自由と刑事手続き②免田栄事件と島田事件という二つの冤罪事件を取り上げ、冤罪がなくなる日本の司法手続き、操作方法、施設の問題を考える。					
13) 憲法9条論①憲法9条(戦争放棄)条項は、なぜ誕生したか?第二次世界大戦とはどのような戦争であったかをしる。					
14) 憲法9条と現代日本の安全保障体制(アメリカの“核の傘”、日米安保条約による沖縄などの在日米軍基地、自衛隊の海外進出(集団的自衛権論)などの現実を認識する。					
15) 中国、韓国、北朝鮮、米ロに取り囲まれた日本の安全保障と東シナ海や南シナ海の軍事状況の問題、憲法9条の意義について、皆さんと議論する。					
試験) 筆記試験		[単位認定の方法及び基準]		【試験】	
[使用テキスト] 古川利通『日本の憲法』(改訂版) レジュメも用いる。		【授業内評価】		・筆記試験 (70%)	
[参考文献] 芦部信喜『憲法 第三版』有斐閣		・平常点評価 (30%)		・レポート ()%	
		・到達度の確認 ()%		・実技試験 ()%	
		・実技・作品発表 ()%		・面接試験 ()%	
[フィードバックの方法] 試験終了後に模範解答を開示する。		【備考】 講義を聴きながら、ノートをとることができる力を身につけよう。ノートをとることは、板書を移すことではありません、考えながらノート。			

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 情報教育入門		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 荻谷 由佳	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	単位	配当	1 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		学生から社会人までパソコン講師としての経験を活かし、実務に使える Word、Excel、PowerPoint の基礎やポイントを演習をはさみながら講義する。			
[授業の目的・ねらい] 今やビジネスや社会の中で必須となるパソコンの操作、文書作成、表計算、プレゼンテーションの基本操作を理解し、演習によって実務に活かせる知識や技術を身につけることを目的とする。					主に対応するDP (未選択)
[授業全体の内容の概要] パソコン (Windows11) の基本操作から、MicrosoftOffice (Word、Excel、PwerPoint) をアプリケーションごとに演習をおりませながら、具体的に課題を作成、完成できるように講義をすすめていく。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] Word、Excel、PowerPoint で、作りたい文書、表やグラフ、自分の考えを表現し人に伝えることができるスライドを、自らの力で確実に作成できるスキルを習得する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 講座全体の説明やオリエンテーション ①Windows11 のパソコンの基本操作、文字入力の練習 ②インターネット、セキュリティ、ファイルやフォルダ、USB の使い方			USB を順義してもらう。		
2) Word の基本操作①画面、文章入力、ページ設定、文書体裁、書式変更 あいさつ文、文字の挿入・削除、コピー・移動、印刷、保存。					
3) Word の基本操作②ワードアート、画像、図、テキストボックスの挿入、 文字列の折り返し、文字の効果、ページ罫線					
4) Excel の基本操作①画面、表作成、文字の入力、表のレイアウト (行・ 列)、セル、罫線の設定、シート・ブック、データの入力、オートフィル					
5) Excel の基本操作②関数、表の書式設定、グラフの挿入、行・列の操 作、データベース、データの並べ替え、抽出 (フィルタ)					
6) PowerPoint の基本操作①画面、テーマ、プレースホルダーの扱い方、 図形、SmartArt の挿入、画面切り替え、スライドショー、印刷					
7) PowerPoint の基本操作②アニメーション、プレゼンテーション、アプ リ間でのデータの共有、発表のための準備			次週のプレゼンテーションのための各自ネタ 探しやその素材集めや準備		
8) Word や PowerPoint 資料作りやプレゼンテーションを行う。			全員の前で成果物のプレゼンテーション		
9) 授業全体の中のポイント、総復習をする。					
[使用テキスト] 「よくわかる Word 2019 & Excel 2019 & PowerPoint 2019」 (富士通エフ・オー・エム株式会社 (FOM 出版)) 適宜、必要な場合は、資料・レジユメなどを作成のうえ配布する。					
[参考文献]特になし					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価 (50%)		講義した内容を理解し操作できているか、各学生を巡回しながら確認する。			
②到達度の確認 (20%)		機能の理解や操作の習得度を、授業内や提出課題において確認する。			
③実技・作品発表 (30%)		課題や演習などプレゼンテーションした時のその完成度をはかる。			
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 各講義時間にとりくむ演習や課題に対して、ポイントとなる機能や操作を適宜伝え、8 回目まで総復習を行う。					
[備考]各授業で作成した課題を保存するための USB メモリーを、一人 1 個、毎回の授業で持参してもらう。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 英語		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 高瀬 峻	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2単位	配当	1 Semester
<input type="checkbox"/> 実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生から高齢者まで英語指導した経験を活かし、円滑なコミュニケーション能力の能動的学習を図る					主に対応するDP 4
[授業の目的・ねらい] 英語圏の童謡や早口言葉等の学習を通し、生きた英語に触れながら、豊かな人間性、感性、異文化を考察できる。					
[授業全体の内容の概要] フォニックス学習や英語童謡などを通して英語に親しみ、正しい英語の発音を身につける。 また、中学レベルの文法を学び基礎英語力の向上を図る。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 英語の発音・構造を理解し説明ができる。 2. 保育園・幼稚園・福祉施設等で英語童謡を披露できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1)	発音講習Step1 母音 (6種)	実習・発音矯正			
2)	文法講義Step1 文型、品詞、名詞				
3)	発音講習Step2 二重母音	実習・発音矯正			
4)	文法講義Step2 動詞、人称と現在形			前回授業に対応する動画教材を視聴し、英文作成 (文法講義) (30分)	
5)	発音講習Step3 「Th」の発音	実習・発音矯正			
6)	文法講義Step3 三単現のS、代名詞			前回授業に対応する動画教材を視聴し、英文作成 (文法講義) (30分)	
7)	発音講習Step4 「L」と「R」の発音	実習・発音矯正			
8)	中間課題発表 (達成度確認日)			発音動画の撮影など課題提出を行うこと (30分)	
9)	文法講義Step4 形容詞、副詞			前回授業に対応する動画教材を視聴し、英文作成 (30分)	
10)	発音講習Step5 濁る「T」、消える「T」	実習・発音矯正			
11)	文法講義Step5 不定詞			前回授業に対応する動画教材を視聴し、英文作成 (30分)	
12)	発音講習Step6 リンキング、「F」と「V」	実習・発音矯正			
13)	発音講習Step7 声の高さ・イントネーション、早口言葉				
14)	課題発表準備 (質疑応答)、最終課題のチーム分けと課題曲選定				
15)	課題発表準備 (質疑応答)、総復習			課題曲の練習、発表準備 (1時間)	
[使用テキスト] プリント配布、動画教材					
[参考文献] ■バンクーバー発音の鬼が日本人のためにまとめたネイティブ発音のコツ33 ■マンガでわかる中学英文法					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価 (60 %)	授業の取り組み姿勢や態度で評価します。				
②到達度の確認 (%)					
③実技・作品発表 (15%)	課題の提出物とその内容で評価します。				
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (25 %)	お遊戯会を想定した英語童謡の発表を通して、母国語に関係なく楽しくコミュニケーションを取れる力が身についているかを評価します。				
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 課題発表について、改善点を試験期間終了後に開示					
[備考] 大学配布のアカウントでGoogle Classroomにログインできる状態で授業に臨んでください。					

*使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 体育 (講義)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 梶 久巳	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	2セメスター
□ 実務経験		堺市立中学校保健体育教諭			
[授業の目的・ねらい] ・生涯にわたり健康で有意義な生活を送るために、自分自身が健康保持・増進を主体的に向上させることを目標とする。体育の魅力に触れ、社会性を学びながらそれを日常生活につなげる力を養う					主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] 運動・スポーツの重要性について学習する。健康保持・増進し豊かなスポーツライフを実現するために体力の概念や運動処方について基本的な知識を理解し自分自身の生活に結び付けて考えることができる					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 健康で有意義な生活を送るため又、生活習慣病を防ぐために運動スポーツは欠かせず具体的に自分の生活に運動処方できる為基本的な知識を理解し自らの生活に結び付けて考えることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
1) 自分自身のスポーツ体験について振り返り相互に意見交換し検証する					
2) 生活習慣病にならない為の体育を学習する					
3) 生活習慣病にならない為の食育を学習する					
4) 生活習慣病にならない為の眠育を学習する					
5) 応急処置①人工蘇生法・心臓マッサージ、人口呼吸を実習する					
6) ②P-ICE 処置などの応急処置を実習する					
7) 学校周辺の安全マップを作成し登下校の安全を考える					
8) 各グループの安全マップの発表を到達度の確認とする					
試験)	第8回授業内に実施します。			[単位認定の方法及び基準]	【試験】
[使用テキスト]	幼児期運動指針等、適宜配布します。			【授業内評価】	・筆記試験 (%)
[参考文献]	授業時に適宜紹介します。			・平常点評価 (60%)	・レポート (%)
[フィードバックの方法]	言葉かけによりコミュニケーションをはかり課題解決のヒントとする。			・到達度の確認 (40%)	・実技試験 (%)
				・実技・作品発表 (%)	・面接試験 (%)
				[備考]	

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 体育 (実技)	授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 実技	授業担当者 梶 久巳・土佐 朝一・濱田義信
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 1 セメスター 卒業必修
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験		
[授業の目的・ねらい] 生涯にわたり健康で有意義な生活を送るために、自分自身の健康の保持・増進を養う能力を主体的に向上させることを目標とする。運動・スポーツを通してなかま意識や協調性を養う		主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] 運動・スポーツ・身体表現を通して身体を動かす気持ちよさを感じたり、仲間の良さを味わったりしながら運動そのもののおもしろさを学び、実践していく力を身につける。		
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 自分自身の健康の維持向上に必要なトレーニング方法を知るとともに、なかまで協力しながら表現活動のグループ発表ができる力をつける		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		
1) ラジオ体操		
2) 体力測定で今の自分自身の体力を知り今後のトレーニングにつなげる (班編成する)		
3), 4) 球技を楽しむ		
5), 6) 老若男女が取り組めるニュースポーツを体験できる (バスケ、球技を楽しむ)		
7), 8) ユニバーサルスポーツについての説明と実技 (卓球バレー)		
9), 10) 実技 (バケツ野球、キックベースボール)		
11), 12) 新しいユニバーサルスポーツの制作と発表		
13), 14) 新しいスポーツゲームを考える		
15)		
試験)	[単位認定の方法及び基準]	【試験】
[使用テキスト]	【授業内評価】 ・平常点評価 (60%)	・筆記試験 () % ・レポート () %
[参考文献] 生きている証、スポーツゲーム集	・到達度の確認 (40%) ・実技・作品発表 () %	・実技試験 () % ・面接試験 () %
[フィードバックの方法]	[備考]	

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 子どもの遊びと文化 I (入門)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 代田 盛一郎	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	1 Semester 必修
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 子どもの遊びと文化について、その基本的な考え方と必要な技能を、アクティ ブ・ラーニングを通して理解・体得する。また遊びの「楽しさ」「面白さ」について、自分自身の体験を 通して意識化してみます。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 「子どもにとっての遊び」「保育としての遊び」「遊びの援助/指導」について、理論や事例を通じて学びます。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ①子どもと遊べる人になる、②いろんな遊びを知り自分のものにする、③子どもの遊びを援助できる人になる、の3点を 意識できるようになることを達成課題とします。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) イントロダクション～“遊び”ってなんだ？			授業の振り返りとリアクションペーパー作成		
2) 遊びの“固有性”と“普遍性”を楽しむ			(以下、同じ)		
3) “偶然性”を遊ぶ					
4) “ディスカバリー”を遊ぶ					
5) つくって遊ぶ					
6) みんなで遊ぶ					
7) 遊びを“創る”					
8) ふりかえり・まとめ					
[使用テキスト] プリント配布					
[参考文献] 授業内で紹介					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価 (60%)					
②到達度の確認 (20%)					
③実技・作品発表 (20%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 授業内に行う					
[備考] 動きやすい服装で受講すること。遊びますよ。 内容によってフィールドワークを実施します。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 子どもの遊びと文化Ⅱ (遊び・プレイワーク)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 代田 盛一郎、他	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 保育者の子どもの遊びへの関わりについて、「プレイワーク (play work) 」の概念や基本原理やその実践を通して学ぶことを目的とする。また、子どもの遊びに関する企画・運営について、演習を通して実際に体験する。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] さまざまな遊びについて、実際に遊びながらその援助/指導していく力を身につけていくプログラムを展開します。また、遊びイベントの企画・運営を実際に行います。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 「子どもにとっての遊び」「保育としての遊び」「遊びの援助/指導」について理解し、①子どもと遊べる人になる、②いろんな遊びを知り自分のものにする、③子どもの遊びを援助できる人になる、の3点を達成課題とします。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 子どもと遊び (その1)			授業の振り返りとリアクションペーパー作成		
2) 子どもと遊び (その2)			(以下、同じ)		
3) プレイワークってなんだ? (その1)					
4) プレイワークってなんだ? (その2)					
5) 保育と遊び (その1)					
6) 保育と遊び (その2)					
7) 子どもの権利と遊び					
8) ふりかえり・まとめ					
[使用テキスト] プリント配布					
[参考文献] 授業内で紹介					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価 (60%)		①平常点評価 (60%)			
②到達度の確認 (20%)		②到達度の確認 (20%)			
③実技・作品発表 (20%)		③実技・作品発表 (20%)			
【定期試験】					
①筆記試験 (%)		①筆記試験 (%)			
②レポート (%)		②レポート (%)			
③実技試験 (%)		③実技試験 (%)			
④面接試験 (%)		④面接試験 (%)			
[フィードバックの方法] 授業内に行う					
[備考] 動きやすい服装で受講すること。遊びますよ。 内容によってフィールドワークを実施します。					

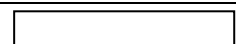
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 文章表現		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 杉山 和正	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター
□ 実務経験		小学校教員の経験を活かし、子どもの文章表現にも触れながら講義をする。			
[授業の目的・ねらい] 様々な文章の鑑賞や表現活動を通じて、言語感覚を養い、文章表現力を伸ばすことができる。文章表現から筆者の思いを読み取り、豊かな感性を身につけることができる。					主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] 作文、エッセイ、詩、川柳、短歌などの鑑賞を通じて、文章表現の魅力について理解する。自ら創作し、お互いの作品を鑑賞することで、人間理解を深め、さらに豊かな文章表現力を身につけていく。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標) 人間 (子ども) の成長にとって言葉の果たす役割を理解するとともに、様々な文章を読むことや書くことで、感性や人間性をみがき、文章表現力を高めることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) ガイダンス、文章表現の魅力、良い文章とは何か、「文は心」について具体的作品を通し学ぶ。自己紹介文を書く。			「大学志望動機」「今、夢中になっているもの」を書けるようにして臨む。		
2) 自己紹介文の交流、文章表現についての基礎学習、子どもの文章を鑑賞する。日常体験を書くことの意味を学び、実際に書く。			前時の課題を仕上げて臨む。		
3) 日常体験 (大学の行き帰りで見たもの、印象深いできごと) を書いた作品を鑑賞する。(以下、毎時間) 「心に残った先生」をテーマに書く。			自分が出会った最も印象深い教師をピックアップし、簡単にメモ書きしておく。		
4) 「心に残った先生」の作品を鑑賞し、子どもの捉え方及び「先生」の仕事について学ぶ。			前時の課題を仕上げて臨む。		
5) 詩の鑑賞と創作 (グループワーク)					
6) 川柳の鑑賞と創作			川柳について調べる。		
7) 短歌の鑑賞と創作			「独楽吟」について調べる。		
8) 文章の書き方 (何をどう書くか、題材、構想、記述、推敲) を学ぶ。			エッセイの題材について考え始める。		
9) 様々なエッセイを読み、題材について考える。			引き続きエッセイの題材について考える。		
10) エッセイを書く。			エッセイの題材を決めて臨む。		
11) 書いた作品を鑑賞する。①			作品感想のレポート作成		
12) 書いた作品を鑑賞する。②			作品感想のレポート作成		
13) 教育問題、時事問題、社会問題に関する文章を読み、自分の意見をまとめる。					
14) 書いた意見について交流する。			前時の課題を仕上げて臨む。		
15) 授業のまとめ「文章表現にとって何が大切か」を理解する。					
[使用テキスト] レジュメ、資料をプリントで配布する。					
[参考文献] 随時、授業で紹介する。					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価 (50%)		毎時間のレポート提出状況			
②到達度の確認 (50%)		「紹介文」「印象深い先生」「エッセイ」などの内容			
③実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 提出された課題について、毎授業時解説し、フィードバックを行う。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 保育原理		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 大内田 真理	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター
☑ 実務経験		保育士の経験を活かし、保育所の果たす役割や方法を具体的事例に基づき講義をする。			
[授業の目的・ねらい]					主に対応するDP
1. 保育の意義、目的、理念、役割、法令及び制度を学び、子どもの最善の利益を尊重できるようになる。					1、2
2. 保育の基本原則、目標と方法、子育て支援を理解し、実践に生かす方法を考察できる。					
3. 保育の思想と歴史、現状や課題、保育者の専門性を知り、専門職としての倫理性や人間性を養う。					
[授業全体の内容の概要]					
・保育の目的・目標・役割、保育制度、保育の基本原則、保育方法、子育て支援などの保育の基本について講義をする。					
・保育の思想と歴史、わが国と諸外国の保育の現状と課題について解説する。					
・子ども・保育に関する事例から保育問題を考察することで、自身の子ども観、保育観を形成できるよう解説する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)]					
1. 保育所における保育の理念、法的枠組み、歴史的変遷を理解し、保育の社会的役割について説明できる。					
2. 基礎技術など保育活動全般にわたる保育の具体的な内容について説明し、実践に生かすことができる。					
3. 保育者の専門性、倫理性を理解し、保育の現状・課題を考慮し子ども最善の利益を尊重する意識がもてるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学習の内容]		
1)	オリエンテーション 保育の目的、意義、保育の理念と概念		解説書 p. 12-18、確認テストの復習、各 60 分		
2)	保育に関する法令及び制度① 制度、法令、実施体系		解説書 p356-359、確認テスト復習、各 60 分		
3)	保育に関する法令及び制度② 事例のディスカッション		解説書 p356-359、確認テスト復習、各 60 分		
4)	保育所保育に関する基本原則 養護と教育の一体、保育の目標、		解説書 p. 18-24、確認テストの復習、各 60 分		
5)	乳幼児期に育みたい資質・能力① 3歳児未満児の保育		解説書 p. 60-63、確認テストの復習、各 60 分		
6)	乳幼児期に育みたい資質・能力② 3歳児以上児の保育		解説書 p. 64-83、確認テストの復習、各 60 分		
7)	保育の社会的役割と責任① グループ活動 (環境を通じた保育)		解説書 p. 24-29、確認テストの復習、各 60 分		
8)	保育の社会的役割と意義② 保育士の倫理観と専門性		「全国保育士会倫理綱領」を熟読、各 60 分		
9)	諸外国の保育の現状と課題① アメリカ、イギリスの保育		アメリカの保育を調べ、まとめる、各 60 分		
10)	諸外国の保育の現状と課題② NZL、SWE の保育		NZL の保育を調べ、まとめる、各 60 分		
11)	保育の思想と歴史的変遷① 子ども・保育の思想と歴史		保育の歴史を調べ、まとめる、各 60 分		
12)	保育の思想と歴史的変遷② 日本の保育の思想と歴史		日本の保育の歴史を調べ、まとめる、各 60 分		
13)	子どもの理解に基づく保育の過程 計画・実践・記録、省察		解説書 p. 38-50、確認テストの復習、各 60 分		
14)	保育の目標と方法 グループワーク (あそびの実践)		実習の事例まとめ、確認テスト復習、各 60 分		
15)	まとめ プレゼンテーション (保育の現状と課題)		14 回分の授業プリントの復習、各 60 分		
[使用テキスト] 授業内で必要な資料を配布する。					
[参考文献] 田岡由美子編 『ともに生きる保育原理』 みらい 2018 年 厚生労働省編 『保育所保育指針解説書』 フレーベル館 2018 年 文部科学省 『幼稚園教育要領解説書』 フレーベル館 2018 年 内閣府 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』 フレーベル館 2018 年					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価 (20 %)	授業における提出物、受講態度等により評価を行う。				
②到達度の確認 (20 %)	毎回、授業終了前に到達度確認テストより評価を行う。				
③実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (60 %)	筆記による試験を行う (持ち込み不可)。				
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 到達度確認テスト、定期試験の解答は試験終了後に開示する。					
[備考] 事前学習は『保育所保育指針解説書 (解説書)』を熟読する。授業内容について調べる。(60 分) 事後学習は配布資料を読み、到達度確認テストで復習をする。調べたこと、学んだことをまとめる。(60 分)					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 教育原理 (制度・経営的事項を含む)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 今滝 憲雄	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター
□ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 教育の意義、目的、子ども家庭福祉との関連、歴史、制度等を理解し、説明できるようになる。					主に対応するDP 1,3
[授業全体の内容の概要] 教育の意義、目的、子ども家庭福祉との関連、歴史、基礎的理論、制度、実践、生涯学習等について学ぶ。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 授業で学んだ事項について、学んだ知識に基づいて説明することができる。					
[準備学習の内容] 教育の意義、目的、子ども家庭福祉との関連、歴史、制度等についてミニレポートにまとめる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1) オリエンテーション 教育原理の目的・ねらい、概要、到達目標、評価などについて説明を受ける。					
2) 教育の意義と目的 (その①) 教育の意義と目的について概括する。					
3) 教育の意義と目的 (その②) 教育の意義と目的について、教育基本法等の関連法規を中心に学習する。					
4) 保育と教育について (その①) 保育所と幼稚園に関する法律や指針、制度、施設等のしくみとめざすべき方向性について学ぶ。					
5) 保育と教育について (その②) 保育と教育の関連、特徴、保育所と幼稚園それぞれが果たしている役割を学習する。					
6) 教育思想および子ども観の変遷 (その①) 教育思想の歴史について、ヨーロッパを中心に学習する。					
7) 教育思想および子ども観の変遷 (その②) 引き続き、教育思想の歴史について、ヨーロッパを中心に学習する。					
8) 日本における子ども観の変遷について 日本社会で歴史的に子どもがどのように認識されてきたか学習する。					
9) 日本における学校教育制度の歩み (その①) 明治から戦前に至る日本の学校教育制度の成立と歩みについて学ぶ。					
10) 日本における学校教育制度の歩み (その②) 日本国憲法のもとでの教育と学校、制度と内容、教育行政、教員制度、教育法規などについて学ぶ。					
11) 諸外国における教育と学校制度 諸外国の教育・学校制度の特色、教育状況について学習する。					
12) 子どもの権利条約と子どもの人権について: 子どもの権利条約の理念、内容、この条約の意義について学ぶ。					
13) 教育の実践と今日の課題 (その①) 教育課程および学習指導要領の役割と位置づけ、教育の今日的課題などについて学ぶ。					
14) 教育の実践と今日の課題 (その②) 教育目標、教育方法、教育評価、学級づくり、生活指導などについて学ぶ。また、生涯学習の意義、現状と課題を学ぶ。					
15) まとめ これまでの学びを振り返り、教育への理解を深める。					
試験)		[単位認定の方法及び基準]		【試験】	
[使用テキスト]『新基本保育シリーズ②教育原理』(公益財団法人 児童育成協会監修。矢野誠慈郎・北野幸子編集)		【授業内評価】		・筆記試験 () %	
		・平常点評価 (70 %)		・レポート () %	
[参考文献]保育所保育指針、幼稚園教育要領など。その他、講義内で紹介する。		・到達度の確認 (30 %)		・実技試験 () %	
		・実技・作品発表 () %		・面接試験 () %	
[フィードバックの方法] ミニレポート等に対してフィードバックを行う。		【備考】 到達度確認の課題の他、平常点としてミニレポート等授業内課題の提出を求める。			

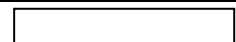
※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

--

子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 発達心理学		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 野村 朋	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
☑ 実務経験		発達相談員			
[授業の目的・ねらい] 「子どもの育ちを支える」ために発達のみちすじと発達に応じた保育・教育のあり方について理解し、人間の持つ可能性と価値について考えを深めることを目的とする。					主に対応するDP 1,2
[授業全体の内容の概要] 発達のとらえ方、発達のみちすじ、発達に応じた保育・教育のあり方について基礎的な知識を学ぶ					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 子どもの発達を捉える視点をもって保育を行うために基礎的な発達の概念、理論について学ぶ					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 子どもの発達に関する基本を学ぶ：保育所保育指針での発達			保育所保育指針を読む		
2) 子どもの発達と環境についての関係について考える 発達理論と子ども観・保育観の関係について考える			配布された資料を読む		
3) 基本的信頼感の形成について学ぶ 0歳前半期の発達と保育・教育：乳児期後半期の3つの発達段階の特徴を理解する。			事前に提示された課題に取り組む		
4) 社会情動的発達について学ぶ 乳児期後半期の3つの発達段階の特徴を理解する。特に8か月頃の「人見知り」の発達の意義について理解する			事前に提示された課題に取り組む		
5) 身体機能と運動機能の発達について学ぶ 乳児期の自我の発達			事前に提示された課題に取り組む		
6) 認知の発達について学ぶ 乳児期の質的転換期の発達			事前に提示された課題に取り組む		
7) 言語の発達について学ぶ 幼児期への飛躍的移行			事前に提示された課題に取り組む		
8) 乳幼児期の学びに関わる理論の理解 3歳児の発達と保育・教育			事前に提示された課題に取り組む		
9) 心の理論の獲得；4歳児の発達と保育・教育、『自制心の獲得』の過程と意義を理解する			事前に提示された課題に取り組む		
10) 学力の土台を築く幼児期の総まとめ；5歳児の発達と保育・教育			事前に提示された課題に取り組む		
11) 接続期の発達と保育・教育 幼児教育と学校教育の接続期を学ぶ			事前に提示された課題に取り組む		
12) 児童期の発達について学ぶ			事前に提示された課題に取り組む		
13) 思春期・青年期の発達の課題 自らを振り返る契機とする			事前に提示された課題に取り組む		
14) 青年・成人期の発達 人間発達の可能性について考える			事前に提示された課題に取り組む		
15) 現代社会における保育の課題 これからの保育の心理学について			事前に提示された課題に取り組む		
[使用テキスト] プリントを適宜配布					
[参考文献] 「子どもの発達と診断」1～5 田中昌人・田中杉恵, 大月書店 「発達の扉 上」白石正久 かもがわ出版					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価 (30 %)	小レポートの提出と内容及び小テスト				
②到達度の確認 (%)					
③実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (70 %)	講義内容の理解と知識を問う				
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 模範解答を公開する					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

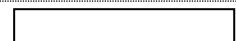
授業のタイトル (科目名) 教育課程論		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 今滝・高砂	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
□ 実務経験		なし			
[授業の目的・ねらい] 子どもの育ちを支える人となるために、教育課程に関する知識・技能を理解し、説明できるようになる。					主に対応するD P 1
[授業全体の内容の概要] 保育・幼児教育における計画・記録・評価の意義と位置づけ、方法について学ぶ。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 保育・幼児教育における計画・記録・評価について、学んだ知識に基づいて説明することができる。					
[準備学習の内容] 保育・幼児教育における計画・記録・評価について、ミニレポートにまとめる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1) オリエンテーション 教育課程論の目的・ねらい、概要、到達目標、評価などについて説明を受ける。					
2) 保育・教育における計画・記録・評価 保育・教育における計画・記録・評価の位置づけと、それらの関係について学ぶ。					
3) 「子どもの姿」と教育課程① 保育・教育における計画・記録・評価と「子どもの姿」の関係について学ぶ。					
4) 保育所における計画 保育所保育指針、全体的な計画、長期の指導計画について学ぶと共に、短期の指導計画の概要を学ぶ。					
5) 子どもの発達と保育・教育の計画 保育・教育の計画を考えるうえで必要な、子どもの発達に関する知識を学ぶ。					
6) 保育・教育における計画① 指導計画における「子どもの姿」「ねらい」「内容」について、書き方や注意点を学ぶ。					
7) 保育・教育における計画② 指導計画における「環境の構成」「予想される子どもの姿」「保育者の援助・配慮」について、書き方や注意点を学ぶ。					
8) 保育・教育における計画③ 指導計画の書き方について振り返ると共に、学びを深める。					
9) 保育・教育における記録① 保育・教育における記録の意義と役割について学ぶとともに、記録における一日の流れの書き方や注意点を学ぶ。					
10) 保育・教育における記録② 記録における、子どもとの関わりの具体的内容、振り返り等の書き方や注意点を学ぶ。					
11) 保育・教育における記録③ 記録の書き方について振り返ると共に、学びを深める。					
12) 保育・教育における評価 保育・教育における評価の意義と方法について学ぶ。					
13) 幼稚園・認定こども園における教育課程 幼稚園・認定こども園における教育課程について、保育所との異同に着目しながら学ぶ。					
14) 「子どもの姿」と教育課程② 「子どもの姿」を捉えて計画・記録・評価を行うための知識・技能について学ぶ。					
15) まとめ 講義全体のまとめを行い、保育・幼児教育における計画・記録・評価への理解を深める。					
試験)		[単位認定の方法及び基準]		【試験】	
[使用テキスト] 岩崎淳子他『教育課程・保育の計画と評価』萌文書林、2018		【授業内評価】 ・平常点評価 (100 %) ・到達度の確認 (%) ・実技・作品発表 (%)		・筆記試験 (%) ・レポート (%) ・実技試験 (%) ・面接試験 (%)	
[参考文献] 必要に応じて授業内で紹介する。					
[フィードバックの方法] ミニレポート等に対してフィードバックを行う。		[備考] 平常点としてミニレポート等授業内課題の提出を求める。			

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 保育内容 (総論)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 高砂朋子
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当 1 セメスター
卒業必修				
☑ 実務経験				
[授業の目的・ねらい] 1. 保育の目標、発達過程、保育のねらい及び内容等を関連付けて保育の全体的な構造を学習する 2. 子ども集団の特性を踏まえ、保育の計画と記録の観点を学び、実習における指導計画の基本を知る 3. 子どもの実態や背景から、子どもの生活全体を通して養護と教育が一体的に展開する保育を理解する 4. 保育環境と保育の多様な展開について具体的に学び、実習への期待につなげる。5. 手あそび・ふれあいあそび・絵本の読み聞かせ等、保育文化に触れながら楽しく交流し、保育技術の基礎を習得して実演できるようになる。				主に対応するD P 1
[授業全体の内容の概要] 授業の目的・ねらいを達成するため、子ども理解、発達過程、保育の計画、環境構成、援助のあり方等についての知識や理解が必要である。視聴覚教材等も使用して、具体的に学びながら子ども観・発達観・保育観の基礎を養う。発達・年齢にあった手あそび・ふれあいあそびの基礎を習得し、実習等で実践できるようにする。(教材制作予定)				
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 保育内容を多様な視点で総合的に学び、子ども理解や保育方法 (指導・援助) についての基礎を習得する。保育文化に触れ、楽しく交流しながらその基礎を実演できる。保育に関する新聞記事をスクラップし保育問題を考察する。				
[準備学習の内容]				
<p>(事前学習) 保育所保育指針の第1章・第2章を読んでおくこと。子ども・保育問題に関する社会事象に目を向け、新聞やニュースを見聞きしておくこと。新聞から記事を1つ取り挙げておく。第1講に持参し説明を受ける。(1時間)</p> <p>(事後学習) 授業内容を振り返り、授業内で配布された資料をまとめて整理する。授業で取り組んだ乳幼児のあそびについてまとめ、自主テキストの冊子を作成する。(1時間)</p>				
[授業の日程 (担当者) と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学習の内容の詳細]	
1) 本講義のオリエンテーション 保育内容における「総論」の位置づけを知る。家庭と保育所・幼稚園・こども園について学ぶ。保育問題に関するスクラップの作業に取り組むための説明を受ける。手あそび・ふれあいあそび・絵本の交流(先輩のDVD 教材視聴)について学ぶ。			子ども・保育問題に関する社会事象を意識し、新聞やニュースを見聞きしておくこと。	
2) 保育の全体構造と保育内容の理解 手あそび・ふれあいあそび・絵本の交流のグループワークを行う。 保育は「養護」と「教育」が一体的に展開し、遊びや生活を通して子ども達が体験しながら学ぶことを知る。			第1講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。	
3) 遊びによる総合的な保育 手あそび・ふれあいあそび・絵本の交流のプレゼンテーションを行う。子どもの主体的な活動としての遊び、興味や関心を捉え遊びの楽しさを共有することなど、実践例を通して考える。			前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。	
4) 保育内容と子どもにそった「指導計画」のあり方「指導計画」(部分実習)の基礎を学習する※実習指導と連携する (共通テキスト『指導計画の考え方・立て方』『実習ハンドブック』活用)			前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。	
5) 保育所保育指針・幼稚園教育要領に基づく保育の基本及び保育内容の理解 手あそび・ふれあいあそび・絵本の交流のプレゼンテーションを行う。子どもの実態や生活背景を学び、養護と教育を一体的に行う保育活動について理解する。			前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。	
6) 保育の全体構造と保育内容の理解 視聴覚教材の視聴し、保育所の1日を理解する。			前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。	
7) さまざまな保育課題と保育内容 保育所・幼稚園における多様な保育ニーズへの対応と現状を知る。学んだことを具体化して子ども観・発達観・保育観の基礎を養う。			前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。	
8) 授業のまとめ・到達度の確認。正答について解説し、保育技術へのコメントを行う。 まとめを行い到達度の確認をする。授業で取り組んだ内容を理解し、授業のまとめを資料集(教材)として製本を予定する。			全体を振り返り、到達度の確認に臨めるよう復習する詳細は授業内に説明する。	
[使用テキスト]適宜、必要なプリントを配布する。「保育所保育指針解説書」				
[参考文献] 「子ども・子育て白書」内閣府(最新版)、「保育白書」ひとなる書店、「保育小事典」大月書店、「保育用語辞典」ミネルヴァ書房、「保育所保育指針解説書」「幼稚園教育要綱解説書」「社会福祉小六法」「子どもと楽しむ遊びわらべうた」/『子どもと楽しむ自然体験活動』光生館 神長美津子他 日本ネイチャージョブ協会監修/授業内で必要に応じて絵本、著書を紹介する				
[評価の実施方法と基準]				
【平常試験】		【定期試験】		
① 平常点評価 (40%)		①筆記試験 (%)		
② 到達度の確認 (60%)		②レポート (%)		
③ 実技・作品発表 (%)		③実技試験 (%)		
④ 面接試験 (%)				
[フィードバックの方法] レポート課題提出後に参考例を開示する。		最終講：正答について解説しコメントを行う。		
[備考]				

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 音楽1		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 井下 べに	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	1セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 子どもの生活と遊びを豊かに展開するために、音楽的な表現活動の中で子どもたちにとって最も身近な「うた」を通じて、保育・幼児教育における音楽のもつ役割を理解し、保育者として必要となる基礎的な音楽理論の知識および声楽の技能を習得する。					主に対応するD.P. 1
[授業全体の内容の概要] 当該科目では、基礎的な音楽理論の知識や声楽の技術を習得し、音楽的な表現活動において必須の音楽的語彙や音楽的感覚の獲得を目指す。また、獲得した知識および技術を用いた「うた」による協働的な音楽活動を通じて、人の声や音楽に対する感性を育み、集団の中で他者とつながる力を培う。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 基礎的な音楽理論の知識や声楽の技能を習得することで、ピアノ奏法や読譜力、伴奏・弾き歌い技術の向上にもつながります。授業内で理解できなかった専門用語や音楽理論に関する文献を読み、知識・技能の定着を図ること。学習した箇所ならびに配布プリント等の内容について再確認すること。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション 本授業の目的、計画、楽典基礎および「うた」の導入			こどものうたについて調べる。		
2) 音楽理論の基礎知識/声楽基礎① 音名と階名、楽譜と鍵盤の対応/呼吸と発声、ソルフェージュ			音名や音部記号について予習する。		
3) 音楽理論の基礎知識/声楽基礎② 音符と休符/歌唱の実践① (春のうた)			音符や休符などについて予習する。 春の歌について調べる。発声の復習をする。		
4) 音楽理論の基礎知識/声楽基礎③ 到達度の確認①/ソルフェージュ、リズム打ち			1~3回の授業について復習し、到達度確認テストに備える。		
5) 音楽理論の基礎知識/声楽基礎④ 拍子/歌唱の実践② (夏のうた)			拍子について予習する。 夏の歌について調べる。		
6) 音楽理論の基礎知識/声楽基礎⑤ 演奏記号/歌唱の実践③ (園生活のうた)			演奏記号について予習する。 園生活での歌について調べる。		
7) 音楽理論および声楽に関する音楽活動 到達度の確認②協働的な音楽活動に向けたグループワーク			5~6回の授業について復習し、到達度確認テストに備える。		
8) 音楽理論および声楽に関する実技発表 授業のまとめ (プレゼンテーション: グループ発表)			グループでの発表ができるよう練習しておく。		
[使用テキスト] 『いろいろな伴奏で弾ける選曲 こどものうた 100』チャイルド本社、 『保育士、幼稚園教諭を目指す人たちのため音楽の基礎と表現~楽典とソルフェージュ』楠井淳子著 ふくろう出版 ※その他、随時教材プリントを作成し配布する					
[参考文献] 細田淳子 (2018) 『あそびうた大全集 200』永岡書店、 今泉明美、有村さやか編 (2017) 『子どものための音楽表現技術』萌文書林。					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価 (20%)	授業内課題、授業態度				
②到達度の確認 (40%)	到達度確認筆記テスト				
③実技・作品発表 (40%)	実技発表				
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 授業内レポートや提出された課題については、授業内および次回の授業時にフィードバックを行う。また、質問に対しては、授業内および次回の授業時に全体に向けて回答・説明し、必要に応じて質問者に個別に回答・説明する。					
[備考]					

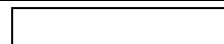
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) ピアノ 1		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 実技・演習		授業担当者 井下・野館・猪瀬・初瀬川	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 1	セメスター	必修・	
□ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 受講者のピアノ技能の習熟度に応じた学習教材の独奏や、歌唱教材の伴奏・弾き歌い技術を習得しながら、ピアノ演奏に慣れていく。保育・幼児教育現場で必要となるピアノ表現技術の獲得に加えて、音楽理論の学習についても楽典に関する基礎的な内容を取り扱うことで、学習教材・歌唱教材の理解を深めるとともに、読譜力の基礎を習得する。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 受講者のピアノ技能の習熟度に応じた個別レッスンを展開し、基礎的なピアノ奏法や読譜力に加えて、保育・幼児教育現場で求められる表現力の習得を目指す。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 基礎的なピアノ奏法や読譜力を習得するとともに、コードネーム奏を主とした簡易伴奏ができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション 本授業の目的、計画、グループ分け			これまでのピアノ学習曲について復習する。		
2)～4) ピアノ独奏に関する基礎的表現① バイエル 10～20 番程度/基礎的な読譜力の習得			授業時間外の日々の練習が大変重要である。練習に関する質問や、課題曲の範奏等について積極的に申し出る。		
5)～7) ピアノ伴奏・弾き歌いに関する基礎的表現 ① 簡易伴奏法の理解 (コードネームの基礎的理解)			授業時間外の日々の練習が大変重要である。練習に関する質問や、課題曲の範奏等について積極的に申し出る。		
8) ピアノ独奏/ピアノ伴奏・弾き歌いに関する実技発表 授業の中間まとめ: プレゼンテーション (演奏発表)			人前での演奏ということを特に意識して、十分に演奏曲を準備する。		
9)～10) ピアノ独奏に関する基礎的表現② バイエル 20～40 番程度/基礎的な読譜力の習得			授業時間外の日々の練習が大変重要である。練習に関する質問や、課題曲の範奏等について積極的に申し出る。		
11)～12) ピアノ伴奏・弾き歌いに関する基礎的表現② 基礎的な弾き歌い技術の習得 (ハ長調)			授業時間外の日々の練習が大変重要である。練習に関する質問や、課題曲の範奏等について積極的に申し出る。実技発表への準備。		
13)～14) ピアノ独奏/ピアノ伴奏・弾き歌いに関する基礎的表現③ バイエル 40～60 番程度/基礎的な弾き歌い技術の習得 (ハ長調)			授業時間外の日々の練習が大変重要である。練習に関する質問や、課題曲の範奏等について積極的に申し出る。実技発表への準備。		
15) ピアノ独奏/ピアノ伴奏・弾き歌いに関する実技発表 授業のまとめ: プレゼンテーション (演奏発表)			人前での演奏ということを特に意識して、十分に演奏曲を準備する。		
[使用テキスト] 『バイエルピアノ教則本』音楽之友社、『いろいろな伴奏で弾ける選曲 こどものうた 100』チャイルド本社※随時教材プリントを作成し配布する					
[参考文献] 『ハノンピアノ教則本』全音楽譜出版社、『ブルグミュラー25の練習曲集』全音楽譜出版社、『ソナチネアルバム』全音楽譜出版社、『ソナタアルバム』春秋社、『こどものうた 200』チャイルド本社、『続こどものうた 200』チャイルド本社、『新版和音伴奏による幼児のうた 100 曲』全音楽譜出版社					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価 (30%)	授業態度、授業準備 (練習記録) など				
②到達度の確認 (30%)	レポーター (練習曲リスト)、演奏技術、表現技術				
③実技・作品発表 (40%)	演奏発表				
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 毎回の授業において担当教員より受講者の習熟度に応じて課題に対するフィードバックを行う。					
[備考]					

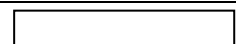
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。子ども福祉学科



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 造形 I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター
□ 実務経験		幼稚園での造形指導教員の経験を活かし、幼児期の造形活動について演習と講義をする。			
[授業の目的・ねらい] 子どもの育ちを支える人となるため、保育者として、幼児期における造形活動の重要性を学習し、子供の豊かな心を育むための造形活動における基礎的な知識と技能を習得し、その習得した造形活動を現場で実践できる。					主に対応するD P 1
[授業全体の内容の概要] 幼児期の造形活動を援助できるように、①幼児期にふさわしい基本的な造形技法や、造形活動に必要なさまざまな教材の基本的な使い方を示し、学生は自分自身の作品を制作、提出する。②乳幼児の発達と描画活動について講義し、学生の提出したプリントによって学生の理解度を知る。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ①造形活動におけるさまざまな教材の基礎知識や造形知識、技法を習得し、絵の具やパスを使いこなせ、幼児の造形活動の実践に生かすことが出来る。②乳幼児の発達と描画活動についての関係を理解し、説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 幼児教育の中の造形活動について話し合う。鉛筆による作品制作。イ			造形セットの点検し、持参する。		
2) 色彩の基礎理論と絵の具の基本的な使い方を学び、色相環制作をする。			パレットや筆フキを持参する。		
3) 12色相環、明度、補色関係の意味を理解し、絵の具で表を完成する。			前回の授業で学んだ事を復習してくる。		
4) パスについての知識とさまざまな基本技法①を習得する。			子供達の絵の中でパスの使い方を見る。		
5) パスについての知識とさまざまな基本技法②を習得する。					
6) 学習したパスの技法を使って課題を制作する。			各自のハサミを準備して持参する。		
7) 「私の居る不思議な花の咲く空想の世界」をテーマに空想画制作する。			前回の課題を完成させる。今回に必要。		
8) 前回の空想画を完成させ、その物語を作り作品と一緒に提出する。			制作中の空想画の物語を考えてくる。		
9) 折り紙、切り絵の基本技法①を習得する。					
10) 折り紙、切り絵の基本技法②を習得。新聞紙で楽しいTシャツ制作①			折り紙を準備する。		
11) 新聞紙で楽しいTシャツ制作②をする。			次回でTシャツ作品を完成する準備をする。		
12) 作品完成と各自制作したTシャツの説明と他作品の鑑賞をする。エ					
13) 「子どもの発達と描画活動」の第1回目講義。プリントに記入する。			子供達の絵を実際や本で鑑賞してくる。		
14) 「子どもの発達と描画活動」の第2回目の講義。プリントに記入する。			前回の講義のプリントを完成させておく。		
15) 色彩と抽象形態と人間の感情の関わりについて学習し、作品制作。			折り紙を準備持参する。		
[使用テキスト] テキスト不使用。 造形個人持ちセット (スケッチブック。トータルカラー。絵の具。クレパス。筆。糊。等) 持参					
[参考文献] 「子どもの発達と描く活動」新見俊昌著 かもがわ出版					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
① 平常点評価 (100%)	提出された全課題作品の点数と授業内の学習態度の点数の合計。				
②到達度の確認 (%)					
③実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 各提出作品にコメントを返す。「子どもの発達と描画活動」プリントは確認し正答を書き、学生に返却する。					
[備考]					

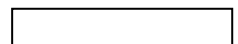
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 幼児体育 I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者	
授業の回数	15回	時間数(単位数)	1単位	配当	2 Semester 卒業必修
□ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。幼児期の発育発達段階や運動機能の発達をふまえ、運動・表現遊びの意義・役割や内容、指導方法等を理解し、実践を構想することができる。また、運動・表現遊びで活用する用具や遊具の特性を理解し、運動・表現遊びの留意点について理解し、説明することができる。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] さまざまな用具や教材を用い、各領域の運動・表現遊びの内容を理解しつつ、各種の指導法を実技と講義を併用しながら学習する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 発達を踏まえた運動・表現遊びの指導法を習得し、指導のあり方・進め方について説明できる。また運動・表現遊びの実践を構想することができる。					
[準備学習の内容] 乳幼児の発達に関する文献にあたり、各年齢の運動面における発達の特徴について学習しておくこと。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1) オリエンテーション 授業の概要を理解するとともに、運動遊びおよび表現遊びの意義を理解し説明できる。					
2) 子どもの運動遊び・表現遊びの必要性について 発育発達に応じた運動・表現遊びの意義について説明できる。					
3) 表現遊び① リズム体操の指導・援助について理解し説明できる					
4) 表現遊び② 表現遊びの展開方法、指導・援助について理解し説明できる。					
5) 表現遊び③ リズム体操・表現遊びの指導・実践ができる (模擬保育)。					
6) 操作性の遊具を使った遊びとレクリエーション① ボールやフープなどの遊具を使用した運動遊びのねらいや展開の方法がわかり説明できる。					
7) 操作性の遊具を使った遊びとレクリエーション② ボールやフープなどの遊具を使用した運動遊びの指導・実践ができる (模擬保育)。					
8) 身近な素材を使った遊びとレクリエーション① 新聞紙や布、ゴム紐など身近な素材を使用した運動遊びのねらいや展開の方法がわかり説明できる。					
9) 身近な素材を使った遊びとレクリエーション② 新聞紙や布、ゴム紐など身近な素材を使用した運動遊びの指導・実践ができる (模擬保育)。					
10) ミニ運動会① (企画) 園行事としての運動会の意義を理解し、グループごとに運動会種目を企画しねらいを説明できる。					
11) ミニ運動会② (実践) 各グループで係分担を決め、互いに協力しながら、運動会を安全・円滑に運営し、実践できる。					
12) ミニ運動会③ (振り返り) 運動会の実践を通してわかったこと、気づいたことをふり返り、相互に意見交換することができる。					
13) バスケットボール① (ゲストスピーカー) レクリエーションスポーツを体験することにより、子どもの運動遊びを通じた仲間作りに活用し実践できる。					
14) バスケットボール② (ゲストスピーカー) レクリエーションスポーツを体験することにより、子どもの運動遊びのルール作りに活用し実践できる。					
15) 安全・事故防止、授業のまとめ 運動遊びの事故事例から防止対策について説明できる。					
試験)	実施しません		[単位認定の方法及び基準]		【試験】
[使用テキスト]	適宜資料を配布します。		【授業内評価】		・筆記試験 (%)
[参考文献]	授業時に適宜紹介します。		・平常点評価 (60%)		・レポート (%)
[フィードバックの方法]	授業に関する質問は、授業内に全体に向けて回答・説明します。提出物については、次回以降の授業で返却し、全体に向けて講評・コメントします。		・到達度の確認 (40%)		・実技試験 (%)
			・実技・作品発表 (%)		・面接試験 (%)
			[備考]		
			平常点評価 60%の内訳は、出席点 40%、および提出物 20%です。到達度の確認は、模擬保育、ミニ運動会の実践により行います。		

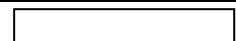
※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 保育ゼミ I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演 習		授業担当者 今滝憲雄 北川拓 高砂朋子	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター
卒業必修					
☑ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 大学での学び方の入門として、グループワークを中心に、保育の基礎的な知識・技術を獲得し、学習成果を発表することができる。					主に対応するDP 1, 2, 3, 4
[授業全体の内容の概要] クラスおよびゼミ等のグループ単位を中心に、協同しながら保育の基礎的な知識・技術を学習する。また、それらの学習成果を発表する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] テーマを設定し基礎学習を深めることができる。また、学習成果を発表することができる。保育に必要な基礎的な知識・技術を学び、実習等で活かすことができる。					
[準備学習の内容]					
<p>(事前学習) 子ども・保育問題に関する社会事象に目を向け、新聞やニュースを見聞きしておくこと。他の教科目の授業もすべて実習の基礎知識になることを理解し、観察や記録に活かしていく。</p> <p>(事後学習) 授業内容を振り返り、学んだことを整理して、実習に臨む準備を行う。</p>					
[授業の日程 (担当者) と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学習の内容の詳細]		
1) 新入生オリエンテーション 新入生交流会に向けてグループワークを通して保育技術を学習する			子ども・保育問題に関する社会事象を意識し、新聞やニュースを見聞きしておくこと。		
2) 新入生交流会① 新入生交流会に向けてグループワークを通して保育技術を学習する。			第1講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。		
3) 新入生交流会② 新入生交流会で保育技術を発表する (フィールドワーク)。			前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。		
4) 新入生交流会③ 新入生交流会で保育技術を発表する (フィールドワーク)。			前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。		
5) 名札づくり 実習に向けて、実習に相応しい名札の研究を行い制作する。			前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。		
6) 名札づくり 実習に向けて、実習に相応しい名札の研究を行い制作する。			前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。		
7) 名札づくり 実習に向けて、実習に相応しい名札の研究を行い発表する。			前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。		
8) 保育の実際①: 各ゼミで研究テーマをもち、グループワークなどを通して、保育研究に取り組む。			前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。		
9) 保育の実際②: 各ゼミで研究テーマをもち、グループワークを通して、保育研究に取り組む。			前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。		
10) 保育の実際③: 各ゼミで研究テーマをもち、グループワークなどを通して保育研究に取り組む。			前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。		
11) 壁面製作①: 保育体験(実習入門)の子どもたちへのメッセージ グループワークを通して、保育に相応しい季節を感じる壁面を制作する。			前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。		
12) 壁面製作②: 保育体験(実習入門)の子どもたちへのメッセージ グループワークを通して、保育に相応しい季節を感じる壁面を制作する。			前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。		
13) 保育の実際④: 各ゼミで研究テーマをもち、グループワークを通して、保育研究に取り組む。			前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。		
14) 保育の実際⑤: 各ゼミで研究テーマをもち、グループワークを通して、保育研究に取り組む。			前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。		
15) まとめ 各ゼミの学習発表から学びを深化させ、次の学びへの期待をもつ。 ゼミ研究のまとめを行う。(テーマ)一人ひとりの学びをみんなの学びに。みんなの学びを一人ひとりのものに。			全体を振り返り、到達度の確認に臨めるよう復習する詳細は授業内に説明する。		
[使用テキスト]なし					
[参考文献]授業内で必要に応じて絵本、著書を紹介する。適宜資料を配布する。					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】			【定期試験】		
① 平常点評価 (30%)			①筆記試験 (%)		
② 到達度の確認 (40%)			②レポ ー ト (%)		
③ 実技・作品発表 (30%)			③実 技 試 験 (%)		
			④面 接 試 験 (%)		
[フィードバックの方法] 提出された課題について、15回講義時に総評しフィードバックを行う。					
[備考] 授業に関する質問は、授業内に全体に向けて回答・説明します。提出物については、次回以降の授業で返却し、全体に向けて講評・コメントします。配付されたファイルに資料を綴じていくこと。					

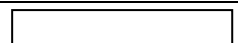
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 保育ゼミⅡ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 今滝憲雄 北川拓 高砂朋子	
授業の回数	15回	時間数(単位数)	1単位	配当	1 Semester
☑ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 大学での学び方の入門として、グループワークを中心に、保育の基礎的な知識・技術を獲得し、					主に対応するD P 1, 2, 3, 4
[授業全体の内容の概要] クラスおよびゼミ等のグループ単位を中心に、協同しながら保育の基礎的な知識・技術を学習する。また、それらの学習成果を発表する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] テーマを設定し基礎学習を深めることができる。また、学習成果を発表することができる。保育に必要な基礎的な知識・技術を学び、実習等で活かすことができる。					
[準備学習の内容]					
(事前学習) 子ども・保育問題に関する社会事象に目を向け、新聞やニュースを見聞きしておくこと。他の教科目の授業もすべて実習の基礎知識になることを理解し、観察や記録に活かしていく。					
(事後学習) 授業内容を振り返り、学んだことを整理して、実習に臨む準備を行う。					
[授業の日程 (担当者) と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学習の内容の詳細]	
1) 乳児院・児童養護施設① 乳児院・児童養護施設の実状と社会的養護の現状と課題について				子ども・保育問題に関する社会事象を意識し、新聞やニュースを見聞きしておくこと。	
2) 乳児院・児童養護施設②小グループで討議しながら、調べ学習の情報収集スキルを学ぶ、図書館利用と論文検索のレクチャーを聞き活用する				第1講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。	
3) 乳児院・児童養護施設③ 小グループで討議しながら、調べ学習を行う				前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。	
4) 乳児院・児童養護施設④ 小グループでの調べ学習をおこなった発表をする				前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。	
5) 乳児院・児童養護施設⑤ 小グループでの調べ学習をおこなったレポートを成果物として制作する。				前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。	
6) 保育の実際①：各ゼミで研究テーマをもち、グループワークなどを通して、保育研究に取り組む				前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。	
7) 保育の実際②：各ゼミで研究テーマをもち、グループワークなどを通して、保育研究に取り組む。				前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。	
8) 保育の実際③：各ゼミで研究テーマをもち、グループワークなどを通して、保育研究に取り組む。				前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。	
9) 保育の実際④：各ゼミで研究テーマをもち、グループワークを通して、保育研究に取り組む。				前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。	
10) 2年生に向けて① 総合表現発表会の鑑賞を通して、表現技術や表現方法を学ぶ。				前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。	
11) 2年生に向けて② 総合表現発表会の鑑賞を通して、表現技術や表現方法を学ぶ。				前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。	
12) 2年生に向けて③ 卒業研究発表会の参加を通して、自身の研究テーマを考える。				前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。	
13) 2年生に向けて③ 卒業研究発表会の参加を通して、自身の研究テーマを考える。				前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。	
14) 2年生に向けて③ 卒業研究発表会の参加を通して、自身の研究テーマを考える。				前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。	
15) まとめ 1年次の振り返りを通して2年次に向けての課題を設定する。 (テーマ) 一人ひとりの学びをみんなの学びに。みんなの学びを一人ひとりのものに。				全体を振り返り、到達度の確認に臨めるよう復習する詳細は授業内に説明する。	
[使用テキスト]なし					
[参考文献]授業内で必要に応じて絵本、著書を紹介する。適宜資料を配布する。					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】			【定期試験】		
④ 平常点評価 (30%)			①筆記試験 (%)		
⑤ 到達度の確認 (40%)			②レポート (%)		
⑥ 実技・作品発表 (30%)			③実技試験 (%)		
			④面接試験 (%)		
[フィードバックの方法] 提出された課題について、15回講義時に総評しフィードバックを行う。					
[備考] 授業に関する質問は、授業内に全体に向けて回答・説明します。提出物については、次回以降の授業で返却し、全体に向けて講評・コメントします。配付されたファイルに資料を綴じていくこと。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) キャリアアップ教育 I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演 習		授業担当者 代田 盛一郎	
授業の回数 12 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 1	セメスター	卒業必修	
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 社会人、職業人として求められる能力を身につけ、2年生時での就職活動を進めていくための基礎的な力を身につける。					主に対応するDP 1, 2, 4
[授業全体の内容の概要] 「キャリア支援ガイド」(大学作成)などを学習する。社会人になるための素養と就職活動に必要な知識を学ぶ。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 2年生での就職活動にむけての課題について理解する。文章力や一般常識等を可能な限り習得し、2年生での就職活動だけでなく、今後の大学での学びの向上にも活かすことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					[準備学修の内容]
1) キャリアアップ教育 I で学ぶ内容の説明を聞く。保育士、幼稚園教諭、指導員等の仕事の内容、2年間の大学生活と就職への道筋などについて聞く。自己紹介や担任との面談のための「自己紹介・私の長所など自己分析」カード、入学・進路アンケート、「入学しての思い」等に記述する。現時点での考えをまとめる。					
2) 個人面談① 担任との個人面談をおこない、より良い大学生活や将来の進路希望等について、自らの考えを担任に表明する。「国語力アップ・一般教養・常識問題プリント」(今回から①～⑥)にとりくみ、特に文章力の向上と漢字の学習を進める。プレゼンテーションの準備。					
3) 個人面談② 担任との個人面談をおこない、より良い大学生活や将来の進路希望等について、自らの考えを担任に表明する。プレゼンテーションの準備。「国語力アップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。					
4) プレゼンテーションを体験する① 「自己紹介」を行い、口頭発表の実際と方法について学ぶ。お互いの批評を行い、感想を書く。					
5) プレゼンテーションを体験する② 「自己紹介」を行い、口頭発表の実際と方法について学ぶ。お互いの批評を行い、感想を書く。					
6) 「マナー講座」をおこなう。面接試験、実習先訪問のために、面接のマナー、言葉づかいの注意、面接でよく聞かれる質問等について、専門の講師から実践的な講義を受ける。					
7) 履歴書の作成にとりくむ。履歴書とはどういうものかを知り、書き方について学習する。「自己アピール」「志望動機」欄の作成は、キャリアアップ教育 II でおこなう。「国語力アップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。					
8) 履歴書を完成させる。まとめとして、学習したことをふりかえるために「確認問題」にとりくむ。「国語力アップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。					
9)-12) 学内外の就職フェアへの参加を行います。詳細は授業内にガイダンスを行います。					
[使用テキスト] 「キャリア支援ガイド」(大学作成)					
[参考文献] 特になし					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価 (100%)					
②到達度の確認 (%)					
③実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。					
[備考] 学内外の就職フェアへの参加を行います。詳細は授業内にガイダンスを行います。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) キャリアアップ教育Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 代田 盛一郎	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] キャリアアップ教育Ⅰでの学びをふまえ、専門職として必要な専門性や資質、能力および社会人としての素養を得られるように努力し、2年生での就職活動を積極的に進めていく意欲を高める。					主に対応するDP 1, 2, 4
[授業全体の内容の概要] 「キャリア支援ガイド」(大学作成)を学習する。社会人になるための素養と就職活動に必要な基礎的な知識を学ぶ。2年生での就職活動に向け実践的なことを学習し、就職活動への意欲を高める。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 2年生での就職活動にむけての課題について理解する。文章力や一般常識等を可能な限り習得し、2年生での就職活動だけでなく、大学での学びの向上、自らの人間的成長にも活かすことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					[準備学修の内容]
1) キャリアアップ教育Ⅱで学ぶ内容についての説明を聞く。進路アンケート記入。2年生での就職活動に向け、1年生後半に各自が行わなければならない課題を考える。「国語力アップ・一般教養・常識問題プリント」(今回から①～⑥)にとりくみ、特に文章力の向上と漢字の学習を進める。					
2) 小論文(作文)の作成にとりくむ①。何を書くかテーマを決める。文章表現の基本、原稿用紙の使い方などを学ぶ。「国語力アップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。					
3) 小論文(作文)の作成にとりくむ②。完成させる。「国語力アップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。					
4) 履歴書の作成にとりくむ①。「自己アピール」「志望動機」欄の書き方、内容について学び、今回はこの2つの欄も記述する。「国語力アップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。					
5) 履歴書の作成にとりくむ②。完成させる。「国語力アップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。「短大生のための就職セミナー」が実施される時は、この回で、「確認問題」を行い、「まとめのレポート」の作成を始める。					
6) 2年生の就職活動体験を聞く。就職先が決定している2年生の実体験を聞き、就職活動で大切にすべきこと等を学び、就職活動への意欲を高める。					
7) 企業研究の方法について学ぶ。外部から講師を招き、最新の求人動向、事業所の特徴などの話を聞く。自らの進路希望と照らし合わせつつ、就職活動に活かすようにする。					
8) 「短大生のための就職セミナー」に参加し、就職活動で大切にすべきこと等を学び、就職活動への意欲を高める。セミナーが実施されない場合は、「確認問題」にとりくむ。キャリアアップⅠ・Ⅱのまとめのレポート作成。					
[使用テキスト]「キャリア支援ガイド」(大学作成)					
[参考文献]特になし					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価(100%)					
②到達度の確認()%					
③実技・作品発表()%					
【定期試験】					
①筆記試験()%					
②レポート()%					
③実技試験()%					
④面接試験()%					
[フィードバックの方法]					
授業内で作成したレポート等について個別に指導する。					
[備考]					
学内外の就職フェアへの参加を行います。詳細は授業内にガイダンスを行います。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

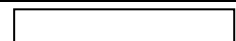
授業のタイトル (科目名) 地域活動体験 I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 代田 盛一郎	
授業の回数 8回	時間数(単位数) 1単位	配当	1 Semester	必修	
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 地域活動への実際の参加を通じて、地域の諸課題やニーズを把握し、その対応を学ぶ。 参加から参画へのプロセス体験を通して保育者としての主体性を身につけることを目的とする。					主に対応するDP 3,4
[授業全体の内容の概要] 地域活動への実際の参加を行う。 地域活動は原則フィールドワークとなる。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 地域活動への実際の参加を通じて、地域の諸課題やニーズを把握し、その対応ができるようになる。 参加から参画へのプロセス体験を通して保育者としての主体性を身につける。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) ガイダンス、地域活動参加のエントリー					
2)-8) エントリーした地域活動に参加し、事後にリアクションペーパーを提出する。 【地域活動の系統】 ①イベント系 ②まちづくり・環境整備系 ③その他の地域活動					
[使用テキスト] なし					
[参考文献] なし					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価 (100%)					
②到達度の確認 (%)					
③実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 授業内に行う。					
[備考] 地域活動は事前エントリーし、規定回数以上の参加を行うこと。詳細は授業内ガイダンスで説明する。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 地域活動体験Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 代田 盛一郎	
授業の回数 8回	時間数(単位数) 1単位	配当	2セメスター	必修	
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 地域活動への実際の参加を通じて、地域の諸課題やニーズを把握し、その対応を学ぶ。 参加から参画へのプロセス体験を通して保育者としての主体性を身につけることを目的とする。					主に対応するDP 3,4
[授業全体の内容の概要] 地域活動への実際の参加を行う。 地域活動は原則フィールドワークとなる。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 地域活動への実際の参加を通じて、地域の諸課題やニーズを把握し、その対応ができるようになる。 参加から参画へのプロセス体験を通して保育者としての主体性を身につける。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) ガイダンス、地域活動参加のエントリー					
2)-8) エントリーした地域活動に参加し、事後にリアクションペーパーを提出する。 【地域活動の系統】 ①イベント系 ②まちづくり・環境整備系 ③その他の地域活動					
[使用テキスト] なし					
[参考文献] なし					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価 (100%)					
②到達度の確認 (%)					
③実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 授業内に行う。					
[備考] 地域活動は事前エントリーし、規定回数以上の参加を行うこと。詳細は授業内ガイダンスで説明する。					

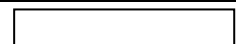
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 子ども家庭福祉		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 西山 雅巳 (元児童相談所次長)	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	セメスター 必修
☑ 実務経験	児童相談所での実務・SV 経験を活かし、児童問題の現状と関係機関の支援内容等について講義する。				
[授業の目的・ねらい] 子どもと保護者の状況と社会的養育の仕組みを理解し、専門的知識に基づき、子どもの権利を守りながら、保護者の子育てを支える人になる。					主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] 子どもと家庭を取り巻く現状、子どもの権利、子ども家庭福祉の歴史・制度と法体系・行財政や実施機関及び子ども家庭福祉での様々な取り組みについてテキスト・資料等を用いて解説します。また、講義1～13では、学生に対して、講義中に課題シートに解答し、提出することを求めます。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 子どもと家庭を取り巻く現状、子どもの権利、子ども家庭福祉の歴史・制度と法体系・行財政と実施機関及び子ども家庭福祉での様々な取り組みについて理解し説明することが出来る。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 講義の概要並びに子どもと家庭を取り巻く現状について			予習 (テキスト p13、p19)		
2) イギリスの歴史及び日本における児童救済について			予習 (テキスト p49、p56)		
3) 権利擁護の歴史の変遷と「児童の権利に関する条約」等について			予習 (テキスト p38-39)		
4) 子ども家庭福祉の理念と概念及び児童福祉六法等について			予習 (テキスト p63-65)		
5) 実施機関 (児童相談所・福祉事務所等) と児童福祉施設について			予習 (テキスト p87-88)		
6) 行財政と児童養護施設等の専門職及び社会的養護について			予習 (テキスト p77-79)		
7) 健全育成と母子保健での取り組み及び支援事業について			予習 (テキスト p109-110)		
8) 保育ニーズへの取り組み及び支援事業について			予習 (テキスト p121-122)		
9) 子ども虐待・DV (ドメスティック・バイオレンス) の現状について			予習 (テキスト p135、p146)		
10) 子どもへの虐待防止のための取り組みについて			予習 (テキスト p136-137)		
11) 子どもの貧困の現状、ひとり親家庭への取り組みについて			予習 (テキスト p161-163)		
12) 障がいのある子どもの福祉について			予習 (テキスト p179-180)		
14) 非行に対する児童相談所や司法等における取り組みについて			予習 (テキスト p191-193)		
14) 到達度確認テスト			課題シート解答例の確認		
15) 子どもの権利を基礎とした社会的養育について					
[使用テキスト] 「保育と子ども家庭福祉」編集 櫻井奈津子 みらい (株)					
[参考文献]					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価 (40%)	課題シート (13回) の解答内容および取組状況。40点満点。				
②到達度の確認 (60%)	到達度確認テストの点数。60点満点。				
③実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 課題シート・到達度確認テストの解答例は、授業時間内に解説します。					
[備考]					

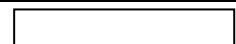
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 社会的養護 I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 西山 雅巳 (元児童相談所次長)	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	セメスター 必修
☑ 実務経験	児童相談所での実務・SV 経験を活かし、社会的養護を必要とする児童および家庭への支援について講義する。				
[授業の目的・ねらい] 社会的養護を必要とする子どもと家族に対して、専門的知識に基づき支援し、子どもの最善の利益に基づき子どもの育ちを支える人となる。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 社会的養護理由の現状、社会的養護を必要とする子どもの権利擁護への取組、社会的養護の制度及び施設養護における日常生活・治療的支援、親子関係再統合などについてテキスト・資料等を用いて解説します。また、講義 1～13 では、学生に対して、講義中に課題シートに解答し、提出することを求めます。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 社会的養護理由の現状、社会的養護を必要とする子どもの権利擁護への取組、社会的養護の制度及び施設養護における日常生活・治療的支援、親子関係再統合などについて理解し説明する事が出来る。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 講義の概要並びに現代社会に暮らす子どもと家庭について			予習 (テキスト p16-18)		
2) 社会的養護を必要とする子どもの権利擁護について			予習 (テキスト p30-32)		
3) 子どもの養護の展開と現代の子ども養護問題について			予習 (テキスト p45-47)		
4) 社会的養護の体系及び相談機関、家庭養護について			予習 (テキスト p56-58)		
5) 施設養護の種別と目的および小規模化について			予習 (テキスト p73-74)		
6) 施設養護の特質及び児童福祉施設での専門職等に			予習 (テキスト p78-80)		
7) 施設養護における理念と基本原理について			予習 (テキスト p88-89)		
8) 施設養護におけるアドミッションからアフターに至る支援の流れについて			予習 (テキスト p105-107)		
9) 児童養護施設における日常生活支援について			予習 (テキスト p98-100)		
10) 児童養護施設における治療的支援について			予習 (テキスト p111-112)		
11) 児童自立支援施設等における治療的支援について			予習 (テキスト p118-120)		
12) 施設養護における親子関係の調整、地域支援について			予習 (テキスト p123-124)		
13) リスクマネジメント、第三者評価、児童福祉施設の運営の基準について			予習 (テキスト p150-151)		
14) 到達度の確認テスト			課題シート解答例の確認		
15) 被措置児童等虐待への対応状況及びトラウマインフォームド・ケアについて					
[使用テキスト] 「社会的養護(第4版)」小池由佳・山縣文治編著、ミネルヴァ書房					
[参考文献]					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価 (40%)	課題シート (13 回) の解答内容および取組状況。40 点満点。				
②到達度の確認 (60%)	到達度確認テストの点数。60 点満点。				
③実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 課題シートは、到達度確認テストの解答例は、授業時間内に解説します。					
[備考]					

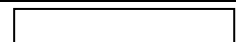
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 子ども家庭支援の心理学		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 川岸 育子	
授業の回数	15回	時間数(単位数)	2単位	担当	セメスター 必修
実務経験あり		長年保育士として様々な保護者と関わって来た経験を活かし、現代の子育て家庭をめぐる社会状況と課題を具体的な事例を交えつつ講義する。			
[授業の目的・ねらい] 心理学的な観点からの生涯発達の段階や各々の時期における発達課題を知り、初期の親子関係や愛着関係の重要性を理解する。子どもの心の育ちにとっての家庭の意義や機能について考えるを通して、子どもは家庭(家族)の中、親子関係の中で育つことを知り、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。現代の社会状況が子どもの育ちに及ぼす影響について考察する。					主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] エリクソンのライフサイクル論をベースに、対象関係の発達について補足しながら、心理学的な生涯発達について、具体的な事例を交えて講義する。子どもの心が健全に育つためには、どのような環境が必要なのか?という観点から、家庭の機能について論じる。現代の社会状況が子育て家庭に及ぼす影響について具体例を交えながら説明し、どのような家庭に対して、どのような支援が必要なのかを学生とともに考える。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ○心理学的な生涯発達の段階や愛着関係について説明できる。 ○子どもの心の育ちにとっての家庭の意義や機能について、具体的に述べることができる。 ○現在の社会状況が子育て家庭に及ぼす影響について推論し、必要な支援を選択できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 人生曲線を書き、これまでの自分の心の発達について考える【講義のレポート提出】			自身の育ちを振り返っておく。		
2) 3) エリクソンのライフサイクル論を各段階の具体例を挙げながら説明するとともに、適応する年齢における対象関係についても補足する【講義のレポート提出】			レジュメの指定箇所を読む		
4) テキスト pp8~25 人を信じ、自分を信じる子どもに【講義のレポート提出】			テキストの指定箇所を読む		
5) テキスト pp26~43 心身の健康と人間性の基盤【講義のレポート提出】			テキストの指定箇所を読む		
6) テキスト pp44~61 共感する気持ちを基礎に【講義のレポート提出】			テキストの指定箇所を読む		
7) テキスト pp62~79 本音で話す子どもに育てるために【講義のレポート提出】			テキストの指定箇所を読む		
8) テキスト pp80~97 子どものウソ・自尊心を育てるしつけ【講義のレポート提出】			テキストの指定箇所を読む		
9) テキスト pp98~115 子どもの自律性・共感性を育てるために【講義のレポート提出】			テキストの指定箇所を読む		
10) テキスト pp116~133 子どもがピンチのときこそ親の出番【講義のレポート提出】			テキストの指定箇所を読む		
11) テキスト pp134~151 反抗・不登校を考える【講義のレポート提出】			テキストの指定箇所を読む		
12) テキスト pp152~169 母子家庭・父子家庭で大切なこと【講義のレポート提出】			テキストの指定箇所を読む		
13) テキスト pp170~187 自閉症スペクトラムの子どもに寄せて【講義のレポート提出】			テキストの指定箇所を読む		
14) テキスト pp188~205 社会の子育て力をアップさせるために【講義のレポート提出】			テキストの指定箇所を読む		
15) これまでの講義を通して学んだことを出し合う【講義のレポート提出】			学んだことをまとめておく		
[使用テキスト] 『はじまりは愛着から』佐々木正美・福音館 ※上記以外にも講義内にて随時、資料を配布する					
[参考文献] 『アイデンティティとライフサイクル』エリクソン.E.H 誠信書房 『心理臨床大事典』培風館					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
① 平常点評価(40%)	予習を行い自ら問いを持って主体的に授業に参加しているか。提出物を出しているか。				
② 到達度の確認(40%)	授業を通しての自分自身の気づきを、体験と結び付けてレポートに書いているか。				
③ 実技・作品発表(20%)	意欲的に発表するとともに、他者の発表に興味を持って聞き、質問や感想を言えているか。				
【定期試験】					
①筆記試験(%)					
②レポート(%)					
③実技試験(%)					
④面接試験(%)					
[フィードバックの方法] 前回の講義終了時に提出されたレポートについて、各回講義の最初にフィードバックを行う					
[備考] ◎教育実習等での公欠については、実習において困ったこととそれについてどう対応したかをレポートにまとめて提出することによって可とする。					

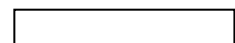
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 子どもの保健 I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講 義		授業担当者 眞鍋 穰	
授業の回数	15回	時間数(単位数)	2単位	配当	1 Semester 必修
☑ 実務経験 小児科医としての経験を踏まえ、保育現場等で求められる基礎的事項を踏んだ授業を行う。					
[授業の目的・ねらい] 子どもの健康・成長発達の意味を認識し、社会・家庭および保育生活との関係、保育における健康管理・保健活動の重要性を理解するし、説明できる。子どもの病気特に感染症と食物アレルギー・事故の年齢発達に応じた特徴、特に集団保育での特徴を理解し、緊急時の基本的対応について具体的に説明できる。					主に対応するDP 1, 2
[授業全体の内容の概要] 子どもの健康に影響を与える因子と健康の指標との関係を概説する。保育所で問題となる感染症および食物アレルギーと事故の概要を理解しその予防対策について概説する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 子どもの心と身体の健康問題が社会と家庭の広義の養育環境・方法にあることを認識して保育場面での適切な対処および家庭や地域と必要な連携について知る 保育所で問題となる感染症と事故の概要を理解しその予防対策が考えられるようになる。					
[準備学習の内容] 福祉施設に関する新聞報道に留意して、問題意識を持って授業を受けるようにすること。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1) 子どもと社会 子どもの身体と心の変化及びその社会的背景をパワーポイントをつかって概括する 骨折の増加 体力の低下 肥満児の増加 アレルギーの増加の背景と原因を考える					
2) 子どもと社会 子どもの身体と心の変化及びその社会的背景をパワーポイントをつかって概括する 離婚 虐待 不登校などの増加の背景を考える 虐待への対応について学ぶ その対策					
3) 子どもと社会 子どもの健康とは? WHOの定義について考える 日本の乳児死亡率の経年的変化と国際比較について調べその背景考える					
4) 子どもと社会 乳児突然死症候群について					
5) 小児の感染症と予防対策 子どもの免疫の発達について 麻疹 風疹 ムンプス 水痘などの 潜伏期 登園停止期間などについて					
6) 小児の感染症と予防対策 感染性胃腸炎などの特徴と予防対策 感染症ガイドラインにふれて					
7) 小児の感染症と予防対策 予防接種の意義と現状 生ワクチンと不活化ワクチンの違い					
8) 小児の感染症と予防対策 予防接種の意義と現状 任意接種と定期接種のちがい					
9) 事故の予防と対応 ①とくに保育園での死亡事故について概観					
10) 事故の予防と対応 ②事故防止対策と事故が起きたときの対応 事故に関するガイドラインにふれて					
11) 子どもの食事と健康 とくに保育園における食物アレルギー対応 その基本的考え方					
12) 子どもの食事と健康 とくに保育園における食物アレルギー対応 原因食物の解除の仕方					
13) 子どもの食事と健康 とくに保育園における食物アレルギー対応 アレルギー対応ガイドラインに触れて					
14) 復習 練習問題 いままでの講義をふりかえって					
15) 授業のまとめ・試験対策					
試験)		[単位認定の方法及び基準]		【試験】	
[使用テキスト] 『赤ちゃんからの食物アレルギー正しい対処』 食べ物文化社		【授業内評価】 ・平常点評価 (30%) ・到達度の確認 () % ・実技・作品発表 () %		・筆記試験 (70%) ・レポート () % ・実技試験 () % ・面接試験 () %	
[参考文献] 『シリーズ年齢別保育』 かもがわ出版					
[フィードバックの方法] 筆記試験・レポート課題について、正答・解答のポイント等を練習問題で開示する。		[備考]			

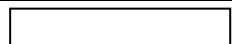
※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 子どもの食と栄養		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 井上 かおる	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
☑ 実務経験		保育施設での給食作りや食育活動の経験を活かし、子どもや保護者の食生活支援について講義する			
[授業の目的・ねらい] 健康な生活を営むために食生活が基本であることを理解し、食生活の意義や栄養に関する基礎知識を学ぶ。子どもの発育・発達と食生活、食育を理解して説明できる力をつける。					主に対応するDP (未選択)
[授業全体の内容の概要] 子どもの発育・発達と食生活の重要性について学ぶ。基本的な食生活に関する知識を学び、現在の食生活上の問題を考える。課題に沿って各自が考え、計画できるように演習を取り入れる。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 子どもの食生活の意義を理解し、子どもの食生活や栄養に関する知識を習得する。保育者として保育の中で「食育」を意識し、「集団づくり」を軸としながら、計画・実践していく事ができるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 保育現場で起こる問題、保護者の相談から子どもの食生活を考える			1 1) 子どもを取り巻く食の問題		
2) 子どもの発育・発達と食生活 近い過去と近い将来 学童期・思春期・妊娠期・授乳期の栄養と食生活			5 日分の食事記録・ワークシート		
3) 栄養と食品に関する基礎知識 (栄養とその機能) 糖質・資質タンパク質・ビタミン・ミネラル・食物繊維・水ほか)・(ウ)			朝ごはんの献立を考える		
4) 栄養と食品の関する基礎知識 (食品の分類・特徴・献立作成・調理の基本)			ワークシート		
5) 子どもの発育・発達と栄養生理について 子どもの摂取機能の発達、栄養素の消化・吸収・代謝について			ワークシート		
6) 子どもの発育・発達と食生活 離乳期の意義と食生活			ワークシート		
7) 0歳児から5歳児の食育活動 (ウ)			(5歳)の食育計画作成		
8) (エ) 発表			旬の野菜		
9) 0歳児からのクッキング保育 (ウ)			クッキング計画作成		
10) (エ) 発表					
11) 食の安全性 (ウ) 発表 子どもの食の安全			食遺品事故・食中毒。食に関する事故を知る		
12) 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 宗教食・疾病及び体調不良の子ども 食物アレルギーへの対応			文化やそれぞれの子どもを大切にする環境としてとらえる		
13) 食育だよりを作る 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 (ウ)			おたよりに関心を持つ、伝えたいこと		
14) 子どもの食生活についてのまとめ (ウ)			これまでのプリント確認		
15) 到達度の確認			これまでのプリントの確認		
[使用テキスト] 「子どもの食と栄養演習」建帛社					
[参考文献] 必要に応じて紹介する					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
① 平常点評価 (30%)					
② 到達度の確認 (70%)					
③ 実技・作品発表 () %					
【定期試験】					
① 筆記試験 () %					
② レポート () %					
③ 実技試験 () %					
④ 面接試験 () %					
[フィードバックの方法] 正答を試験終了後に開示する					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 保育内容 (表現)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 甲 由利子・ 井下 べに	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 30 単位	配当	セメスター	必修・選択必修・選択	
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 保育内容における基礎的な表現技術を学び、表現活動を体験することで子どもにとっての表現について学ぶ。自らが表現者として即興的な劇づくりを取り組む事を通して、協力・協同しながらつくりあげ、表現を通した集団づくりを体験的に学ぶ。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 保育士・幼稚園教諭が、表現活動の指導を行う上で必要とされる知識、技術を体験的に習得し、協同して取り組む。集団的議論の中で、企画・立案・準備・作品完成の過程を通して、協同して取り組む事の重要性を習得する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 保育士・幼稚園教諭として必要とされる表現活動の知識・技術の基礎を総合的に習得し、その成果を発表できる。また、保育現場における表現活動にとって重要な事を説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 全体オリエンテーション 様々なステップで動く、見えないものを見て動く			授業内で取り扱われた表現方法や表現技術について復習しておく。		
2)～3) 様々な遊びの中で人と気持ちを合わせ共有することを体験する					
4)～6) 身振り表現、絵本の表現 色々なリズムで動く					
7)～10) 絵本の分析、プレゼンテーション (分析を発表し合う)					
11)～14) 絵本から即興劇をつくる、プレゼンテーション (即興劇)					
15) 授業のまとめ、幼児の劇を見る					
[使用テキスト] 必要に応じて授業でプリントを配布する					
[参考文献] 特になし					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価 (30%)	受講態度				
②到達度の確認 (30%)	レポート提出				
③実技・作品発表 (40%)	作品発表				
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 提出された課題について授業時、適宜にフィードバックを行う。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

--

子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 保育内容 (言葉)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演 習		授業担当者 正置友子・井口和子・高砂朋子 ほか	
授業の回数	15 回	時間数 (単位数)	1 単位	配当	1 セメスター
☑ 実務経験		資格必修			
[授業の目的・ねらい] 人と人をつなぐコミュニケーション手段としての「ことば」の発達過程を探り、保育実習や保育現場で役立つ、ことばを伸ばす保育内容・教育内容を理解し、説明できるようになる。ことばを促す保育教材を研究・作成する。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 担当者による講義と、受講者による制作や発表を主とするグループワークを設け、言葉の機能(講義形式)と言葉を促す保育内容(演習形式)を探る。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 言葉に関する領域の保育教材として、絵本・紙芝居(読み聞かせ含む)、素話、ペープサート、パネルシアター等 作成・発表(実演)などの保育現場に必要な保育技術の基礎を習得し実践できる。					
[準備学習の内容]					
(事前学習) ことばを促す保育教材(絵本、紙芝居、手遊びなど)に日常的に触れる。身の回りの子どもたちが発することばに耳を傾け、聴き取っておくこと。					
[授業の日程(担当者)と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学習の内容の詳細]		
1) 絵本の世界①～保育の中の絵本～: 講義形式 乳児期・幼児期の絵本の世界を紹介し、年齢・発達にそくした絵本について学習する。実際に絵本の読み語りも行ふ。			保育所保育指針 領域(言葉)について 乳児期・幼児期前期・幼児期後期のことばの発達過程を捉える課題を出題する。		
2) 絵本の世界②～保育の中の絵本～: 講義形式 乳児期・幼児期の絵本の世界を紹介し、年齢・発達にそくした絵本について学習する。たぐさんの絵本の世界にふれ、保育・教育現場での実習に活かせる絵本について学習する。			第1講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。		
3) 内容における「言葉」の位置づけを学び、ことばを促す児童文化財に触れる。 保育教材におけるパネルシアター①【ゲストスピーカーを予定している】 保育教材としてのパネルシアターの実演を鑑賞し、どのように保育教材として活かしていくかについて学ぶ。 保育教材におけるパネルシアター② 実習での設定保育で使用できる保育教材となるパネルシアターの題材を選定する。			前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。		
4) 保育教材におけるパネルシアター③ 題材の選定後、パネルシアターのPペーパーへの下書き方法を学び作成する			前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。		
5) 保育教材におけるパネルシアター④実習での設定保育で使用できる保育教材となるシナリオ・指導案を作成する。			前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。		
6) 保育教材づくり ⑤パネルシアターのPペーパーへの色付け技術を学び作成する。 保育教材づくり ⑥パネルシアターのPペーパーを完成させる。シアターを作成する。			前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。		
7) 保育教材づくり ⑦パネルシアターを完成させ、発表の練習・発表を行う。			前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。		
8) 保育教材づくり ⑧パネルシアターの実技発表【ゲストスピーカーによる講評を予定している】 作品・保育技術へのコメントを行う。※保育園や地域活動での発表会を予定している。			前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。		
[参考文献]「保育の中の絵本」正置友子/「はじめまして」新沢としひこ /「0～6歳子どもの発達と保育の本」河原紀子/パネルシアター:永崎みさと他/「パネルシアター歌って遊ぼう」永崎みさと/「うたってパネルシアター」古宇田亮順/「言葉遊び・歌あそび・パネルシアター」古宇田亮順/「パネルシアターであそぼ」関稚子/「やっぱりパネルシアターであそぼ」関稚子/「ほっぺ2006,13」					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】		【定期試験】			
⑦ 平常点評価 (20%)		①筆記試験 (%)			
⑧ 到達度の確認 (40%)		②レポート (%)			
⑨ 実技・作品発表 (40%)		③実技試験 (%)			
		④面接試験 (%)			
[フィードバックの方法] 提出された課題について、8回講義時に総評しフィードバックを行う。					
[備考] 平常点としてレポートの提出を求める。各種保育教材は提出期限に提出・返却。パネルシアターは実演の際は、自主作成のものを使用すること。※保育園や地域活動での発表会を予定している。保育園への交通費実費(実演保育園は授業内で説明する)					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 子どもと表現		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 甲 由利子・ 井下 べに	
授業の回数 8 回	時間数(単位数)	15 単位	配当	セメスター	必修・選択必修・選択
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 乳幼児の発達や表出・表現する姿について学び、子どもの表現について想像力を豊かにしながら捉える視点と感性を養う。子どもの主体的な表現活動を引き出すための保育者の役割について理解し、環境構成や援助の仕方について学ぶ。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 保育所保育指針や幼稚園教育要領における領域「表現」の観点を知り、参考文献をもとに視覚教材などを通して子どもの表出、および表現している姿や発達段階における表現の違いについて理解する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 子どもの表出、および表現を認め、子どもの想像力・創造性に共感することができる。 子どもが主体的に表現できる環境作りや保育者としての援助の仕方について理解することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション 保育所保育指針『表現』の内容について			授業で学習した内容を復習し、理解を深めておく。		
2)～4) 環境と身振り表現					
5) 乳児の原身振りから幼児の身振り表現					
6) 身振り表現と文学					
7) 乳児のごっこ遊びの実践事例					
8) 幼児の身振り表現～劇づくりの実践事例～					
[使用テキスト] 必要に応じて授業でプリントを配布する					
[参考文献] 山崎由紀子『身ぶり表現・ごっこあそび・劇づくり』 フォーラム・A					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価 (50%)	受講態度				
②到達度の確認 (50%)	レポート提出				
③実技・作品発表 ()%					
【定期試験】					
①筆記試験 ()%					
②レポート ()%					
③実技試験 ()%					
④面接試験 ()%					
[フィードバックの方法] 提出された課題について授業時、適宜にフィードバックを行う。					
[備考]					

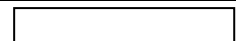
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

--

子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 音楽2		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 井下 べに	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	2セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 音楽理論の知識理解を深め、コード伴奏等に活かせるとともに、声楽の基礎的な技能を発展させ、保育者として子どもの「うた」による文化的・社会的な発達を育めるよう、声を出すこと、声を聴くこと、声を合わせることを通じて他者との共感を伴った「うた」による表現力を身につける。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 子どもたちの「うた」のモデルとなる保育者の声や歌唱に関する基礎的な知識・技能を発展させ、保育・幼児教育現場における実践を想定した歌唱活動の展開ができるよう、他者との共感を伴った「うた」による表現力の獲得を目指す。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)]楽譜に書かれた情報や歌詞の意味や子どもの音楽的発達を理解し、保育・幼児教育現場を想定した歌唱活動の実践ができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション 本授業の目的、計画、美しい歌声を目指して			音楽1で学んだことについて復習しておく。		
2) 音楽理論の基礎知識 (音階と調性) 歌唱の実践① 身体の使い方や呼吸法、発声法			音階と調性について予習しておく。		
3) 子どもの音楽的発達 歌唱の実践② 子どものうた、季節のうた (秋のうた)、行事のうた			発声やストレッチなどの復習を行い、歌声を出しやすい身体づくりをする。 秋のうたについて調べる。		
4) 音楽理論の基礎知識 (コードネームと和音) 歌唱の実践③ わらべうた、手遊びうた、身体遊びうた			様々な遊びうたについて調べる。		
5) 音楽理論の到達度確認 歌唱表現の工夫① 楽器を伴った歌唱活動の工夫			音階や調性、コードネームなどについて復習し、到達度確認テストへの準備をする。 楽器の使い方について予習する。		
6) 歌唱表現の工夫② 造形を伴った歌唱活動の工夫、季節のうた (冬のうた)			ペープサートや絵本などの音楽的活用方法や手作り楽器について調べる。冬のうたについて調べる。		
7) 歌唱表現の展開① 他者との共感を伴った歌唱活動に向けたグループワーク			歌の振付や身体表現を伴った歌について調べる。		
8) 歌唱表現の展開② 授業のまとめ (プレゼンテーション: グループ発表)			グループでの発表ができるよう準備する。		
[使用テキスト] 『いろいろな伴奏で弾ける選曲 こどものうた 100』チャイルド本社、 『保育士、幼稚園教諭を目指す人たちのため音楽の基礎と表現～楽典とソルフェージュ』楠井淳子著 ふくろう出版 ※その他、随時教材プリントを作成し配布する。					
[参考文献] 細田淳子 (2018) 『あそびうた大全集 200』永岡書店、 今泉明美、有村さやか編 (2017) 『子どものための音楽表現技術』萌文書林。					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
① 平常点評価 (30%)	授業内課題、授業態度				
② 到達度の確認 (20%)	到達度確認筆記テスト				
③ 実技・作品発表 (50%)	作品発表、実技発表				
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 提出された課題については、授業内および次回の授業時にフィードバックを行う。また、質問に対しては、次回の授業時に全体に向けて回答・説明し、必要に応じて質問者に個別に回答・説明する。					
[備考]					

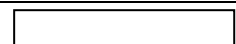
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) ピアノ 2		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 実技・演習		授業担当者 井下、野館、猪瀬、初瀬川	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		必修			
[授業の目的・ねらい] 受講者のピアノ技能の習熟度に応じた学習教材の独奏や、歌唱教材の伴奏・弾き歌い技術を習得する。保育・幼児教育現場で必要となるピアノ表現技術の獲得に加えて、音楽理論の学習についても楽典に関する基礎的な内容を取り扱うことで、学習教材・歌唱教材の理解を深めるとともに、読譜力の基礎および即興的な簡易伴奏の技術を習得する。					主に対応するD/P 1
[授業全体の内容の概要] 受講者のピアノ技能の習熟度に応じた個別レッスンを展開し、基礎的なピアノ奏法や読譜力に加えて、保育・幼児教育現場で求められる表現力の習得を目指す。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 基礎的なピアノ奏法や読譜力が向上するとともに、教材曲に応じて即興的な簡易伴奏を行うことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学習の内容]		
1) オリエンテーション 本授業の目的、計画、グループ分け			これまでのピアノ学習曲について復習する。		
2)～4) ピアノ独奏に関する基礎的表現④ バイエル 60～70 番程度/基礎的な読譜力の習得			授業時間外の日々の練習が大変重要である。練習に関する質問や、課題曲の範奏等について積極的に申し出る。		
5)～7) ピアノ伴奏・弾き歌いに関する基礎的表現④ 簡易伴奏法の応用 (調性による簡易伴奏の違い)			授業時間外の日々の練習が大変重要である。練習に関する質問や、課題曲の範奏等について積極的に申し出る。		
8) ピアノ独奏/ピアノ伴奏・弾き歌いに関する実技発表 授業の中間まとめ:プレゼンテーション (演奏発表)			人前での演奏ということを特に意識して、十分に演奏曲を準備する。		
9)～10) ピアノ独奏に関する応用的表現① バイエル 70～80 番程度/音楽的表現の工夫			授業時間外の日々の練習が大変重要である。練習に関する質問や、課題曲の範奏等について積極的に申し出る。		
11)～12) ピアノ伴奏・弾き歌いに関する応用的表現① 簡易伴奏法の応用 (即興的な簡易伴奏の変化)			授業時間外の日々の練習が大変重要である。練習に関する質問や、課題曲の範奏等について積極的に申し出る。実技発表への準備。		
13)～14) ピアノ独奏/ピアノ伴奏・弾き歌いに関する応用的表現② バイエル 80～90 番程度/音楽的表現の工夫			授業時間外の日々の練習が大変重要である。練習に関する質問や、課題曲の範奏等について積極的に申し出る。実技発表への準備。		
15) ピアノ独奏/ピアノ伴奏・弾き歌いに関する実技発表 授業のまとめ:プレゼンテーション (演奏発表)			人前での演奏ということを特に意識して、十分に演奏曲を準備する。		
[使用テキスト] 『バイエルピアノ教則本』音楽之友社、『いろいろな伴奏で弾ける選曲 こどものうた 100』チャイルド本社※随時教材プリントを作成し配布する					
[参考文献] 『ハノンピアノ教則本』全音楽譜出版社、『ブルグミュラー25の練習曲集』全音楽譜出版社、『ソナチネアルバム』全音楽譜出版社、『ソナタアルバム』春秋社、『こどものうた 200』チャイルド本社、『続こどものうた 200』チャイルド本社、『新版和音伴奏による幼児のうた 100 曲』全音楽譜出版社					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価 (30%)		授業態度、授業準備 (練習記録) など			
②到達度の確認 (30%)		レパートリー (練習曲リスト)、演奏技術、表現技術			
③実技・作品発表 (40%)		演奏発表			
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 毎回の授業において担当教員より、受講者の習熟度に応じて課題に対するフィードバックを行う。					
[備考] ピアノ 2 終了時に課題曲水準へ到達していない場合、4セメスター時に再履修すること。					

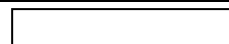
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) リズム運動 I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 満園 結	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 乳幼児期に即した子どもの保育活動として、リズム運動・音楽リズムの基礎を演習を通してその技能を習得する。子どもたちが取り組んでいるリズム運動(ひびけ草原のうた含む)を実体験し、さらに関心を深めていく。保育者の視点からリズム運動を通して子どもへの関わり方を学び、実体験することでリズム運動への取り組み意欲を深める					主に対応するD P 1
[授業全体の内容の概要] 乳幼児の保育内容や方法を学び、運動遊びの具体的な保育内容・指導法を構築し、実践できる力量を培う					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 保育者の視点から子どもの文化・表現に関する基本的な内容や方法を理解し、保育・幼児教育現場を想定した保育内容の構築および実践ができる					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) リズム運動の基礎を知る リズム運動の内容・意義を体験的に理解する					
2) リズム運動の内容について学ぶ (乳児期) リズム運動の指導方法を体験的に理解する					
3) リズム運動の内容について学ぶ (幼児期) リズム運動の指導方法を体験的に理解する					
4) 実際の保育現場で行われているリズム運動(ひびけ草原のうた含む)のねらい・内容・展開について実践的に理解する (乳児期)					
5) 実際の保育現場で行われているリズム運動(ひびけ草原のうた含む)のねらい・内容・展開について実践的に理解する (幼児期)					
6) 保育現場で実践されているリズム運動(ひびけ草原のうた含む)の展開や指導法について学ぶ (乳児期)					
7) 保育現場で実践されているリズム運動(ひびけ草原のうた含む)の展開や指導法について学ぶ (幼児期)					
8) まとめ レポート 実際の保育現場で行われているリズム運動の展開や指導法について理解し、まとめる					
[使用テキスト] 『リズム運動と子どもの発達』 (かもがわ出版)					
[参考文献] ※その他、必要な教材プリントは配布します					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価 (100%)					
②到達度の確認 (%)					
③実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法]					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

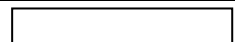
授業のタイトル (科目名) 民族芸能・和太鼓		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 藤堂真沙子 他	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
□ 実務経験		必修			
[授業の目的・ねらい]乳幼児期の発達にそくした保育内容の表現形態・方法について実体験を通して基礎を理解し表現できるようになる。乳幼児期の表現活動の重要性とそれを指導する保育者の役割について体験的に学習する。					主に対応するD P 1
[授業全体の内容の概要]保育者が表現活動の指導を行ううえで必要とされる代表的な方法について、その知識・技術をオムニバス形式で展開する。一部集中講義期間に行い、学外(保育園・別会館など)を予定している。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)]保育者として必要とされる表現活動の知識・技術を習得するとともに、その意義を自らが体験的に学習し、表現活動そのものの楽しさを感じることを通して自ら発表することができる。					
[準備学習の内容]日常的に文化・表現活動に興味・関心を持っておく。 集中講義期間前にオリエンテーションを設定する。諸注意等行うので必ず出席すること。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1) 民族芸能・民舞① (集中講義予定) 民舞の魅力・基礎・表現方法を知る民舞の楽しさ・踊りや所作にこめられた意味を知り、表現する					
2) 民族芸能・民舞② (集中講義予定) 民舞の魅力・基礎・表現方法を知る民舞の楽しさ・踊りや所作にこめられた意味を知り、表現する					
3) 民族芸能・民舞③ (集中講義予定) 総括・民舞実技試験					
4) 民族芸能・民舞④ (集中講義予定) 総括・民舞実技試験					
5) 民族芸能・太鼓① (集中講義予定) 和太鼓の演奏法を学び、和太鼓を演奏することの魅力・楽しさ・アンサンブルを体得する					
6) 民族芸能・太鼓② (集中講義予定) 和太鼓の演奏法を学び、和太鼓を演奏することの魅力・楽しさ・アンサンブルを体得する					
7) 民族芸能・太鼓③ (集中講義予定) 和太鼓の演奏法を学び、和太鼓を演奏することの魅力・楽しさ・アンサンブルを体得する					
8) 民族芸能・太鼓④ (集中講義予定) 和太鼓の演奏法を学び、和太鼓を演奏することの魅力・楽しさ・アンサンブルを体得する 発表構成の group ワーク総括・実技発表					
試験)		[単位認定の方法及び基準]		【試験】	
[使用テキスト] 『リズム運動と子どもの発達』(かもがわ出版)講義内で必要なプリントを配布します。		【授業内評価】		・筆記試験 () %	
[参考文献]		・平常点評価 (100 %)		・レポート () %	
		・到達度の確認 () %		・実技試験 () %	
		・実技・作品発表 () %		・面接試験 () %	
[フィードバックの方法] 各々の講師で課題レポートについて保育技術へのコメントを行う。		[備考]。 集中講義(9月)実施のため、単位修得ができなかった場合は、2年次の幼稚園実習履修不可になる。 学外授業になるので、会場までの交通費等は各実費負担。 ※講師の都合で、順序・時期・場所等調整する場合は、事前に通ずる。またオリエンテーションは必ず受けること。			

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 乳児保育 I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講 義		授業担当者 野村 朋	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター
□ 実務経験		発達相談員として乳幼児健診、育児支援、保育所巡回相談の経験を活かし講義を行う			
[授業の目的・ねらい] 子どもの育ちを支え、保護者支援を行うことは今日の乳児保育において求められている保育者の役割である。乳児の保育の歴史と社会的意義を理解し発達に応じた保育方法を説明できるようになる。					主に対応するDP 1,2
[授業全体の内容の概要] 乳児の発達に応じた保育のあり方について基礎的な知識を学び、乳児保育において必要とされる基礎的な技能を修得する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 乳児保育に必要な養護内容・保育内容について説明し、実演できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 本講義の目的・ねらい、概要、到達目標、評価について説明を受ける			講義概要を読む		
2) 赤ちゃんの姿を知る：視聴覚教材を用いて生後1ヶ月間の乳児の発達の姿を具体的に知る。			赤ちゃんの動画を視聴しておく		
3) 乳児保育の一日：保育園における乳児の生活とあそびを知る 0歳児の身体の特徴と集団保育における配慮点について学ぶ			テキストの該当箇所を読んでおく		
4) 乳児院における乳児の生活とあそびを知る			テキストの該当箇所を読んでおく		
5) 基本的な生活習慣の獲得と保育 乳児の健康と安全を保障する。集団保育における配慮点について学ぶ。			テキストの該当箇所を読んでおく		
6) 乳児保育における計画 保育所保育指針、全体的な計画、長期・短期の指導計画について学ぶ			テキストの該当箇所を読んでおく		
7) 乳児保育における評価 保育計画・指導計画の必要性和乳児保育における評価の意義と方法について学ぶ			テキストの該当箇所を読んでおく		
8) 乳児保育の実際 ゲストスピーカーを迎え、乳児保育の実践から学ぶ			事前に提示された課題		
9) 乳児の発達と保育内容 ゲストスピーカーを迎え、乳児期における身体機能・対人関係の発達と保育について学ぶ			事前に提示された課題		
10) 乳児保育のあそびと環境 0歳児のあそびと環境構成について学ぶ			テキストの該当箇所を読んでおく		
11) 乳児保育のあそびと環境 1歳児のあそびと環境構成について学ぶ			テキストの該当箇所を読んでおく		
12) 乳児保育のあそびと環境 2歳児のあそびと環境構成について学ぶ			テキストの該当箇所を読んでおく		
13) 乳児の養育環境と乳児保育の課題 ゲストスピーカーを迎え、保育所(又は乳児院)での乳児保育の実践から学ぶ			テキストの該当箇所を読んでおく		
14) まとめと到達度の確認 まとめを行い到達度を確認する			今までの復習 資料をまとめる		
15) まとめ テストの返却と解説を受け、講義全体のまとめを行う					
[使用テキスト] 『テキスト乳児保育』フォーラム A					
[参考文献] 『シリーズ 子どもと保育 0歳児』 必要に応じて授業内に紹介する					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価 (30%)	小レポートの提出と内容				
②到達度の確認 (%)					
③実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (70%)	講義内容の理解と知識を問う				
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 授業時間内に解説					
[備考]					

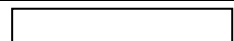
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 乳児保育Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 高砂朋子 出水和美	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
☑ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 乳児の発育・発達過程や特性を踏まえ、援助や関わりのある方を具体的に理解する。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 乳児保育に必要な知識を実践的に理解し、発達にあった乳児保育の技能を身につける。発達・月齢・年齢にあった手あそび・ふれあいやあそびの基礎を習得し、実習等で実践できるようにする。(教材制作予定)					
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 乳児保育の基礎的な知識・技能を習得する。					
[準備学習の内容]					
<p>(事前学習) 乳児期の絵本を3冊選書して読んでおくこと。レポートを提出すること。 乳児保育Ⅰで学んだ資料を整理し、内容の理解を深めておくこと。テキストを読み返して復習しておく。(1時間)</p> <p>(事後学習) 授業内容を振り返り、授業内で配布された資料をまとめて整理する。事前学習の乳児期の絵本、授業で取り組んだ乳児のあそびについてまとめ、自主テキストの冊子を作成する。(1時間)</p>					
[授業の日程 (担当者) と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学習の内容の詳細]		
4) 本講義のオリエンテーション 乳児保育の実際 排泄・清潔・食事について実践的に学ぶ。 本講義の目的・ねらい、概要、到達目標、評価などについて説明を受ける。			子ども・保育問題に関する社会 会事象を意識し、新聞やニュー スを見聞きしておくこと。		
5) 乳児保育の実際 排泄・清潔・食事について実践的に学ぶ。(グループワーク) オムツ替えや着替え・ミルクの調乳の際の留意点など、具体的な養護の方法について 教材用の赤ちゃん人形を用いて実技を行いながら学ぶ。			第1講を振り返りレポート を提出する。テーマは授業 内に説明する。		
6) 乳児保育の実際② 排泄・清潔・食事について実践的に学ぶ。(グループワーク) オムツ替えや着替え・ミルクの調乳の際の留意点など、具体的な養護の方法について 教材用の赤ちゃん人形を用いて実技を行いながら学ぶ。			前講を振り返りレポートを 提出する。テーマは授業内 に説明する。		
4) 乳児保育における教材 健康・安全を保障するために乳児期の身体の特徴を理解し配慮点について学ぶ。			前講を振り返りレポートを 提出する。テーマは授業内 に説明する。		
5) 乳児保育における教材② 健康・安全を保障するために乳児期の身体の特徴を理解し配慮点について学ぶ。			前講を振り返りレポートを 提出する。テーマは授業内 に説明する。		
6) 乳児保育における計画：あそび 保育所保育指針、全体的な計画、長期・短期の指導計画について学ぶ 乳児保育の実践から学ぶ。			前講を振り返りレポートを 提出する。テーマは授業内 に説明する。		
7) さまざまな保育課題と保育内容 乳児保育における計画と評価。乳児保育の記録について学ぶ			前講を振り返りレポートを 提出する。テーマは授業内 に説明する。		
8) 授業のまとめ・到達度の確認。正答について解説し、保育技術へのコメントを行う。 まとめを行い到達度の確認をする。授業で取り組んだ内容を理解し、授業のまとめを 資料集(教材)として製本を予定する。			全体を振り返り、到達度の 確認に臨めるよう復習する 詳細は授業内に説明する。		
[使用テキスト] 適宜、必要なプリントを配布します。「保育所保育指針解説書」					
[参考文献] 「子ども・子育て白書」内閣府(最新版)、「保育白書」ひとなる書店、「保育 小事典」大月書店、「保育用語辞典」ミネルヴァ書房、「保育所保育指針解説書」『子ども と楽しむ遊びわらべうた』『乳児の生活と保育』ななみ書房 『テキスト乳児保育』フ ァーラムA『シリーズ 子どもと保育 0歳児』/授業内で必要に応じて絵本、著書を紹介する					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】			【定期試験】		
③ 平常点評価 (40%)			② 筆記試験 (%)		
④ 到達度の確認 (60%)			②レポ ー ト (%)		
⑤ 実技・作品発表 (%)			③実 技 試 験 (%)		
			④面 接 試 験 (%)		
[フィードバックの方法] レポート課題提出後に参考例 を開示する。		最終講：正答について解説し、保育技術へのコメントを行う。			
[備考] ・		乳児保育Ⅰでの指定テキスト参照。乳児保育Ⅰの授業レジュメ・資料等をファイルしたも のに追加して綴るよう取り組む。			

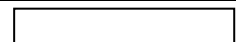
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 障害児保育		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 野村朋	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	単位	配当	2 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		発達相談員			
[授業の目的・ねらい] 障がいをもつ子どもの保育についての基礎知識を習得し、権利としての障がい児保育の在り方を学ぶ					主に対応するDP (未選択)
[授業全体の内容の概要] 障がいについての基礎的な知識と保育上の留意点について学び、関係機関の種類と役割を知り、連携の必要性について学ぶ					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 障がいについて基礎的な知識を持ち、障害をもつ子どもの発達を保障する保育の在り方について考察することができる					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 障がいとは何か; 「障がい」をどのようにとらえるか、身近な例をもとに障がいの定義・種類・基本的な考え方を学ぶ			テキストの該当箇所を読む		
2) 障がい者差別解消法と合理的配慮			テキストの該当箇所を読む		
3) 障がいについての基礎知識① 視覚障がいについて学ぶ			テキストの該当箇所を読む		
4) 障がいについての基礎知識② 聴覚障がいについて学ぶ			テキストの該当箇所を読む		
5) 障がいについての基礎知識③ 肢体不自由について学ぶ			テキストの該当箇所を読む		
6) 障がいについての基礎知識④ 知的障がいについて学ぶ			テキストの該当箇所を読む		
7) 障がいについての基礎知識⑤ 自閉症スペクトラムについて学ぶ			テキストの該当箇所を読む		
8) 障がいについての基礎知識⑥ LD、ADHD について学ぶ			テキストの該当箇所を読む		
9) 障がいについての基礎知識⑦ 医療との連携・医療的ケアが必要な子どもの保育について学ぶ			テキストの該当箇所を読む		
10) 障がいについての基礎知識⑧ 運動障害をもつ子どもの保育			テキストの該当箇所を読む		
11) 障がい児保育と発達支援の関係機関 専門機関での療育			テキストの該当箇所を読む		
12) 障がいを持つ子どもの保育の歴史と現状 障がい児保育・教育の歴史と到達点について学ぶ			テキストの該当箇所を読む		
13) 障がい児保育の実際① ゲストスピーカーを招いて、障がい児保育の実際について知る			事前に提示した課題に取り組む		
14) 障がい児保育の実際②: 家族の障がい受容と成長 ゲストスピーカーを招く			事前に提示した課題に取り組む		
15) 障がい児保育の実際③: ライフサイクルを通じた発達保障のあり方を学ぶ ゲストスピーカーを招く			事前に提示した課題に取り組む		
[使用テキスト] 「主体性をはぐくむ障がい児保育」野村朋, 荒木美智子 代表編者					
[参考文献] 「発達の扉 下」白石正久 かもがわ書店					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価 (20 %)	小レポートの提出と内容評価				
②到達度の確認 (%)					
③実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (80 %)	講義内容の知識と理解を問う				
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 模範解答を公開する					
[備考]					

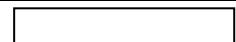
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 社会的養護Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義・演習		授業担当者 北川 拓	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		児童福祉司の経験を活かし、実践の場で応用できる支援方法や援助技術が身につく授業を行う。			
[授業の目的・ねらい] 社会的養護の現状や児童福祉をめぐる最新の動き、児童福祉施設での子どもとの関わり方や、施設の目的・機能、施設職員の役割などを理解するとともに、現代の社会情勢も併せて理解する。					主に対応するDP (未選択)
[授業全体の内容の概要] 居住型児童福祉施設におけるソーシャルワーク支援とはなにか、施設実習の目的、意義、支援内容、実習記録の書き方を身につける。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 「子どもは権利の主体者である」とはどういうことか、対人援助に必要な「自己覚知」とは何か、居住型児童福祉施設実習に向けて求められる知識や技能を身につける。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション：施設実習に向けての心構えと準備 ・居住型児童福祉施設における「支援内容」について ・守秘義務とは			児童福祉法第37条〔乳児院〕 児童福祉法第41条〔児童養護施設〕 上記について調べる		
2) 社会的養護の下で暮らす子どもたちへの理解 ・アドミッションケアからアフターケアまで ・社会的養護の下で暮らす子どもの理解 ・課題レポート (対人援助に必要な「自己覚知」とは)			「自己覚知」の意味を調べる		
3) 児童福祉施設実習の目的・意義 ・目的、意義についての講義 ・演習：「施設実習における演習問題」 ・課題レポート (演習事例問題についてレポート作成)			「社会的養護」の意味を調べる		
4) 実習記録の目的と意義 ・実習記録の目的と具体的記載内容 ・観察内容と考察内容の書き方の違いと留意点			「受容とは」なにか調べる		
5) 里親制度について ・新しい社会的養育ビジョンと里親制度 ・里親 Q&A			愛着 (アタッチメント) について調べる		
6) 里親体験談 (ゲストスピーカー) ・体験談と質疑応答 ・課題レポート「里親体験談の感想」			「退行・試し行動」について調べる		
7) 保育実習課題 (居住型児童福祉施設) 作成の留意点 ・現場実習課題作成のポイント			児童福祉施設の役割や機能を具体的に理解する		
8) 全体のまとめ ・全体の振り返り ・施設実習での自己課題 (実習で学びたいことを二点あげる) 下書き			施設実習で特に学びたいこと2つを考える		
[使用テキスト] 毎授業ごとに資料を配布する					
[参考文献] 社会福祉小六法					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
① 平常点評価 (50%)	平常時における提出物、授業態度によって評価する				
② 到達度の確認 (30%)	授業内の課題レポートの内容が適切であったか考察はできているかで評価する				
③ 実技・作品発表 (20%)	発表内容や事前準備の取り組みによって評価する				
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 毎時間ごとに全体の振り返りと質問時間を設ける。毎授業で課題レポートを提出する。					
[備考]					

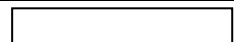
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 子育て支援 I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 伊藤	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
☑ 実務経験		保育士の経験を活かし、地域の子育て支援の方法、具体的な事例を紹介する			
[授業の目的・ねらい] 子ども・保護者・家庭の抱える支援のニーズや背景を理解し、保育士が行う子育て支援の特性について学び、具体的な実践事例を通して、保育相談支援の方法や展開方法についての知識と技術を身につけることを目的とする。					主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] 現代社会では家族形態も変化し、地域との関わりも希薄となったため子育てが難しい社会となり、子育てをする保護者や子育て家庭が孤立する傾向にある。そのような保護者や子育て家庭の背景、多様なニーズに対する支援等、保育所保育指針に基づく子育て支援の基本について概説する。また、具体的な事例から子育て支援の展開に必要な展開方法について説明し、保育士が行う多様な子育て支援の相談援助、方法、技術について講義や演習を行う。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)]					
1. 保育士が行う子育て支援について、社会的な背景を理解し、求められる子育て支援について説明できる。					
2. 保護者に対する保育相談支援 (相談援助、情報提供、行動見本の提示等) について理解し、説明することができる。					
3. 保育士が行う子育て支援について、実践事例から多様な場面における支援の方法や技術について理解し、説明することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション、保育士が行う子育て支援の特性① 子どもの保育と保護者支援、子育て支援の基本について			事前・後『保育所保育指針解説書(解説書)』 p. 13-18 を熟読しまとめる。(各 60 分)		
2) 保育士が行う子育て支援の特性② ◎グループワーク 保護者が抱える多様なニーズへの気づきと多面的な理解について			解説書 p. 328-332 を熟読しまとめる (60 分) 子育て支援の基本をまとめる。(60 分)		
3) 子育て支援の展開 子ども・保護者の状態把握・支援計画・環境構成・実践の展開			子育て支援の現状について調べる。(60 分) 支援計画についてまとめる。(60 分)		
4) 子育て支援の実際 (内容・方法・技術) ① 子ども・保護者の状況・状態を把握し、子育て支援の実際と展開			実習園での子育て支援をまとめる。(60 分) 在園児の子育て支援をまとめる。(60 分)		
5) 子育て支援の実際 (内容・方法・技術) ② 地域の子育て支援家庭に対する支援の方法			地域の子育て支援を調べる。(60 分) 地域の子育て支援をまとめる。(60 分)		
6) 子育て支援の実際 (内容・方法・技術) ③ 障がいのある子ども、特別な配慮を要する子どもと家庭に対する支援			解説書 p. 334-336 を熟読しまとめる。(60 分) 多様な子育て支援をまとめる。(60 分)		
7) 子育て支援の実際 (内容・方法・技術) ④ 子どもの虐待の予防と対応、要保護児童の家庭に対する支援			解説書 p. 336-338 を熟読しまとめる。(60 分) 子どもの虐待と予防についてまとめる(60 分)		
8) 子育て支援の実際 (内容・方法・技術) ⑤ 多様な家庭の理解、社会資源・関係機関・専門職との連携・協働			解説書 p. 339-342 を熟読しまとめる。(60 分) 地域の社会資源の重要性をまとめる。(60 分)		
[使用テキスト] 必要に応じて資料を配布する。					
[参考文献] 小野崎佳代 石田幸美編著 『MINERVA 保育士キャリアアップ研修テキスト6 保護者支援・子育て支援』 ミネルヴァ書房 2020年 厚生労働省編 『保育所保育指針解説書』 フレーベル館 2018年					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価 (50 %)	授業における提出物、受講態度等により評価を行う。				
②到達度の確認 (50 %)	第4回、第8回の到達度確認テストより評価を行う。				
③実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 提出された課題について、授業内で解説し、フィードバックを行う。					
[備考]					

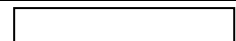
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 保育実習指導 I a (保育所)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演 習		授業担当者 高砂朋子 ほか			
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター		
☑ 実務経験							
[授業の目的・ねらい] ①保育実習の意義・目的を理解する。②実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。③実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。④実習の計画・実践・観察・評価の方法や内容について具体的に理解する。⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。					主に対応するDP 1, 2, 3, 4		
[授業全体の内容の概要] 保育実習 I a の意義・目的、内容、留意事項を具体的に理解し、保育観察や部分実習の方法、実習の記録の方法、基本的な保育技術、技法を身につける。							
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 保育基礎ゼミや他の関連科目と連携しながら、実習に向けての基礎知識を身につける。実習の意義・目的を理解し、実習に必要な観察・記録・計画・評価の基本を理解する。保育士の業務内容や職業倫理について理解する。							
[準備学習の内容]							
<p>(事前学習) 日常の健康管理に十分留意し、実習に望むために心構えと体力を養っておく。実習のための予備知識を深め、提出期限を見通した書類作成に臨む。挨拶・マナーを身につけておく。保育実習に関する科目のテキスト等を復習しておく。(事後学習) 授業内容を振り返り、学んだことを整理して、実習のまとめを行い課題を明確にする。</p>							
[授業の日程 (担当者) と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学習の内容の詳細]			
1) 保育所実習について ・保育所実習に意義と目的、実習概要を理解し、実習に必要な書類を作成できる。 ・実習園への依頼と必要な手続きを行うことができる。				子ども・保育問題に関する社会事象を意識し新聞やニュースを見聞きしておく事。 第 1 講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。 前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。			
2) 保育観察のポイント、事前訪問について ・保育所の一日の流れがわかり、実習の内容を理解する事ができる。(DVD 視聴) ・事前訪問に必要な書類を作成し、事前訪問における心構えを理解する事ができる。							
3) 保育士の役割について ・保育所の役割・機能、一日の生活の流れを求め、保育士の役割について理解する事ができる。							
4) 部分実習の計画・保育技術(手遊び・絵本読み聞かせ等) ・「実習における指導計画」を立案する。(教育課程論等と連携し、実践できるものに完成する)							
5) 部分実習の計画・保育技術(手遊び・絵本の読み聞かせ等) ・指導計画の立案に基づく模擬保育を行う							
6) 部分実習の計画・保育技術(手遊び・絵本の読み聞かせ等) ・指導計画の立案に基づく模擬保育を行う							
7) 実習課題の設定 ・部分保育の準備をする ・実習に向けての自己課題を設定する事ができる							
8) 実習生の心得・留意事項・実習の記録の書き方(直前指導) ・実習生としてふさわしい服装、言葉遣い、社会人としての挨拶等実習に向う心構えがわかる。・プライバシーの保護と守秘義務等を確認する。・乳幼児の観察と記録の取り方、実習の記録の書き方がわかる。							
8) 実習のまとめ(事後指導) ・実習を振り返り、実習での体験をまとめる。							
10) 11) 12) 実習のまとめ (グループワーク) ・実習を振り返り、実習の学びを交流しながら、自分の意見を発表する事ができる。・今後の課題を明確にすることができる。							
13) 14) 実習のまとめ 実習報告会(全体) ・実習を振り返り、実習の学びを交流しながら、自分の意見を発表する事ができる。・今後の課題を明確にすることができる。							
15) 実習のまとめ ・お礼状を書く ・実習報告会を振り返り、自己評価をする							
[使用テキスト] 保育実習 I a 「実習の記録」、「実習ハンドブック」、適宜配布資料は配布する専用ファイルに綴じて毎授業で使用する 久富陽子 「幼稚園・保育実習指導計画の考え方・立て方」(萌文書林)「保育所保育指針」							
[参考文献] 授業内で必要に応じて絵本、著書を紹介する							
[評価の実施方法と基準]							
【平常試験】		【定期試験】					
⑩ 平常点評価 (60%)		①筆記試験 (%)					
⑪ 到達度の確認 (40%)		②レポート (%)					
⑫ 実技・作品発表 (%)		③実技試験 (%)					
		④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 実習終了後のまとめ・報告会で、総評しフィードバックを行う。							
[備考] 実習・実習指導は連動します。評価は総合的にを行います。やむを得ず欠席する場合は連絡をして、自ら必ず補講を申し出て受けること。まとめの資料は、2年次の実習指導での資料になるので、ファイリングして保管しておくこと。保育園で現場体験を実施します。詳細は授業内に説明する。交通費は、配属園まで各自実費になりますので、準備しておくこと。(原則、公共交通機関を使用する)その他、給食費等も準備しておく。							

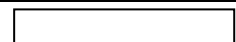
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 保育実習指導 1 b		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 高砂・今滝・北川・辻・出水	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 1 単位	配当 2	セメスター	必修・選択必修・選択	
☑ 実務経験 保育士、教員、児童福祉司の経験を活かし実践の場で応用できる知識や技術について授業を行う					
[授業の目的・ねらい] ①実習施設の意義・目的を理解する。②児童養護施設・乳児院の機能と社会的役割を学ぶ。③実習内容を理解し自らの実習の課題を明確にする。④実習における観察、記録及び評価について理解する。⑤実習での体験を振り返り個々のまとめを報告し、討論を通して保育者の役割について理解を深める。				主に対応するDP (未選択)	
[授業全体の内容の概要] 先輩の話、児童養護施設の先生の講義など実践に即した内容を通して、「施設実習」の意義・目的を理解し意欲を高める。グループ学習を通して実習施設の概要を学び、機能・役割を理解する。実習後のまとめとグループ討論、全体報告を通して、施設実習の内容を共有し深める。*ゲストスピーカーを呼んでの講義を行う場合もある。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 実習及び実習報告会に取組み、施設における子どもの理解を深め保育士の役割を説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 保育実習 1b の概要説明 ・施設実習の意義と目的、実習概要を理解する (DVD 視聴) ・実習施設への依頼と必要な手続きを行うことができる ・課題：実習施設について調べる			『実習の記録』配布		
2) 実習施設の機能・役割について ・実習先の概要を調べ、施設での生活の流れを理解する。 ・事前訪問に必要な書類を作成し事前訪問における心構えを理解することができる。			事前訪問報告書配布 配属先一覧		
3) 対象児童・施設への理解 他の事業も踏まえて自らが実習先の理解を深める。 ・ゲストスピーカーにより里親制度についての話を聞く			里親制度について質問事項を考えておく		
4) 対象児童・施設への理解 ・事例検討等を通して自らの実習先の理解を深める ・先輩の体験談を聴く			施設実習に関する質問事項を考えておく		
5) 対象児童・施設への理解 ・事例件を通して社会的養護の下で暮らす子どもの理解を深める			アタッチメントについて調べる		
6) 実習課題の設定 ・実習に向けて自己課題を設定する			実習で何を学びたいか考えておく		
7) 実習生の心得・留意点・実習記録の書き方 (直前指導)			観察と考察の違いについて調べる		
8) 実習のまとめ (事後指導) ・実習の振り返り、実習での体験をまとめる			実習体験のまとめの準備をする		
9) 10) 11) 実習のまとめ (グループワーク) ・実習を振り返り、実習の学びを交流しながら自ら発表することができる ・今後の課題を明確にする					
12) 13) 実習のまとめ (全体報告会) ・実習を振り返り、実習の学びを交流しながら自ら発表することができる ・今後の課題を明確にする					
14) 15) 実習のまとめ お礼状を書く・自己評価をする。 1年間の実習を振り返り、2年生への課題を明確にする					
[使用テキスト]実習の記録・実習ハンドブック・授業時配布資料					
[参考文献]					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
① 平常点評価 (60%)	平常時におけるレポート提出や授業態度により評価する				
② 到達度の確認 (40%)	事前準備ができているか、発表内容は適切であったかなど総合的に評価する。				
③ 実技・作品発表 ()%					
【定期試験】					
①筆記試験 ()%					
②レポート ()%					
③実技試験 ()%					
④面接試験 ()%					
[フィードバックの方法]各授業ごとに振り返りと質問時間を設けるとともに実習終了後で解説しフィードバックを行う					
[備考]実習・実習指導は連動します。やむを得ず欠席する場合は必ず補講をうけること。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 保育実習 I a (保育所)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 実習		授業担当者 高砂朋子 ほか	
授業の回数	80 時間	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
☑ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] ①保育所等の役割や機能を具体的に理解する。②観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める③既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。④保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。⑤保育士等の業務内容や職業倫理について理解する。					主に対応するDP 1, 2, 3, 4
[授業全体の内容の概要] 保育所等で実際に子どもとの生活をともにしながら、観察実習、部分実習を行いながら、子ども理解を深める。保育者の指導のもとで保育所等の役割や保育士等の業務内容や倫理観について理解する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 保育所等での実習を通して、保育所等の役割や機能を具体的に説明できる。既習の教化全体の知識・技能を基礎とし、これらを実習の場で実践できる。保育士として職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について討論できる。					
[準備学習の内容]					
<p>(事前学習) 「保育実習指導 I a」で事前指導を行う。</p> <p>(事後学習) 実習を振り返り、学んだことを整理してまとめる。自己評価に取り組み、現場評価の開示面談に取り組む。「保育実習指導 I a」で事前指導を行い課題を明確にする。</p>					
[授業の日程 (担当者) と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学習の内容の詳細]	
<p>「保育実習 I a」 (10 日間) 観察実習・部分実習を行う</p> <p>○保育所等の役割と機能</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育所等の一日の生活と保育の流れを理解し、保育者の援助やかかわりについて学ぶ 保育の多様化に伴い、子ども・保護者に必要な支援のあり方や過程・地域社会との連携について学ぶ。 <p>○子ども理解</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達過程を理解し、子どもへの援助や関わり方を理解する <p>○保育内容・環境構成</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育者の指導のもとに、助言・指導を受け、保育内容と保育技術について具体的、実践的に学ぶ。 子どもの生活や遊びと環境構成のかかわりについて学ぶ。 <p>○保育の計画・観察・記録</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習での学びを「実習の記録」に記録・整理し、自己評価をし、課題を明確にもって実習に望む 子どもの発達過程や保育環境に応じた計画について学ぶ。 <p>○保育士等の業務内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育士等の業務内容を理解し、保育士の役割や職業倫理について学ぶ。 				基礎学習として各種授業に出席して学習し、事前実習指導の内容を理解して授業準備を進める。必要に応じて補習を受ける。	
[使用テキスト] 実習ハンドブック・実習の記録・授業時配布資料 久富陽子 「幼稚園・保育実習指導計画の考え方・立て方」(萌文書林)					
[参考文献] 授業内で必要に応じて絵本、著書を紹介する					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
平常点評価 (60%)					
到達度の確認 (40%)					
実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 提出された課題について、実習指導と連携しフィードバックを行う。					
[備考] 実習・実習指導は連動し、評価は総合的に行います。保育実習 I a・保育実習指導 I a 単位修得により、保育実習 II に取り組むことができる。本科目の単位不可の場合は再実習を希望することができる。その場合は必ずしも年度内履修ができるとは限らず、別途費用が発生する。交通費は、大学配属園まで各自実費になりますので、準備しておくこと(原則、公共交通機関を使用する)その他、給食費等も準備しておく。諸々詳細は授業内に説明する。					

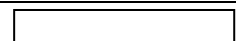
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 保育実習指導 1 b (実習)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 実習		授業担当者 高砂・今滝・北川・辻・出水	
授業の回数 80 時間	時間数(単位数) 2	単位	配当 2	セメスター	資格必須
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験		保育士、教員、児童福祉司の経験を活かし指導に当たる			
[授業の目的・ねらい] ①児童福祉施設の役割や機能を具体的に理解する。②児童福祉施設 (居住型) の生活に参加し、他職種と連携や生活援助の中で子どもの理解を深める。③児童福祉施設 (居住型) の対象児童と、その家族の抱える問題や社会的背景について学ぶ。④実習に必要な手続きや実習記録の書き方を学ぶ。					主に対応する D P (未選択)
[授業全体の内容の概要] ・ 児童養護施設・乳児院の生活に参加し子どもへの理解を深める。 ・ 施設の機能と役割を理解するとともに保育士の援助や関わりについて学ぶ。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 児童養護施設・乳児院の役割や機能についての理解を深める。施設で生活する子どもたちとの関りを通して、子どもの心身の状態に応じた生活や、援助方法を学び実践しようとする。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
<実習の内容> ○施設の役割と機能 ・ 実習施設について理解する ・ 施設における子どもの生活と保育士の援助や関りを理解する ○施設における子どもの生活と子どもの理解 ・ 施設の生活に参加し、一日の流れや施設での生活状況を理解する ・ 観察を通して子どもの実態を理解し、子どもの心身に合った支援の方法や、子どものニーズを理解する。 ・ 生活や援助の一部を担当し養護技術を取得する ○計画と記録 ・ 援助計画の意味を理解し、年齢・発達・個人の特性に応じた支援計画のあり方を学ぶ ・ 記録に基づいた省察・自己評価をする ○保育士の役割と倫理 ・ 職員間の役割分担や連携の在り方を学ぶ ・ 子どもの最善の利益を具体化させる方法について学ぶ ・ 守秘義務の遵守、個人のプライバシーの保護等について学ぶ ・ 安全及び疾病予防への配慮について理解する			保育実習 1 b (演習) で事前指導を行う		
[使用テキスト] 実習の記録・実習ハンドブック・授業時配布資料					
[参考文献]					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
④ 平常点評価 (60%)	平常時におけるレポート提出や授業態度により評価する				
⑤ 到達度の確認 (40%)	自己課題に対する理解や実習先での評価などを総合的に判断する				
⑥ 実技・作品発表 ()%					
【定期試験】					
①筆記試験 ()%					
②レポート ()%					
③実技試験 ()%					
④面接試験 ()%					
[フィードバックの方法] 実習終了後のまとめ・報告会で解説しフィードバックを行う					
[備考]実習・実習指導は連動します。やむを得ず欠席する場合は必ず補講をうけること。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 実習入門		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演 習		授業担当者 高砂朋子 ほか	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	1 単位	配当 1 セメスター	必修
☑ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] ①実習の意義・目的を理解し、実践的知識・技術の習得を図る。②保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。③観察や子どもとの関わりを通して子ども理解を深める。④保育の計画・観察・記録について、体験を基に理解し作成できる。					主に対応するDP 1, 2, 3, 4
[授業全体の内容の概要] 実習ハンドブックを活用し、実習の意義・目的等、実習の概要を把握する。保育所、児童福祉施設の見学・体験をもとに子ども理解及び、施設の役割や機能を理解する。保育の記録や計画の立て方について具体例に学びながら、作成、実践、評価が出きるようになる。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 保育基礎ゼミや他の関連科目と連携しながら、実習に向けての基礎知識を身につける。実習の意義・目的を理解し実習に必要な観察・記録・計画・評価の基本を理解する。保育士の業務内容や職業倫理について理解する。					
[準備学習の内容]					
(事前学習) 子ども・保育問題に関する社会事象に目を向け、新聞やニュースを見聞きしておくこと。他の教科目の授業もすべて実習の基礎知識になることを理解し、観察や記録に活かしていく。(1時間)					
(事後学習) 授業内容を振り返り、学んだことを整理して、実習に臨む準備を行う。(1時間)					
[授業の日程 (担当者) と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学習の内容の詳細]		
7) 本講義のオリエンテーション ・実習とは ・実習の流れ、実習の種類と目的・実習の心得 ・保育実習の具体的なイメージ (DVD 視聴)			子ども・保育問題に関する社会事象を意識し、新聞やニュースを見聞きしておくこと。		
8) 保育所の生活と子ども理解 ・保育所の一日の流れと保育者の援助を具体的な事例にもとづいて理解する			第1講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。		
9) 保育所の生活と子ども理解 ・保育の記録の取り方、ポイント			前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。		
10) 保育内容と子どもにそった「指導計画」のあり方 「指導計画」(部分実習)の基礎を学保育園体験(観察)・子ども観察、保育園の活動体験			前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。		
11) 保育内容と子どもにそった「指導計画」のあり方 「指導計画」(部分実習)の基礎を学保育園体験(観察)・子ども観察、保育園の活動体験			前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。		
6) 実習の記録の記入の仕方・保育園体験をもとに実習の記録を書く(グループワーク) ・体験での学びの交流、省察の仕方			前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。		
7) 保育の計画 ・部分保育とは ・指導計画案の書き方			前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。		
8) 計画にもとづく実践準備 ・計画にもとづき実践をする(模擬保育)・見直し・準備			前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。		
9) 保育士の役割・職業倫理・保育士の業務内容、職員間の連携・協働に気づく。保育士の職業倫理についてグループ討論を行う。			前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。		
10) 保育実習Ⅱ 実習報告会に参加する			前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。		
11) 保育実習Ⅱ 実習報告会に参加する			前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。		
12) 施設実習について ・児童養護施設とは (DVD 視聴) ・施設見学に向け、事前学習を深める (グループワーク)			前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。		
13)14) 施設見学			前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。		
15) 施設見学の振り返り、まとめ ・児童養護施設の子どもの理解と保育士等の役割を理解する。・実習入門のまとめ			全体を振り返り、到達度の確認に臨めるよう復習する詳細は授業内に説明する。		
[使用テキスト]実習ハンドブック・実習の記録・授業時配布資料 久富陽子「幼稚園・保育実習指導計画の考え方・立て方」(萌文書林)					
[参考文献]授業内で必要に応じて絵本、著書を紹介する					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
【平常試験】			【平常試験】		
⑬ 平常点評価 (60%)			①筆記試験 (%)		
⑭ 到達度の確認 (40%)			②レポート (%)		
⑮ 実技・作品発表 (%)			③実技試験 (%)		
④ 面接試験 (%)					
[フィードバックの方法]提出された課題について、15回講義時に総評しフィードバックを行う。					
[備考]保育園で現場体験を実施します。詳細は授業内に説明する。交通費は、各自実費になりますので、準備しておくこと。まとめの資料は、2年次の実習指導での資料になるので、ファイリングして保管しておくこと。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 子どもの権利		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義・演習		授業担当者 北川 拓	
授業の回数	回	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター
必修・ 選択必修 ・選択		□ 実務経験 児童福祉司としての経験を活かし、問題の背景や機関連携の重要性について講義と演習を行う。			
[授業の目的・ねらい] 子どもの権利条約を中心に、児童福祉法制定過程を通して「子どもの最善の利益」とは何か、各自が主体的に考え考察できる力を身につける。					主に対応するDP (未選択)
[授業全体の内容の概要] 子どもの人権のあゆみを理解することで、「子どもの最善の利益とは何か」、児童福祉法改正の意義や「国連子どもの権利委員会日本政府第4・5回統合報告書に関する最終所見」等を通して、ワークショップ・グループ討論・映像などを通して「子どもの人権が守られる社会とはどのような状況か」を考察する					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 「子どもの人権が守られる社会とはどのような社会か」主体的に考え実践し、「見えない社会を見る力」を身につけ、保育士として必要とされる専門性や人間性を身につける。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション 授業の進め方の説明 講義：子どもの権利とは何か ワークショップ：愛着・別れ・喪失感			保育を学ぶ動機について発表できる		
2) 保育士として求められる専門性や人間性とは何か			人間性とは何か各自が事前に調べる		
3) 「国連子どもの権利条約」の条文の中から、関心を持った条文の発表と討論を行う (具体的な事例をあげながら条文の説明ができるようになる)			子どもの権利条約について調べる		
4) 児童福祉法成立の背景 GHQの「児童福祉法総合政策構想」から児童福祉法制定までの背景 ・映像鑑賞 (感想文のレポート作成)			児童福祉法第1条を覚える		
5) 子ども虐待の援助に関する基本事項 ・児童虐待、包括的虐待とはなにか ・ディスカッション：児童虐待の要因について考えられること ・課題レポート：児童虐待の通告件数増加の要因として考えられること			児童虐待の種類について調べる		
6) 国連子どもの権利条約からみた日本の社会的養護と里親制度 ・講義：里親制度の解説 ・ディスカッション：里親委託優先の原則と里親委託が増えない日本の現状と課題			里親の種類について調べる		
7) 映像鑑賞 ・児童養護施設の創成期 ・ディスカッション：児童養護施設入所理由の変化から、子どもの人権と今日の社会状況をどうとらえるか			児童福祉法第41条 児童養護施設について調べる		
8) 全体のまとめ 「国連子どもの権利委員会日本政府第4・5回統合報告書に関する最終所見」の分析と解説 ・ディスカッション(子どもの権利学習を通して身近にできる取り組みはないか) ・レポート提出・全体の総括			最近のニュースで子どものことに関心を持ったことを調べる		
[使用テキスト] 児童福祉法小六法 (他教科で購入の場合は持参のこと)					
[参考文献] 資料は各回授業時に配布する					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
① 平常点評価 (50%)		平常授業におけるレポート提出や授業態度により評価			
② 到達度の確認 (30%)		課題レポート提出や発表内容が適切であったか考察はできているかで評価			
③ 実技・作品発表 (20%)		発表内容や事前準備の状況により評価			
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 毎授業時に質問時間を設けるとともに、課題レポートを提出しフィードバックを行う					
[備考]					

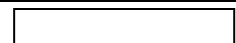
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 保育の家政学		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 染原剛(管理栄養士)・近藤由岐子(管理栄養士)、井上かおる	
授業の回数	回	時間数(単位数)	単位	配当	セメスター
□ 実務経験		医療機関での外来や地域での食事指導や相談の経験から、子どもの食事のポイント等講義する。			
[授業の目的・ねらい] 保育者として必要な食育のための調理実習を中心に、清掃や洗濯等生活技術の知識と技術を演習の中で習得する。					主に対応するDP (未選択)
[授業全体の内容の概要] 食育に関する知識をもとに、クッキング保育の展開とそれに必要な調理や、清掃、洗濯等保育者にとって必要な家政学の知識と技術を、実習を通して身につける。全体を通じてグループワークで行う。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 食育を保育の中で実践できる力を身につける。また、子育て支援としても必要な、清掃、洗濯、裁縫等の生活技術の知識と技術を身につける。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション (授業の説明と調理実習室の使用について)			調乳の方法をテキストなどから予習しておく。		
2) 調理実習① 調乳、離乳食の調理			離乳食の進め方を予習しておく。		
3) 調理実習②			包丁を使用して基本の切り方を練習しておく。		
4) 子どもと作るクッキング			授業の感想をレポートにして提出。		
5) 調理実習③			授業で作った献立の中から家で調理する。		
6) 子どもと作るクッキング			授業の感想をレポートにして提出。		
7) 調理実習④			授業で作った献立の中から家で調理する。		
8) 子どもと作るクッキング			授業の感想をレポートにして提出。		
9) 調理実習⑤			授業で作った献立の中から家で調理する。		
10) 子どもと作るクッキング			授業の感想をレポートにして提出。		
11) 献立作成 (グループで幼児食の献立を作成する。)			幼児のお弁当の献立を考えておく。		
12) 調理実習⑥			各グループで考えて献立家で調理してみる。		
13) グループで考えた幼児食をじっさいに調理する。			実際に調理しての感想等レポートにして提出		
14) 手作りの小物を作る。			各自が作成するものと考えて材料を準備する。		
15) 実際に使用できる小物を作成する。			小物作成の感想をレポートにして提出。		
[使用テキスト] 「保育の家政学」冊子					
[参考文献]					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
① 平常点評価 (80%)					
② 到達度の確認 (%)					
③ 実技・作品発表 (20%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 授業の感想や、作品にたいして、個人や全体へのコメントとして返す。					
[備考]					

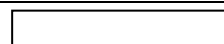
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 造形Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 井口和子	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
□ 実務経験		幼稚園での造形指導教員の経験を活かし、幼児期の造形活動について演習と講義をする。			
[授業の目的・ねらい] 子供の育ちを支える人となるために、造形における専門的知識と技術を増やす。造形Ⅱでは、立体作品制作や動くおもちゃ、版画などの課題に取り組み、自らの制作活動を通して感性を高め、子どもが生活や遊びの中で、表現や創造性を伸ばす事を援助できるようにする。					主に対応するD P 1
[授業全体の内容の概要] 新たな教材や材料を使用し、幼児期の造形活動の幅を広めるため、平面と立体について研究を深める。立体的に物事をとらえる感性や能力を高めるための制作、立体作品制作、動くおもちゃ、版画、粘土などの制作をする。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 幼児期の造形活動の様々な教材や材料を出来るだけ多く体験する事によって、知識や経験が豊かになる。平面や立体作品制作を通して、立体的に物を捉える事が出来、立体や動く事への知識と技術を獲得し、自分で工夫し考案する力をつけ、教育現場に生かせる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) ①パタパタ金魚②クルクル棒など、「動く簡単おもちゃ」を制作する。			造形教材セットの点検と補充をする。持参。		
2) 「開くと飛び出す」基本の仕組みと技法を習得し、基本形を制作する。			飛び出す絵本やカードを見てくる。		
3) 自分自身の「飛び出すカード」制作。基本型と応用型を使用する。			制作する飛び出すカードのイメージを持つ。		
4) 「飛び出すカード」作品を完成さす。提出する。			作品が完成できるように準備する。		
5) 「さまざまな造形技法」習得の1回目。学習し実際にその技法をする。					
6) 「さまざまな造形技法」習得の2回目。次回からの制作を考える。					
7) 学んだ造形技法を応用して「誕生日月の壁面構成」作品制作をする。			課題についてアイデアスケッチをする。		
8) 「誕生日月の壁面構成」作品を完成させる。作品説明を書く。			作品が完成できるように準備する。		
9) 粘土についての講義と「超軽量紙粘土」の立体作品を制作する。			粘土作品のアイデアスケッチしてくる。		
10) 粘土作品に着色。版画についての講義と紙版画の説明。			粘土は次回着色できるように形を完成さす。		
11) 紙版画の原版制作。画用紙以外に毛糸など他の素材も使用可。			紙版画作品のアイデアスケッチをしてくる。		
12) 「紙版画制作」の3回目。原版を版画用和紙に刷る。提出。			紙版画原版を完成してくる。		
13) 「楽しいお面」制作の1回目。立体の基本型を画用紙で作る。					
14) 基本型を応用して、自分の考えたお面制作をする。			自分の作品に必要な物を考え、準備する。		
15) お面作品を完成さす。提出する。			次回で提出できるように準備する。		
[使用テキスト] テキスト無し。 造形Ⅰと同じ造形個人持ちセット					
[参考文献] 「0・1・2歳児の造形あそび百科」阿部寿文編著 ひかりのくに(株)					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
① 平常点評価 (100%)					
②到達度の確認 (%)					
③実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 各提出作品にコメントを返す。					
[備考]					

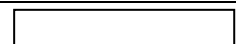
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 学童保育概論		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 代田 盛一郎	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	2 Semester
□ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 学童保育は「放課後児童健全育成事業」としてその一部分が児童福祉法に位置付けましたが、その内容と方法については今後さらに整備されることが求められます。本科目では学童保育に関する概要の理解と、小学生の放課後における「子どもの権利」及び「子どもの最善の利益」のあり様について考えることを目的とします。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 学童保育に関して、①成立過程、②機能と役割、③活動内容・実践の3点についてそれぞれ具体的事例を通して学びます。また現場理解を深めるためにゲストスピーカーによる講義も予定しています。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 学童保育に関する基礎的理解と、小学生の放課後における「子どもの権利」及び「子どもの最善の利益」のあり様に関する自分なりの問題意識を持つことを目標とします。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) イントロダクション～“学童保育”ってなんだ			授業の振り返りとリアクションペーパー作成		
2) 学童保育が生まれたわけ			(以下、同じ)		
3) 学童保育って何をするとところなのか					
4) 学童保育の活動内容①遊び					
5) 学童保育の活動内容②生活					
6) 学童保育の職員の仕事と役割					
7) 学童保育と放課後の子どもたちの“最善の利益”					
8) まとめとふりかえり					
[使用テキスト] なし (授業ごとに資料を配布します)。					
[参考文献] 初回の授業にてリストを配布し紹介します。					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価 (50%)					
②到達度の確認 (50%)					
③実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 最終回にフィードバックを行います。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) こどもと絵本 1		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講 義		授業担当者 正置友子 大内田真理 高砂朋子 野村 朋 ほか	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター
☑ 実務経験		授業内容にあわせ絵本研究者、絵本作家、図書館司書、書店、出版社、「おはなし会」の実践者などが担当			
[授業の目的・ねらい] 保育士・幼稚園教諭の養成課程を基盤としつつ、認定絵本士に求められる以下の基礎的な知識及び技能について身に付けることを目的とする。 ①絵本の定義、歴史などの専門的知識、さまざま絵本の特性について、②子どもの発達、保育・幼児教育における絵本の意義について、③絵本を選択する力、絵本を活用する技術の習得と実践。					主に対応するDP 1, 3, 4
[授業全体の内容の概要] 本科目では、絵本についての基礎的事項を学ぶと同時に、絵本の種類、絵本の有するさまざまな側面等について理解できるよう、絵本研究者や図書館司書、書店、絵本を用いた活動を行っている実践者等の講師から、絵本に関する専門的知識と絵本を活用する技術を実践的に学ぶ内容となっている。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 絵本の定義、歴史などの専門的知識、さまざま絵本の特性について説明することができる。 2. 子どもの発達、保育・幼児教育における絵本の意義について説明できる。 3. 絵本を選択する力、絵本を活用する技術を身につけ、実践することができる。					
[準備学習の内容]					
(事前学習) テキストを熟読し、重要ポイントや自分の考えをレポートへまとめ、質問などを考えておく。(1時間)					
(事後学習) 授業内容を振り返り、授業内で紹介された絵本や著書などを読み、オリジナルの絵本リストを作成する。(1時間)					
[授業の日程 (担当者) と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学習の内容の詳細]	
1)	8月21日1限 (代田)	オリエンテーション ◎グループディスカッション 我が国の読書推進活動の施策と経緯、認定絵本土の役割	テキスト (p. 1-14)		
2)	8月21日2限 (正置)	絵本総論 ※事後課題の提出 絵本の基礎知識、絵本の多面性と可能性	テキスト (p. 16-21)		
3)	8月21日3限 (正置)	絵本各論① ※事後課題の提出 絵本の歴史 (世界・日本) と絵本賞・児童文学賞	テキスト (p. 22-27)		
4)	8月22日1限 (大内田)	さまざまジャンルの絵本③ 自然科学・社会科学の絵本の特性、科学絵本の活用方法	テキスト (p. 58-63)		
5)	8月22日2限 (正置)	絵本各論② ※事後課題の提出 絵本の視覚表現と言語表現の特性	テキスト (p. 28-33)		
6)	8月22日3限 (吉田)	絵本各論④ ※事後課題の提出 メディアとしての絵本の位置づけ	テキスト (p. 40-45)		
7)	8月23日1限 (野村)	絵本各論③ 子どもの知的・社会的発達、絵本が子どもの発達に及ぼす影響	テキスト (p. 34-39)		
8)	8月23日2限 (正置)	さまざまジャンルの絵本① ◎実技を伴う演習授業 物語絵本の特性、絵と言葉で語る技法	テキスト (p. 46-51)		
9)	8月23日3限 (正置)	さまざまジャンルの絵本② 昔話、童話の特性、絵本における再話や絵本のあり方	テキスト (p. 52-57)		
10)	8月24日1限 (高砂)	絵本と出会う① 乳幼児を対象とした絵本の特色と具体的な取り組み	テキスト (p. 64-69)		
11)	8月24日2限 (高砂)	絵本と出会う② 保育・教育現場における絵本の意義と具体的な取り組み	テキスト (p. 70-75)		
12)	8月24日3限 (松田)	絵本と出会う③ 公共図書館の児童サービス、地域の読書推進活動の展開	テキスト (p. 76-81)		
13)	8月25日1限 (馬場)	絵本の世界を広げる技術① 絵本を探す多様な手段とその活用方法	テキスト (p. 90-95)		
14)	8月25日2限 (山本)	絵本と出会う④ ◎実技を伴う演習授業 書店における絵本の売り場づくり、絵本の流通	テキスト (p. 82-88)		
15)	8月25日3限 (花本)	絵本の世界を広げる技術② ◎実技を伴う演習授業 活用した表現活動の理解と基礎的技術の体得 ※事後課題の提出	テキスト (p. 96-101)		

[使用テキスト]

絵本専門士委員会課程認定部会認定絵本土養成講座テキスト作成ワーキンググループ編集 『認定絵本土養成講座テキスト』 中央法規出版 2020年

[参考文献]

授業内で必要に応じて絵本、著書を紹介する

[評価の実施方法と基準]

【平常試験】

①平常点評価 (20%)

②到達度の確認 (%)

③実技・作品発表 (20%)

【定期試験】

①筆記試験 (%)

②レポート (60%)

③実技試験 (%)

④面接試験 (%)

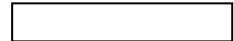
[フィードバックの方法]

レポート課題提出後に参考例を開示する。

[備考]

- ・「認定絵本土養成講座」で「認定絵本土」の称号を得るためには「こどもと絵本1」「こどもと絵本2」の2科目の単位を取得しなければならない。
- ・「こどもと絵本1」の単位修得のためには15回授業の8割を出席しなければならない(各自で出欠管理を行うこと)。
- ・「認定絵本土養成講座」に関わる授業科目の資料等は、各自でファイル管理すること。
- ・事前・事後課題の提出は提出期日を守り必ず提出すること。

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) こどもと絵本 2		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講 義		授業担当者 正置友子 大内田真理 野村 朋 代田盛一郎 ほか	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター
☑ 実務経験		授業内容にあわせ絵本研究者、絵本作家、図書館司書、書店、出版社、「おはなし会」の実践者などが担当			
[授業の目的・ねらい] 保育士・幼稚園教諭の養成課程並びに「こどもと絵本 2」の学修をさらに深めるため、以下の内容について学び、認定絵本土の取得を目的とする。 ①多様な人へ絵本を選択する力、紹介する力の習得と実践、②ブックトーク、おはなし会等の手法の理解と実践、③認定絵本土としての役割と活動内容。					主に対応するDP 1, 3, 4
[授業全体の内容の概要] 本科目では、「こどもと絵本 1」の内容をさらに深める観点から、絵本の紹介や活用について、ブックトークや書評・紹介文の書き方、おはなし会等について実践者から学ぶ。また、絵本を取り巻く状況や絵本のある空間、絵本が生まれる現場などについて、絵本作家や出版社、その他の専門職を講師に迎え、絵本に関するさらに深い理解と、認定絵本土に求められる役割や活動内容についての理解を深める内容となっている。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 多様な人へ絵本を選択する力、紹介する力を身につけて、実践することができる。 2. ブックトーク、おはなし会の手法を理解し、実践することができる。 3. 認定絵本土としての役割を理解し、活動するべきことを説明することができる。					
[準備学習の内容]					
(事前学習) テキストを熟読し、重要ポイントや自分の考えをレポートへまとめ、質問などを考えておく。(1時間)					
(事後学習) 授業内容を振り返り、授業内で紹介された絵本や著書などを読み、オリジナルの絵本リストを作成する。(1時間)					
[授業の日程 (担当者) と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学習の内容の詳細]	
1)	2月19日1限 (松井)	絵本の世界を広げる技術③ 絵本のコンシェルジュ術の体得		テキスト (p. 102-107)	
2)	2月19日2限 (正置)	絵本を紹介する技術① ◎実技を伴う演習授業 ※事後課題の提出 ブックトーク及びビブリオトークの理解と技術の体得		テキスト (p. 108-113)	
3)	2月19日3限 (家近)	絵本を紹介する技術② ◎実技を伴う演習授業 客観的な絵本の捉え方と書評・紹介文の書き方の体得		テキスト (p. 114-119)	
4)	2月20日1限 (正置)	絵本の持つ力 絵本の持つ力の理解、絵本についての批評		テキスト (p. 142-147)	
5)	2月20日2限 (藤川)	おはなし会の手法① ◎実技を伴う演習授業 ※事後課題の提出 おはなし会の理解とプログラム作成、運営手法の体得		テキスト (p. 128-123)	
6)	2月20日3限 (岩本)	おはなし会の手法② ◎実技を伴う演習授業 ※事後課題の提出 おはなし会のテクニックの理解と実践		テキスト (p. 124-140)	
7)	2月21日1限 (野村)	絵本を紹介する技術③ ※事後課題の提出 支援が必要な人々や高齢者への絵本の役割と紹介方法		テキスト (p. 120-127)	
8)	2月21日2限 (高木)	心に寄り添う絵本 心のケアと絵本の関わり方		テキスト (p. 148-153)	
9)	2月21日3限 (今中)	絵本のある空間 子どもにとって絵本のある望ましい空間		テキスト (p. 154-159)	
10)	2月22日1限 (代田)	子どもの心をとらえるもの 子どもの興味関心、子どもを惹きつける表現方法		テキスト (p. 160-165)	
11)	2月22日2限 (正置)	大人の心を豊かにする絵本 ※事後課題の提出 絵本が大人に与える影響		テキスト (p. 166-171)	
12)	2月22日3限 (木下)	ホスピタリティに学ぶ 子どもホスピタリティ		テキスト (p. 172-177)	
13)	2月26日1限 (さいとう)	絵本が生まれる現場① ※事後課題の提出 絵本作成における過程と絵本作家の感性		テキスト (p. 178-183)	
14)	2月26日3限 (吉田)	絵本が生まれる現場② 絵本の編集業務と絵本の構造		テキスト (p. 184-189)	
15)	2月26日4限	ディスカッション ◎グループディスカッション		テキスト (p. 190-195)	

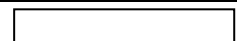
(代田) 認定絵本土の資質及び技能、今後の活動計画	
[使用テキスト] 絵本専門士委員会課程認定部会認定絵本土養成講座テキスト作成ワーキンググループ編集 『認定絵本土養成講座テキスト』 中央法規出版 2020年	
[参考文献] 授業内で必要に応じて絵本、著書を紹介する	
[評価の実施方法と基準]	
【平常試験】	
①平常点評価 (20%)	
②到達度の確認 (%)	
③実技・作品発表 (20%)	
【定期試験】	
①筆記試験 (%)	
②レポート (60%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
[フィードバックの方法] レポート課題提出後に参考例を開示する。	
[備考] ・「認定絵本土養成講座」で「認定絵本土」の称号を得るためには「こどもと絵本1」「こどもと絵本2」の2科目の単位を取得しなければならない。 ・「こどもと絵本2」の単位修得のためには15回授業の8割を出席しなければならない(各自で出欠管理を行うこと)。 ・「認定絵本土養成講座」に関わる授業科目の資料等は、各自でファイル管理すること。 ・事前・事後課題の提出は提出期日を守り必ず提出すること。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 国際理解		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 永原 直子	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
				卒業：選択必修	資格：選択必修
□ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 学生間の交流をとおして豊かな人間性と社会性を身につけ、異文化の人とコミュニケーションを取れるようになる。積極的なコミュニケーションをする姿勢を身につけ、様々な価値観に触れる。					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] 様々な国籍の学生同士で交流を行う。また、学生同士で交流イベントを企画し、実施する。内容については授業内で決め、そのための準備活動等を通して交流を深める。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 異なる価値観や文化的背景を持つ他者と積極的に関わることができるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーションと自己紹介 本科目の説明、受講ルールおよび評価方法について説明する。 また、簡単に受講生同士で自己紹介をする。			簡単に日本語で1分程度の自己紹介ができるように準備しておく。(10分)		
2) 交流会の企画立案、計画を立てる			受講生同士で連絡が取れるようにしておくこと。また、交流会において、自分がどのような役割を果たせるのかを考えておく。(10分)		
3) 交流会の企画立案、計画を立てる					
5) 交流会の準備を行う			授業内ですぐに準備活動に入れるように、各自で必要なものを用意しておく。(10分)		
6) 交流会の準備を行う					
7) 交流会の実施					
8) 交流会の実施					
9) 交流会の片付けと振り返り					
10) 次の交流イベントの企画立案			受講生が主体となって行うイベントについて、何が可能かを考える。(1時間)		
11) 交流イベントの企画立案、計画を立てる					
12) 交流イベントの準備					
13) 交流イベントの実施					
14) 交流イベントの実施					
15) 交流イベントの片付けと振り返り					
[使用テキスト] 特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。					
[参考文献]					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
① 平常点評価 (100%)	授業内での積極性(発言の頻度や参与の程度)およびリアクションペーパーの内容で評価を行う。				
②到達度の確認 (%)					
③実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 第9講および最終講の振り返りにてフィードバックを行う。					
[備考]					

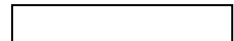
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 体育 (実技)	授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 実技	授業担当者 梶・土佐・濱田
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 3 セメスター 卒業必修
☑ 実務経験		
[授業の目的・ねらい] 生涯にわたり健康で有意義な生活を送るために、自分自身の健康の保持・増進を養う能力を主体的に向上させることを目標とする。運動・スポーツ・身体表現の魅力に触れ、体育に求められる社会性を学びながら、それを日常生活に結びつけて考える力を養う。		主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] 運動・スポーツ・身体表現を通して身体を動かす気持ちよさを感じたり、仲間の良さを味わったりしながら運動そのもののおもしろさを学び、実践していく力を身につける。		
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 自らがグループ討議や具体的な取り組みに積極的に関わることで人間関係の重要性を理解し、子ども集団の中で人とかかわる力を育てる保育者の役割について説明できる。		
[準備学習の内容] 授業全体の内容を理解し毎回の事前学習に努める。日頃から身近な子どもの遊ぶ様子などを観察し、様々な年齢の子どもの人間関係の広がりについて関心を高めておく。大学やクラスの取り組みに積極的に参加する。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		
1) オリエンテーション 授業の目的と進め方の説明を受け、授業の概要を理解する。		
2) なわとび 短縄と長縄を使用したさまざまな技ができる。		
3) ストレッチング スタティックストレッチングおよびパートナーストレッチングの方法を理解し実施できる。		
4) バasketボール ボールを使った体ほぐし運動、簡易化されたゲームを体験し、仲間づくりをしながら十分に体を動かすことができる。		
5) Basketball (Guest speaker) Basketballのルールやマナーを学び、運動を楽しめる場づくりについて理解し説明できる。		
6) ワーク① (Guest speaker) 「いろんなカラダを体験しよう！」自身の身体にじっくりと向き合い、新しい身体感覚に出会い分析できる。		
7) ワーク② (Guest speaker) 他者と一緒に身体を動かすことを楽しみ、互いに生まれた表現を認め、(分析につながるような) 見る力を養う		
8) 身体表現遊びとフォークダンス 音楽的な要素を取り入れて、身体表現やフォークダンスの楽しさを身体で味わい、仲間と共有することができる。		
9) 身体表現 ①絵本から一場面を選び出し、身体の動きを大きく使って表現できる。		
10) 身体表現 ②主となる動きを見つけ出し、他者との関わりの中で動きを展開できる。		
11) 身体表現 ③展開した動きのモチーフを構成し、グループ内で協力し短い作品を完成させることができる。		
12) 身体表現 小作品発表 グループごとに作品の授業内発表を行う。他のグループの発表を観て意見交流を行う。		
13) 身体表現 小作品鑑賞 ICT 機器を使用して発表作品の鑑賞を行い、自分たちの作品について客観的に振り返り相互に意見交換できる。		
14) 授業のまとめとテーマに基づくレポートを作成する。		
15) 授業のまとめの解説		
試験) 実施しません。	[単位認定の方法及び基準]	【試験】
[使用テキスト] 適宜資料を配布します。	【授業内評価】 ・平常点評価 (60%) ・到達度の確認 (%) ・実技・作品発表 (%)	・筆記試験 (%) ・レポート (%) ・実技試験 (%) ・面接試験 (%)
[参考文献]	[備考]	
[フィードバックの方法]	平常点評価の内訳は、出席点40%と提出物20%です	

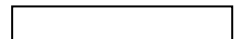
※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 情報リテラシー演習		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 浅井康範、三國薫	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	4 セメスター 選択
☑ 実務経験	ソフトウェアハウスでのシステム開発の経験を活かし、情報機器およびアプリケーション (Word、Excel、PowerPoint など) の活用方法について講義する。				
[授業の目的・ねらい] 情報機器の導入が進んでいる保育・教育の現場ではさまざまな諸問題が発生する。この諸問題に対して、情報機器やアプリケーションを活用し、自分の伝えたいことを表現することができるようになる。					主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] 情報教育入門で学んだ Word、Excel の基礎知識や技術をもとに、レポート形式の文章が作成できることを目標とする。また、インターネットを利用し様々な情報収集を行い、プレゼンテーションに活用する。講義においては、PowerPoint によるプレゼンテーションを行う。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 卒業研究レポートを作成するための Word の機能を理解する。さらに実際の現場で使える技術の習得を目標とする。その結果、自らの考えを情報機器やアプリケーションを使って表現することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 授業に関するオリエンテーションを行う。 Microsoft Office の基本操作を復習する。			情報教育入門で学習したレベル Windows、Excel、Word		
2) Excel を使ってデータ処理を行う。					
3) Word を使って図形を含む文書を作成する。					
4) Word 演習課題の作品を発表する。					
5) Word 文書の作成時のポイントを理解する。					
6) PowerPoint を用いて発表用の作品を作成する。					
7) PowerPoint によるプレゼンテーションを行う。					
8) 授業全般に対する総括を行う。					
[使用テキスト] 技術評論社『演習 アカデミックスキルとしての ICT活用』					
[参考文献]					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価 (60%)	ClassRoom への提出物あり				
②到達度の確認 ()					
③実技・作品発表 (40%)	Word 作品の発表、PowerPoint によるプレゼンテーション				
【定期試験】					
①筆記試験 ()					
②レポート ()					
③実技試験 ()					
④面接試験 ()					
[フィードバックの方法] 講義ポイントは授業以外に、ClassRoom を活用し説明する。 欠席で発表が出来なかった学生は、USB メモリーまたはメールで作品を提出。					
[備考]授業中に作成した演習課題を保存するために USB メモリーは持参すること。					

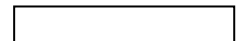
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 教職論	授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義	授業担当者 平尾 達夫・今滝 憲雄
授業の回数 15回	時間数(単位数) 2 単位	配当 3 セメスター 卒業必修
□ 実務経験 幼稚園園長、教諭として経験を踏まえ教職の意義、職務内容等を講義する		
[授業の目的・ねらい] 幼児教育における幼稚園教諭や保育士といった保育者の存在意義、その役割と職務内容を理解し、保育者としての適性について考察し、自らの課題を明らかにします。そして、保護者、専門職間との連携・協働の重要性を理解するとともに、専門職として成長し続けるための課題を理解します。		主に対応するDP 1, 2
[授業全体の内容の概要] テキストや資料を中心としながら、これまでの実習での経験や現場における実例に基づき授業を進行します。また同時にテーマにそってディスカッション、ディベート、グループワーク等を行います。		
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 子どもたちを取り巻く環境やそのニーズは年々多様化し、「せんせい」と呼ばれる専門職の役割と責務はますます重要なものとなっています。本科目では「保育者 (幼稚園教諭/保育士)」の存在意義、役割、責務、専門性、倫理などについて理解することを目的とします。		
[準備学習の内容] ①保育者をめぐる動向について、メディア等をチェックして情報収集に努めておくこと、②「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」を通読しておくこと。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		
1) 授業ガイダンス/「保育者・せんせい」っていったい何なのか。授業の進行に関するガイダンス、「役割」「責務」「専門性」「倫理」など今後学ぶ内容の意味を説明します。		
2) 幼稚園教諭/保育士の役割: 幼稚園教諭/保育士とは一体何をやる存在なのか、その「役割」について学びます。		
3) 幼稚園教諭/保育士の責務: 幼稚園教諭/保育士に求められる責任と義務は何なのか、その「責務」と「倫理」及び「身分保障」について学びます。		
4) 幼稚園教諭/保育士の職務内容①子どもたちの活動や生活に関する基本的な職務内容について学びます。		
5) 幼稚園教諭/保育士の職務内容②子どもの主体的な活動や集団生活における職務内容について学びます。		
6) 幼稚園教諭/保育士の職務内容③計画・記録・要録などの資料作成について、その必要性について学びます。		
7) 幼稚園教諭/保育士の職務内容の実際①		
8) 幼稚園教諭/保育士の職務内容の実際②		
9) 幼稚園教諭/保育士の職務内容の実際③		
10) 幼稚園教諭/保育士の職務内容の実際④		
11) 幼稚園教諭/保育士の自己評価と資質向上自己評価の必要性と方法、資質向上の意味について学びます		
12) 幼稚園教諭/保育士の協力体制チームワーク、チーム労働、「同僚性」などをキーワードにしてその協力体制について学びます。		
13) 養成課程 (カリキュラム) から探る基本的職務: 内容幼稚園教諭/保育士になるための教育課程 (カリキュラム) についてその検証を行います。		
14) 保護者・地域・小学校との連携保護者との連携 (子育て支援・保護者支援を含む)、地域、小学校、他機関等との連携について学びます。		
15) 授業のふりかえり・まとめ		
試験)	[単位認定の方法及び基準]	【試験】
[使用テキスト] 『幼稚園教育要領解説 平成 30 年 3 月』(文部科学省) フレーベル館、『保育所保育指針解説 平成 30 年 2 月』(厚生労働省) フレーベル館、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(内閣府/文部科学省/厚生労働省)、講義内で必要なプリント (幼稚園における教職員の役割 I、II) を配布します。	【授業内評価】 ・平常点評価 (50%) ・到達度の確認 (50%) ・実技・作品発表 () %	・筆記試験 () % ・レポート () % ・実技試験 () % ・面接試験 () %
[参考文献] 平尾達夫『「かしこい」親の幼稚園えらび』(フォーラム・A)、『保育小辞典』(大月書店) 他		
[フィードバックの方法] 第 15 回講義時に解説し、フィードバックを行う。	[備考]	

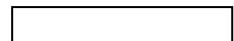
※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) キャリアアップ教育Ⅲ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 代田 盛一郎	
授業の回数 12 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 3	セメスター	卒業必修	
□ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 社会人、職業人として求められる能力を身につけ、2年生時での就職活動を進めていくための基礎的な力を身につける。					主に対応するDP 1, 2, 4
[授業全体の内容の概要] 「キャリア支援ガイド」(大学作成)などを学習する。社会人になるための素養と就職活動に必要な知識を学ぶ。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 履歴書の作成、面接、小論文など就職活動に必要な課題に取り組み、自信をもって就職試験に取り組める力をつける。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					[準備学修の内容]
1) キャリアアップ教育Ⅲで学ぶ内容についての説明。就職活動に向かうための自らの課題などの自己点検を行う。就職活動への取り組み方、求人票、応募原則、就職に関する諸機関の利用方法などを学習する。進路アンケート等記入。グループ討議で長所を出し合い、履歴書の「自己アピール」欄にいかす。レポート「私の長所」の作成。履歴書の書き方。					
2) 個人面談① 進路希望や就職活動についてのアドバイスをうける。レポート「私の長所」を完成させる。履歴書の作成を始める。「一般・専門教養、常識問題プリント」(今回から①～⑥)にとりくむ。知識を広げる努力を進める。					
3) 個人面談② 進路希望や就職活動についてのアドバイスをうける。履歴書の作成。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。					
4) 個人面談③ 進路希望や就職活動についてのアドバイスをうける。履歴書の完成。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。					
5) 「マナー講座」をおこなう。面接試験で求められる面接のマナー、言葉づかいの注意、面接でよく聞かれる質問等について、専門の講師から実践的な講義を受ける。					
6) 小論文(作文)の作成にとりくむ① 何を書くかテーマを決める。文章表現の基本、原稿用紙の使い方などを学ぶ。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。					
7) 小論文(作文)の作成にとりくむ② 完成させる。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。					
8) 一般教養・保育士専門試験(公務員試験レベル)の問題にとりくむ。その傾向と対策を学ぶ。自分の長所と課題を知るために「自己分析表」を作成し、自己評価に役立てる。					
9)-12) 学内外の就職フェアへの参加を行います。詳細は授業内にガイダンスを行います。					
[使用テキスト]「キャリア支援ガイド」(大学作成)					
[参考文献]特になし					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価(100%)					
②到達度の確認()%					
③実技・作品発表()%					
【定期試験】					
①筆記試験()%					
②レポート()%					
③実技試験()%					
④面接試験()%					
[フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。					
[備考]学内外の就職フェアへの参加を行います。詳細は授業内にガイダンスを行います。					

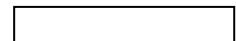
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) キャリアアップ教育Ⅳ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 代田 盛一郎	
授業の回数 回	時間数(単位数) 単位	配当	セメスター	必修・選択必修・選択	
授業の回数 12 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 3	セメスター	卒業必修	
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 社会人、職業人として求められる能力を身につけ、2年生時での就職活動を進めていくための基礎的な力を身につける。				主に対応するDP 1, 2, 4	
[授業全体の内容の概要] 「キャリア支援ガイド」(大学作成)などを学習する。社会人になるための素養と就職活動に必要な知識を学ぶ。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 履歴書の作成、面接、小論文など就職活動に必要な課題に取り組み、自信をもって就職試験に取り組める力をつける。就職後に備え、社会人としての素養を可能な限り身につける。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
1) 就職活動等の計画を立てる。キャリアアップ教育Ⅲを踏まえ、就職に向け、2年生後半に各自が行わなければならない課題を設定する。各自の就職活動の到達状況について、クラスおよびグループで交流する。「一般・専門教養、常識問題プリント」(今回から①～⑥)にとりくみ、知識を広げる努力を進める。進路アンケートに記入する。					
2) 保育士登録・幼稚園免許状申請の方法を学ぶ。					
3) 社会人としての基礎力を養う(その1)。社会人とは何か。国民の3大義務、参政権などの基本的な人権について学習する。自己の長所、短所等を自己分析する。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。					
4) 社会人としての基礎力を養う(その2)。労働者とは何か。働くことと労働者の生活、権利、内定後の生活、心がけること、仕事とストレスについて。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。					
5) 社会人としての基礎力を養う(その3)。労働者の諸権利、労働法制について学ぶ。この課題をテーマに、外部からの専門的な講師の授業を受ける(「ワークルールセミナー」)。					
6) 社会人としての基礎力を養う(その4)。「仕事のやめ方」を学習。退職、転職のとらえ方、退職と労働者の権利等を学び、積極的に再就職に向くように、必要な知識を身につける。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。					
7) 働く先輩の話聞く。保育所、こども園、幼稚園、児童養護施設等で働く卒業生から、現場の楽しさ、苦勞、やりがい、生活等の話を聞き、働くことへの意欲を高め、就職活動の取り組みの強化をはかる。					
8) まとめ。自らの将来を展望しながら、2年間の短大生活をふりかえり、自らの成長、これからのキャリア、生き方などについての考えをまとめる。					
[使用テキスト]「キャリア支援ガイド」(大学作成)					
[参考文献]特になし					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価(100%)					
②到達度の確認(%)					
③実技・作品発表(%)					
【定期試験】					
①筆記試験(%)					
②レポート(%)					
③実技試験(%)					
④面接試験(%)					
[フィードバックの方法]					
授業内で作成したレポート等について個別に指導する。					
[備考]学内外の就職フェアへの参加を行います。詳細は授業内にガイダンスを行います。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



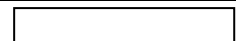
子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 保育研究ゼミ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 2年ゼミ指導教員	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	4セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] これまでの実習をはじめとする学びの中から、保育・教育に関わる興味・関心のあるテーマを選び、文献の収集および読解と整理を行い、卒業研究レポートにまとめる。「自分の考えを整理する」、「文章にまとめる」、「人に説明する」、「人の意見を聞いて自分の意見を発表する」などの力を養う。					主に対応するD P 1, 2, 3, 4
[授業全体の内容の概要] 保育・教育に関するテーマについて、実習での学びを振り返り、調べ学習等を行いながら、自分の問題意識をまとめあげる。					
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 卒業研究レポートを作成し、発表する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 卒業研究レポートとは何か・書き方・作成計画 卒業研究レポートの意義および作成過程について理解し、興味・関心のあるテーマをみつける。			『卒業研究レポートの手引き』を全ページ読んでおくこと。		
2) 卒業研究レポートのテーマ設定・情報収集 テーマを設定し、テーマに関する資料や文献を収集する。					
3) 卒業研究レポートの作成① 卒業研究レポートを作成する。					
4) 卒業研究レポートの作成② 卒業研究レポートを作成する。					
5) 卒業研究レポートの作成③ 卒業研究レポートを作成する。					
6) 卒業研究レポートの発表① (グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション) 卒業研究レポートでまとめた内容の構想を発表する。					
7) 卒業研究レポートの発表② (グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション) 卒業研究レポート発表会に向けて準備する。					
8) 卒業研究レポートの発表③ (グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション) 卒業研究レポートを発表する。					
*内容変更を行うことがある					
[使用テキスト] 『卒業研究レポートの手引き』大阪健康福祉短期大学作成					
[参考文献] 宮内克男編 (1984) 『レポート・論文のまとめ方と書き方増補版：保育・教育と看護・福祉のために』川島書店 小笠原善康 (2009) 『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社 河野哲也 (2002) 『レポート・論文の書き方入門』慶応義塾大学出版会					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価 (40 %)		受講態度、提出物			
②到達度の確認 (%)					
③実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (60 %)		期限内での既定の様式による卒業研究レポートの提出			
③実技試験 (%)					

子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 社会福祉		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 稲垣 憲雄	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	4 セメスター
☑ 実務経験		児童相談所職員としての経験、児童福祉行政の経験を踏まえ、社会福祉の基礎的事項を教授する。			
[授業の目的・ねらい] 社会福祉の理念や価値について学び、福祉専門職として支援に必要な態度を身に付け、実践できるようになる。社会福祉の制度や実施体制を理解し、社会資源の活用や援助方法についての実践力を身につける。					主に対応するD P 3
[授業全体の内容の概要] 福祉専門職として必要な社会福祉の基礎的な事項を学び、社会福祉の今日的な問題や課題及び対応について学ぶ。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 社会福祉の基礎的事項や社会保障制度の現状や課題について、学んだ知識に基づいて説明できる。					
[準備学習の内容] 学生が関心を持った福祉全般に関する新聞記事やニュースについてその概要についてレジュメを作成し、授業の中で報告する (プレゼンテーション課題として)。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1) 社会福祉の基礎概念について 社会福祉とは何か 社会福祉の概念について学ぶ (「権利」についてのグループワーク)					
2) 社会福祉と社会保障 現代社会での社会福祉の意義や歴史的な変遷、わが国の社会保障 (戦前-戦後) の考え方について学ぶ					
3) 社会保障制度 (1) 社会保障制度の体系・社会保障のしくみ・社会保障の機能を学ぶ (課題についてのディベート)					
4) 社会保障制度 (2) 社会保障の現状と課題を学ぶ (課題についてのディベート)					
5) 社会保障制度 (3) 公的扶助、生活保護制度の現状と課題を学ぶ (課題についてのディベート)					
6) 医療保険制度 医療保険の意味と医療保険制度のしくみ、医療保険制度の問題と課題を学ぶ (課題についてのディベート)					
7) 年金制度とは何か 年金制度の沿革と体系・年金制度のしくみと現状と課題について学ぶ (課題についてのディベート)					
8) 社会福祉の法体系、制度や実施体制 社会福祉施設の機能や役割、今後の課題を学ぶ					
9) 社会福祉を担う専門職 福祉領域の専門職の資格制度、現状や課題について学ぶ (「専門職制」についてのグループワーク)					
10) 社会福祉の相談援助 福祉専門職の相談援助の目的や援助方法について学ぶ (相談活動のロールプレイング)					
11) 社会福祉における子どもや家庭への支援 児童虐待、子どもの貧困など子ども家庭福祉における現状や課題を学ぶ (事例のディスカッションを実施)					
12) 障害者福祉 障害者と自立の課題をテーマに、障害者福祉の現状や課題を学ぶ (「自立」についてのディスカッションを実施)					
13) 障害を持ち生活をするとはどういうことか アイマスク体験 当事者の体験談 (アイマスク体験・体験談を聞いてのレポート提出)					
14) 少子高齢社会における課題 若年者における課題、子育て世代における課題、高齢者における課題について学ぶ (課題についてのディベート)					
15) 授業のまとめ及び到達度の確認テスト (2) 確認テストの解説					
試験)			[単位認定の方法及び基準]		【試験】
[使用テキスト] 必要に応じてレジュメ、資料を配布する。			【授業内評価】		・筆記試験 (%)
			・平常点評価 (20%)		・レポート (%)
[参考文献]			・到達度の確認 (80%)		・実技試験 (%)
新・初めての社会保障論 法律文化社 2300 円+税			・実技・作品発表 (%)		・面接試験 (%)
[フィードバックの方法] 確認レポート実施後に、テスト内容について解説し、フィードバックを行う。			【備考】 随時レポートの提出を求める		

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 子ども家庭支援論		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 稲垣 憲雄	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	3 セメスター
☑ 実務経験	発達・子育て相談員				
[授業の目的・ねらい] 現代の子どもを取り巻く社会状況と家庭支援と子育て支援について現状を理解し、説明できる。保育の専門性を活かした子育て家庭への支援の意義と基本について学び、その知識を応用して使うことができる。子育て家庭に対する支援体制について理解し、その現状と課題について具体的に述べるができる。地域の子育て家庭への多様な支援や関係機関との連携について学び、適切な援助方法を提示することができる。					主に対応するDP (未選択)
[授業全体の内容の概要] 家庭の意義と今日および家庭支援の必要性をふまえて、保育士が家庭支援を行なうことの意義と役割を理解する。さらに子育てを取り巻く状況について理解を深め、子育ての支援体制、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関の連携について考察を行う。グループワークを行い、子育ての現状を討議しあう。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 子どもと家庭について、環境・社会・心理を包括的に捉えて家庭支援を行なうことの意義と課題について理解を広げる。そして、さまざまな課題を抱えた家庭に対する他の資源との連携と関連させて、具体的な支援のあり方について学んでいく。グループでの他者の意見も聞き、総合的に考察できる。					
[準備学習の内容] 現在の子育てを取り巻く状況について情報収集を行い、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援を探ってくる					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1) オリエンテーション：家庭支援の必要性、役割について 家庭・家庭とは何か、考察していく。小グループで家族とは何か、グループセッションを行い、考察を深めていく。					
2) 子どもを取り巻く社会状況① 地域社会の変容・家庭発達の課題について：家族システムを中心にグループで考察していく					
3) 子どもを取り巻く社会状況②：グループワークを行う 男女共同参画社会とワークバランスのあり方と子育て支援の関連性					
4) 子どもの成長発達と家族・家庭の機能 ①家族の形態や機能を知り、家族関係の関わりの変化を知る。					
5) 子どもの成長発達と家族・家庭の機能 ②家族の形態や機能を知り、家族関係の関わりの変化を知る。					
6) 家族支援に関連する法律・制度 子育てや子どもに関連する法律や制度、サービスの実際を知る					
7) 困難な状況を抱える家族とその支援 育児不安・育児ストレス・ひとり親家庭の子育て支援					
8) 子どもや家族を支える社会資源 地域の社会資源の機能や役割を理解し、その利用やつなぎ方について知る ゲストスピーカー：地域の社会資源の実態を知る					
9) 保育所・幼稚園・認定こども園の家庭支援助機能 子育て支援という視点から保育所の機能や役割を理解する、ソーシャルワークの役割について、グループでの実演					
10) 要保護指導とその家族への援助 児童福祉施設に入所している子どもや家族への援助の実際を理解する					
11) 自己を知り。他者を知る。 ゲストスピーカー：ソーシャルワークの基礎となる演習を行う：ソーシャルワークの実際を行う					
12) 地域における家庭支援の取り組み 家庭の代替機能をはたす地域における家庭支援の役割を理解する					
13) 乳幼児における家庭支援の取り組みと役割 家族機能の低下や家族間のつながりが薄れる中で、役割と援助の実際を学ぶ					
14) 児童における家庭支援の取り組みと役割 ゲストスピーカー：家族機能の低下や家族間のつながりが薄れる中で、学校の役割と援助の実際を学ぶ					
15) 家庭支援や地域の子育て支援の実際を理解する 到達度テストを行う					
試験)		[単位認定の方法及び基準]		【試験】	
[使用テキスト] 未定 プリント		【授業内評価】 ・平常点評価 (20 %)		・筆記試験 (%) ・レポート (40 %)	
[参考文献] 「よくわかる家庭支援論 第2版」橋本真紀・山縣文治編		・到達度の確認 (20 %) ・実技・作品発表 (20 %)		・実技試験 (%) ・面接試験 (%)	
[フィードバックの方法] 毎回の授業でのリアクションペーパーの提出について振り返りと応答を行う。		[備考] 自分の意見の発表や質問、グループやディスカッション、グループ発表への参加を積極的に行うことを期待する			

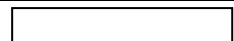
※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 子どもの理解と援助		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 山本 翔太	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	セメスター 資格必修
☑ 実務経験	児童発達支援センターで発達相談員として勤務しており、現場での実践を踏まえた授業を行う。				
[授業の目的・ねらい] 子どもの発達を理解し、その過程で生じるつまずきや、様々な問題についても触れ、それらに対する援助のあり方を学ぶ。また、子どもへの援助と共に、保護者の理解や、支援のための知識や技術を学ぶ。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 子どもの姿を発達的な視点を踏まえて理解を深めていく。発達の過程で生じるつまずきや、障害、子育てに関わる現代的課題について、具体的な事例を通して理解を深め、子どもや保護者への援助・支援のあり方について学ぶ。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 子どもの発達を把握することの意義について説明できる。子どもや保護者の持つ、様々な悩みや問題を理解し、それに対して自分なりにどのような援助・支援を行っていけばよいか、考察することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 子ども理解の意義と基本的な視点			発達心理学に関する基本的な視点を調べておく。		
2) 子どもを理解する方法 (観察・発達検査・面接などについて)					
3) 子どもの生活と遊び グループワークを通して生活や遊びの支援を考える。			自分自身の頃の子どもの頃の生活や遊びを振り返りメモをまとめておく。		
4) 子どもの集団での育ち グループワークを通して子どもにとっての集団経験の意義を考える。			集団経験が子どもにもたらすことについて、自分の考えをメモにまとめておく。		
5) 発達の過程におけるつまずきや障害をもつ子どもの理解と援助			「発達心理学」や「障害児保育」の授業内容を復習しておく。		
6) 子育てに関わる現代的課題と援助			子どもを取り巻く様々な課題・社会情勢などのニュース・新聞記事に目を通しておく。		
7) 保護者との連携・支援 到達度の確認：事例をもとに子どもへの援助のあり方考える			保育現場で保護者への支援をどのように行っているのか調べておく。		
8) 就学への支援 まとめとふりかえり			園から小学校への「移行期」について調べておく。		
[使用テキスト]必要に応じてレジュメ、参考資料を配布する。					
[参考文献]「「気になる子」が変わるとき」木下孝司,かもがわ出版					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価 (20 %)					
②到達度の確認 (80 %)		子どもへの援助のあり方、保護者や職員間の連携について考察できる。			
③実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 毎回の授業内でフィードバックする。					
[備考]					

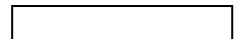
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 子どもの保健Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義・演習		授業担当者 井上 詳子	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	セメスター 必修・選択必修・選択
<input type="checkbox"/> 実務経験	総合病院での小児科病棟、保育園看護師での経験をもとに講義する。				
[授業の目的・ねらい] 子どもの健康や安全を守るための保育士の活動について理解できる。					主に対応するDP (未選択)
[授業全体の内容の概要] 子どもの保健 (健康と安全) について理解できるよう、講義や演習を行う。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 保育士として必要な子どもの健康や安全に対する知識を習得できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 子どもの健康と保育環境について、保育士として必要な知識を学ぶ。 子どもの成長について、身体面から理解し説明できる。					
2) 身長・体重測定技術を演習する。			1) の復習		
3) 保育で必要な保健的対応について学び理解できる。 保育園における保健的対応の基本的な考え方、3歳未満児への対応					
4) 保育における衛生管理および事故防止・安全対策・危機管理と災害への備えについて理解できる。					
5) 子どもの体調不良などに対する適切な対応を理解できる。 子どもの救急処置および心肺蘇生について必要な知識を獲得できる。					
6) 心肺蘇生法の演習			5) の復習		
7) 保育で必要な保健的対応について理解できる。 個別的な配慮を要する子どもへの対応、障害のある子どもへの対応。 (グループワーク、発表)					
8) 保育活動における職員間の連携・協働と関係機関との連携が理解できる。 保育園における保健活動の計画を理解し、各自保健だよりを作成する。			保健だより作成		
[使用テキスト] 「子どもの健康と安全演習ノート」改定第2版 診断と治療社					
[参考文献] 特になし					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価 (10%)					
②到達度の確認 (20%)					
③実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (70%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法]					
[備考]					

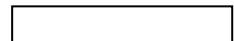
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 保育内容 (環境)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 前田 公美	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
□ 実務経験		社会福祉法人大地福祉会 遊こども園園長としての経験を踏まえ、実践を通じた授業を行う。			
[授業の目的・ねらい] ・子どもを取り巻く環境について考え、環境を通して行う保育について学ぶ。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] ・保育環境における様々な場面から「環境」についての理解を深める。 ・様々な事例から、活動を促す環境構成の工夫や保育者としての役割を理解する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・子どもを取り巻く環境 (自然・動植物・人・物・社会環境等) について関心を持ち、自ら考えられる。 ・子どもがどのように環境とのかかわり生活や遊びに取り入れていくのかを、実践事例等を通して学び、子どもにとって望ましい環境について考えられる。 ・保育者自身が子どもにとって最も影響力のある人的環境であることを自覚し、自らの生き方や態度を正そうとする。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 子どもの育ちと領域「環境」①			領域「環境」とは/環境を構成するとは		
2) 子どもの育ちと領域「環境」②			子どもの発達と環境/子どもの好奇心		
3) 身近な環境とのかかわり①			さまざまな物とのかかわり		
4) 身近な環境とのかかわり②			自然とのかかわり		
5) 身近な環境とのかかわり③ (グループワーク)			保育環境と環境構成		
6) 人的環境①			子どもの遊びを支える保育者の役割		
7) 人的環境②			友達とのかかわり		
8) 授業のまとめ (テスト)					
9)					
10)					
11)					
12)					
13)					
14)					
15)					
[使用テキスト]・講義内での必要なプリントを配布					
[参考文献]・保育内容 環境 近藤幹生監修 青踏社 ・子どもの生活・環境・遊びに向き合う 神田伸生顕著 萌文書林					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
① 平常点評価 (30%)	提出物、受講態度によって評価を行う。				
② 到達度の確認 (50%)	最終日に講義のまとめとしてのテストによって学力確認を行う。				
③ 実技・作品発表 (20%)	授業内での実技やレポート、作品提出によって評価を行う。				
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法]・筆記試験について、正答を試験期間終了後に開示する。					
[備考]					

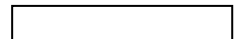
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 保育内容 (人間関係)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
必修					
☑ 実務経験	保育士の経験を活かし、事例をもとに人間関係を築く上で重要なことを講義・演習を行う。				
[授業の目的・ねらい] 1. 現代の子ども達の状況を知り、乳幼児期の人間関係の形成の発達過程について理解する。 2. 人との関わりで重要な保育者の援助や配慮を理解し、子どもや保護者とのよりよい関係を考察する。 3. あそびやおたよりを通して、人間関係を深める具体的な方法を実践することができる。					主に対応するD P 1、2
[授業全体の内容の概要] ・現代社会や保育に関する人間関係の現状と課題、人格形成に影響を及ぼす乳幼児期の人間関係について解説する。 ・保育内容・人間関係のねらいや内容、人との関わりに関する乳幼児期の発達、保育者の援助について講義をする。 ・子ども、保育者、保護者をつなぐあそび、おたより、行事等の意味とその役割について講義や演習を行う。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 自らがグループ討議や具体的な取り組みに積極的に関わることで、人間関係の重要性について説明できる。 2. 子ども集団の中で人とかかわる力を育てる保育者の役割について説明できる。 3. 子ども、保育者、保護者をつなぐあそび等の意味を理解し、実践することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション 現代的特徴と社会的背景について	教科書 p. 12-23、内容をまとめる (各 60 分)				
2) 保育における領域「人間関係」ねらいと内容	教科書 p. 24-33、内容をまとめる (各 60 分)				
3) 子どもと人間関係の発達① 3歳未満児の人間関係の発達	教科書 p. 36-58、内容をまとめる (各 60 分)				
4) 子どもと人間関係の発達② 3歳以上児の人間関係の発達	教科書 p. 59-70、内容をまとめる (各 60 分)				
5) 子どもと人間関係の発達③ 保育者・他児・集団との関係	教科書 p. 71-76、内容をまとめる (各 60 分)				
6) 子どもと人間関係の発達④ 自立心、協同性の育ち	教科書 p. 112-122、内容をまとめる (各 60 分)				
7) 子どもと人間関係の発達⑤ 道徳性・規範意識の芽生え	教科書 p. 76-82、内容をまとめる (各 60 分)				
8) 子どもと人間関係の発達⑥ 家族や地域との関わりと育ち	教科書 p. 83-97、内容をまとめる (各 60 分)				
9) あそびで育まれる人間関係① 主体的・対話的な深い学び	教科書 p. 123-131、内容をまとめる (各 60 分)				
10) あそびで育まれる人間関係② グループワークで立案、実践	教科書 p. 132-141、内容をまとめる (各 60 分)				
11) あそびで育まれる人間関係③ あそびの実践・記録・評価	教科書 p. 142-149、内容をまとめる (各 60 分)				
12) 保育者の専門性と保護者との関わり① クラスだよりの作成	教科書 p. 112-118、内容をまとめる (各 60 分)				
13) 保育者の専門性と保護者との関わり② クラスだよりの発表	教科書 p. 118-122、内容をまとめる (各 60 分)				
14) 家庭や地域との連携 保護者や地域との関わり	教科書 p. 169-177、内容をまとめる (各 60 分)				
15) 小学校との接続 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	教科書 p. 159-167、内容をまとめる (各 60 分)				
[使用テキスト] 菊池篤子『ワークで学ぶ保育内容「人間関係」』 みらい 2019					
[参考文献] 文部科学省 『幼稚園教育要領解説書』 フレーベル館 2018年, 厚生労働省編 『保育所保育指針解説書』 フレーベル館 2018年, 内閣府 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』 フレーベル館 2018年					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
① 平常点評価 (30 %)	授業における提出物、受講態度等により評価を行う。				
② 到達度の確認 (40 %)	第 5・10・15 回の授業終了前に到達度確認テストを行い、評価をする。				
③ 実技・作品発表 (30 %)	人間関係のアルバム、クラスだより等の作成				
【定期試験】					
① 筆記試験 (%)					
② レポート (%)					
③ 実技試験 (%)					
④ 面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 提出された課題について授業内で解説し、フィードバックを行う。					
[備考]・授業内で「マイアルバム」「クラスだより」等を作成する。 ・事前学習：教科書を熟読する。事後学習：授業内容について教科書、プリントを参考にまとめる。(各 60 分)					

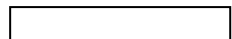
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 保育内容「健康」		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 出水 和美	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
□ 実務経験		保育者として16年(現在に至る)の経験による実践的内容を踏まえ授業を行う。			
[授業の目的・ねらい] ・乳・幼児期の子どもの発達を心身両面から捉え、領域「健康」の内容を理解する。 ・保育内容「健康」を実践する為に、身体運動、生活習慣、食事、安全教育などについて知識や技能を習得する					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] テーマに応じて、実技やグループ討議、発表を取り入れる					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 保育現場で応用実践できる「健康」についての知識や、具体的な指導方法を習得する					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 第1章 保育の基本と領域「健康」					
2) 第2章 乳幼児の身体と健康					
3) 第3章 乳幼児の生活リズムと生活習慣 → 指導 (第8章)					
4) 第4章 乳幼児期の食生活 → 食育にかかわる指導 (第9章)					
5) 第5章 乳幼児の運動発達 → 運動遊びにかかわる指導(第10章)					
6) 第6章 乳幼児期の安全 →安全への配慮と子どもへの安全教育 (第11章)					
7) 第7章 領域「健康」と保育方法					
8) 第12章 領域「健康」にかかわる現代的課題と動向					
[使用テキスト] 『保育内容「健康」(最新保育講座) ミネルヴァ書房』					
[参考文献]					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
① 平常点評価 (30 %)					
② 到達度の確認 (%)					
③ 実技・作品発表 (10 %)					
【定期試験】					
② 筆記試験 (%)					
② レポート (60 %)					
③ 実技試験 (%)					
④ 面接試験 (%)					
[フィードバックの方法]					
[備考]					

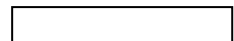
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 保育・教育相談演習		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 山本 翔太	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	4 セメスター
資格	資格必修				
実務経験	発達相談員 (心理職) として勤務しており、保育・療育現場を中心とした実践を踏まえた授業を行う。				
[授業の目的・ねらい] 子ども自身や、子育て中の保護者が抱えている生活上の様々な悩みや不安などへの理解を深め、保育・教育と相談援助のかかわりやその役割を学び、実践へとつなげていく。					主に対応するD P 2
[授業全体の内容の概要] 乳幼児期の子どもを中心に、発達過程で発現しやすい様々な問題や課題について学ぶ。また、保護者が子育ての中で抱える悩みや不安について理解を深める。その上で、対人援助職者としての関わりや対応などを、具体的な事例を通して学ぶと共に、援助を実施していくにあたり、地域の社会資源の活用や関係機関との連携について理解する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 子どもの発達と、その過程で生じる問題のとらえ方を学び、具体的な事例に対してどのような支援や対応を行えばよいのかを説明できるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 保育・教育相談の意義と役割 子育てを取り巻く現代の状況・保育と相談援助について			保育実習などで保育者が子どもや保護者にもどのように関わっているのかを観察する。		
2) 相談援助について考えてみよう 相談援助の視点と基本的技法・個別ワークを通して自己理解を深める			ICF (国際生活機能分類) について調べておく。		
3) 相談援助者になるために I 他者理解・共感的理解の方法をロールプレイを通して学ぶ			友人などの相談などを「傾聴」する体験を試してみる。		
4) 相談援助者になるために II, 基本的態度とコミュニケーション技術について、ロールプレイを通して学ぶ			「非言語コミュニケーション」について、どのようなものか事前に調べておく。		
5) 相談援助をすすめるために I 生活課題の把握・社会資源の活用・関係機関との連携			自分の住む地域の社会資源 (子どもに関する相談支援を行っている場) を調べておく。		
6) 相談援助をすすめるために II 相談援助のプロセスの理解			相談援助で求められる技法について復習しておく。		
7) 子どもの発達の課題と理解 事例をもとに、相談援助のプロセスの理解を深める			相談援助のプロセスについて復習しておく。		
8) 授業のまとめと到達度の確認 授業のまとめおよび到達度の確認テストを実施し、テスト内容について解説する。					
[使用テキスト] 必要に応じてレジュメ、参考資料を配布する。					
[参考文献] 「保護者とかわかるときのきほん」 植田章, ちいさいなかま社					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価 (20 %)					
②到達度の確認 (80 %)	地域の社会資源を活用しながら、子ども・保護者への相談援助のあり方を考察できる。				
③実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 毎回の授業内でフィードバックする。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



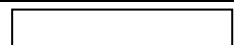
子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 総合表現		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 甲 由利子、井下 べに、井口 和子	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	4 セメスター
□ 実務経験		必修			
[授業の目的・ねらい] 保育内容における表現技術を応用し、表現活動を体験することで子どもにとっての表現について学ぶ。自らが表現者として取り組むことを通して、一つの作品を協力・協同しながらつくりあげ的过程中で、表現を通した集団づくりを体験的に学ぶ。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 保育士・幼稚園教諭が、表現活動の指導を行う上で必要とされる知識、技術を体験的に習得し、協同して取り組む。集団的議論の中で、企画・立案・準備・作品完成の過程を通して、協同して取り組むことの重要性を習得する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 保育士・幼稚園教諭として必要とされる表現活動の知識・技術を総合的に習得し、その成果を発表できる。また、保育現場における表現活動では、何が重要であるかについて説明できる。					
[準備学習の内容] 本授業は、学生の主体性を非常に大切にしている。取り組みの進捗状況によっては、授業外での自主活動が必要な場合もある。個々の役割に責任と自覚を持って挑むように普段から心がけてほしい。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1) 全体オリエンテーション及びグループ別オリエンテーション 子どもにとっての表現とは何か、DVD を視聴しながら、表現の意義を学ぶ。 2) 「子どものための表現作品」とは何かについて学び、題材テーマを検討する (絵本の教材研究)。 3) 伝えたいテーマを軸に、作品の構成を決定する。 4) 動きのスケッチ① (グループに分かれて、各場面のイメージをふくらませ、動きを見つける) 5) 動きのスケッチ② (個人の動きから他者との関わりを意識した動きへと展開する) 6) グループごとに小発表 (ICT 機器を活用した動きの理解)、意見交換をした上で見直し、修正をする。 7) 選曲、および編集作業、各場面の練習と問題点の解決 8) 台本、照明プラン作成、各場面の練習と問題点の解決 9) ナレーションを入れて、各場面の練習と問題点の解決 10) 造形を使用して練習、および修正 11) 衣装、道具類等を伴った練習、および修正 12) 音楽・衣装・造形などすべてを使用して練習、小発表 *グループ別に6)～12)の表現活動を行いながら、以下の活動も随時並行して取り組む。 ・造形、プログラム、招待状、ポスター、看板などの制作 ・発表会開催のための企画・準備、ホールとのミーティング 13) 音楽編集・衣装・造形の制作活動と並行して身体表現の通し練習を重ね、作品テーマとの整合性について最終検討。 14) 総合的な仕上げ、授業内発表および最終調整。 15) 発表会当日を想定し、身体表現、造形、衣装、音響、照明、ナレーション等、すべての最終確認。					
試験)	試験として、発表会を実施します。		[単位認定の方法及び基準]		【試験】
[使用テキスト]	特に指定しません。		【授業内評価】		・筆記試験 () %
[参考文献]	適宜資料を配布します。		・平常点評価 (70 %)		・レポート () %
			・到達度の確認 () %		・実技試験 () %
			・実技・作品発表 (30 %)		・面接試験 () %
[フィードバックの方法]	振り返り課題については、授業終了後の提出となるため、Google classroom にてフィードバックを行います。		[備考] 補講としてリハーサル、試験として発表会を実施することとします。発表の評価は、振り返り課題の評価を含みます。		

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

授業のタイトル (科目名) 保育実習指導Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 大内田、()、 野村、井下、伏尾、池脇	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] ・保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 ・子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 ・既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、保育及び子育て支援について総合的に理解する。 ・保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価について、実際に取り組み、理解を深める。 ・保育際の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結び付けて理解する。 ・実習における自己の課題を明確化する。					主に対応するDP 1, 2, 3, 4
[授業全体の内容の概要] ・実習の目標・目的・内容を実習の手引きを元に学習し、実習における注意事項など実習への心がまえを理解する。 ・子どもの発達や生活・あそびを理解し、保育する上で大切することを学ぶ。 ・保育所の一日の流れを理解し、指導計画案を立案・教材準備を行う。 ・実習の記録の書き方を学び、保育士としての気づきの視点を理解する。 ・実習を振り返り、まとめたことを報告しあうことで、実習の考察を共有しあう。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・指導計画の作成・実践・評価を通して、子ども理解を深める。 ・保育所の役割を理解し、保育士の援助や支援の方法について説明できる。 ・グループ討議や報告会を通して、実習での学びから、自己課題を明確にし、めざす保育者像を言語化することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 「保育実習Ⅱ」の意義・目標・目的・内容の理解			保育実習Ⅰaの振り返り、保育実習Ⅱの目標		
2) 事前訪問について 保育所の役割、実習施設の保育理念・方針の理解			事前訪問の注意事項の理解、概況の記入		
3) 保育の基本について 保育の流れと保育者の援助の理解			保育所の役割・機能について理解を深める		
4) 保育実習における自己課題について 実習の意義、目的の理解			実習の意義、目的を熟読しておく		
5) 「実習の記録」の書き方 「実習記録」の意義・書き方の理解			既習科目で実習記録の書き方を理解する		
6) 「指導計画」の書き方 「指導計画」意義、書き方の理解			既習科目で指導計画の書き方を理解する		
7) 「指導計画」の作成 「模擬保育」のための教材準備			指導計画案の作成・教材研究をしておく		
8) 「指導計画」の実践 「模擬保育」の実践、「指導計画」の改善			主体的に実習準備やまとめを行う		
9) 実習直前指導 「指導計画」「自己課題」の確認			実習の心構え、注意事項について熟読する		
10) 実習事後指導 実習の振り返り・お礼状の作成			実習の評価・反省、課題をまとめる		
11) 実習報告会① 実習のまとめ、実習での学びを深める			実習での気づき、学びをまとめる		
12) 実習報告会② グループ討議・「実習のまとめ」報告書作成			グループ討議での気づき、学びをまとめる		
13) 全体報告会③ グループによる報告書の発表①			グループ発表の内容、学びをまとめる		
14) 全体報告会④ グループによる報告書の発表②			グループ発表の内容、学びをまとめる		
15) まとめ 振り返り・自己評価			実習や報告会での自己課題をまとめる		
[使用テキスト] 「実習の記録」、「実習ハンドブック」、配布資料					
[参考文献] 久富陽子編著 『幼稚園・保育所実習指導計画の考え方・立て方』 萌文書林 2017年					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】		【定期試験】			
①平常点評価 (60%)		①筆記試験 (%)			
②到達度の確認 (40%)		②レポート (%)			
③実技・作品発表 (%)		③実技試験 (%)			
		④面接試験 (%)			
[フィードバックの方法] 最終授業で講評を行う。					
[備考] 実習・実習指導は連動します。評価は総合的に行います。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 保育実習Ⅱ (保育所)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 実習		授業担当者 大内田、()、野村、井下、 伏尾、池脇	
授業の回数	80 時間	時間数(単位数)	2 単位	配当	3 セメスター
□ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] ・保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 ・子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 ・既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。 ・保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価について、実際に取り組み、理解を深める。 ・保育際の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結び付けて理解する。 ・実習における自己の課題を明確化する。					主に対応するDP 1, 2, 3, 4
[授業全体の内容の概要] ・保育所での責任実習を行いながら、子ども理解を深め、保育の方法・技術を実践的に学ぶ。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 実習を通して、保育者として必要な保育・養護の知識・技術を身につけ、実践できる。 ・実習での実践や気づきをまとめ、考察することで自己課題・努力目標を明確にする。 ・めざすべき保育者像や子ども観・保育観を言語化できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
<p>①保育所の役割や機能の具体的展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養護と教育が一体となって行われる保育について学ぶ。 ・保育所の社会的役割と責任について理解する。 <p>②観察に基づく保育の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心身の状態や活動、保育士等の援助や関わりを理解する。 ・保育所の生活の流れた保育の展開を把握する。 <p>③子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育を学ぶ。 ・保育ニーズの多様化に伴い、子ども・保護者に必要な支援のあり方や過程・地域社会との連携について学ぶ。 <p>④指導計画の作成・実践・記録・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解を深める。 ・作成した指導計画に基づく保育を実践・評価することで、具体的・実践的に学ぶ。 <p>⑤保育士の業務と職業倫理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な保育の展開を学び、保育士の業務や職業倫理について理解する。 <p>⑥自己の課題の明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習の成果を「実習の記録」の記録・整理し、事故の学習課題や努力目標を明らかにする。 			「保育実習指導Ⅱ」で事前・事後指導を行う。		
[使用テキスト] 「実習の記録」「実習ハンドブック」・配布資料 等					
[参考文献] 久富陽子編著 『幼稚園・保育所実習指導計画の考え方・立て方』 萌文書林 2017					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】		【定期試験】			
①平常点評価 (40 %)		①筆記試験 (%)			
②到達度の確認 (60 %)		②レポート (%)			
③実技・作品発表 (%)		③実技試験 (%)			
【定期試験】		④面接試験 (%)			
[フィードバックの方法] 実習終了後に面談を行う。					
[備考] 実習・実習指導は連動します。評価は総合的に行います。					

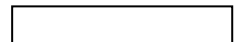
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

--

子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 保育・教職実践演習		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 大内田 真理	
授業の回数	23 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	4 セメスター
□ 実務経験		必修 (保・幼)			
[授業の目的・ねらい] これまでの学習内容や実習を振り返り、保育・教育の実践に必要な知識・技能について総合的に学びを深め、現場での実践力を高める。保育者・教育者としての自身の課題や目標を明確にする。目標の達成に向けて努力をする中で自らの保育観・教育観を深化させることを目的とする。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 今までの実習や学習で学んだことをもとに、保育・教育に必要な知識・技術の実践力を深める。保育現場の見学やディスカッション、模擬保育 (ロールプレイ) を通じ、保育実践力の基礎を養う。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 体験を振り返り、考察して学び、実践とつなぐことを通じて、自らの保育観・教育観を深める。					
[準備学習の内容] これまでの『実習の記録』を読み返し、実習の振り返りを行う。 ・「保育・教職履修カルテ」の記入を行う					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1) オリエンテーション/これまでの実習の振り返り① 全体のオリエンテーション。学習の振り返りのためのカルテを作成する。今までの実習体験を振り返り、個人面談を通して到達と課題を明確にする。 ・「私のめざす保育者像」を書く					
2) これまでの実習の振り返り② これまでの実習体験を振り返り、個人面談等を通して到達と課題を明確にする。「私のめざす保育者像」を書く					
3) 事例検討とディスカッション・学習① 「安全・事故防止」「保護者対応」等のテーマをピックアップし、グループワーク形式で事例検討・学習を行う。					
4) 事例検討とディスカッション・学習② 保育や幼児教育等における今日の課題についてテーマをピックアップし、グループワーク形式で事例検討・学習を行う。					
5) 6) 7) 施設見学 (ガイダンスを含む) グループ毎に見学の視座を明らかにし、施設見学を行う (保育所、幼稚園、認定こども園等を予定)					
8) 9) 10) 指導案作成 (教材研究・準備を含む) 施設見学のまとめを参考に模擬保育、現場実践の指導案作成、教材研究・準備を行う。					
11) 12) 模擬保育 (リハーサルを含む) 保育者、子ども、ギャラリーの3つのロール (役割) を交替で担当し模擬保育を行い、相互評価を行う。					
13) 14) 模擬保育 (リハーサルを含む) 保育者、子ども、ギャラリーの3つのロール (役割) を交替で担当し模擬保育を行い、相互評価を行う。					
15) 16) 現場実践 施設見学に行った現場で遊びの実践を行う。現場実践では実践者と記録者の役割を分担する。					
17) 18) 現場実践のふりかえり①② 実践を行ったグループ (実践者/記録者) で現場実践のふりかえりを行う。					
19) 20) 現場実践のふりかえり③④ 現場実践のふりかえりをまとめ、発表会にとりくむ。					
21) 22) 保育・教職実践演習のふりかえりとまとめ 本授業でのとりくみをふりかえり、自らの保育観・教育観としてまとめ発表する。					
23) 授業のまとめ					
試験)		[単位認定の方法及び基準]		【試験】	
[使用テキスト] 授業で資料を配布する		【授業内評価】 ・平常点評価 (60 %)		・筆記試験 (%)	
[参考文献] 久富陽子編 「幼稚園・保育所実習 指導計画の考え方・立て方」萌文書林		・到達度の確認 (40 %)		・レポート (%)	
[フィードバックの方法] 最終授業で講評する。		・実技・作品発表 (%)		・実技試験 (%)	
				・面接試験 (%)	
		[備考] ①平常点評価 (ディスカッション・模擬保育・行事参加等) ②授業内レポート (指導計画・レポート等) ※保育現場実践のため、担当する保育園までの交通費は実費です。(堺市内予定)ご準備ください。			

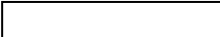
※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 子どもの権利Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 古川 利通	
授業の回数	15回	時間数(単位数)	2単位	配当	3セメスター
☑ 実務経験		大学教員になる前の公務員 (東京都)として福祉行政に従事、その経験を活かした授業を行う。			
[授業の目的・ねらい] ひとつおりの保育実習などを学んできた皆さんが、実際に起こった子どもや福祉にかかわる事件と判決内容を理解し、そのうえで、子どもの権利と福祉の実態について主体的に考え自分なりの考えを作る力と、それを発表し、他人をできる限り説得できる力を身につけることを目的とする。判例報告を行い、積極的に自分の意見を述べることであれば単位は取得できます。					主に対応するDP 3
[授業全体の内容の概要] この授業は、学生が選択した事件・判決を報告し、討論する演習方式であるから、授業内容は7つの判決内容の全体である。皆さんは、判決を読むのが初めてですから、一時限目に、まず事件と判決の内容を理解し、2時限目にそれについて討論する方式です。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 子どもの権利や福祉の課題が、今の日本でどの程度実現されているか、今後の課題は何かを、皆さん一人一人が自分なりに説明することができ、他人の意見に対しても自分の意見を述べる力をつけること					
[準備学習の内容] 報告者グループは、第一に判決を理解し、その内容を分かりやすくレジュメを作って、一時限目に報告する。二時限目には報告者がまず判決に対する賛成や反対などの意見を報告 (レジュメで) し、ほかの皆さんはそれに対して自分の意見を述べる。その準備をしておきましょう。2018年度の報告レジュメは優秀なものが多かったし、討論も極めて活発であった。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
2020年度に学生が選択した判例は、以下のようである。本年度は新版の『社会福祉判例百選』を使用する。					
1) 「子どもの権利」論演習のやり方の説明。学生の希望に基づき判例を選択し、報告グループを決定する。					
2) 「ボランティアの民事責任」事件の事実の概要と判決内容の理解。他の参加者は語句の意味や内容について質問する。					
3) 「ボランティアの民事責任」の判決批判 (賛成あるいは反対) を報告者の報告に基づき、討論する。					
4) 「生活保護不正受給」事件の事実の概要と判決内容の理解。他の参加者は語句の意味や内容について質問する。					
5) 「生活保護不正受給」の判決批判 (賛成あるいは反対) を報告者の報告に基づき、討論する。					
6) 「婚姻によらないで懐胎した児童の父による認知と児童福祉手当」事件の事実の概要と判決内容の理解。他の者は語句などについて質問する。					
7) 「婚姻によらないで懐胎した児童の父による認知と児童福祉手当」の判決批判 (賛成あるいは反対) を報告者の報告に基づき、討論する。					
8) 「使用者の安全配慮義務」事件の事実の概要と判決内容の理解。他の参加者は語句の意味や内容について質問する。					
9) 「使用者の安全配慮義務」の判決批判 (賛成あるいは反対) を報告者の報告に基づき、討論する					
10) 「知的障害者更生施設による障害基礎年金の横領」事件の事実の概要と判決内容の理解。他の参加者は語句の意味や内容について質問する。					
11) 「知的障害者更生施設による障害基礎年金の横領」の判決批判 (賛成あるいは反対) を報告者の報告に基づき、討論する。					
12) 「民間養護施設における集団暴力によって生じた入所児の行為障害」事件の事実の概要と判決内容の理解。他の者は語句等について質問する。					
13) 「民間養護施設における集団暴力によって生じた入所児の行為障害」の判決批判 (賛成あるいは反対) を報告者の報告に基づき、討論する。					
14) 「児童相談所長による親権喪失の申し立て」事件の事実の概要と判決内容の理解。他の参加者は語句の意味や内容について質問する。					
15) 「児童相談所長による親権喪失の申し立て」の判決批判 (賛成あるいは反対) を報告者の報告に基づき、討論する。後半はレポート作成。					
試験)			[単位認定の方法及び基準]		[試験]
[使用テキスト] ジュリスト第5版『社会保障判例百選』の抜粋、古川利通『日本国憲法』、『社会福祉六法』			【授業内評価】 ・平常点評価 (90%) ・到達度の確認 () % ・実技・作品発表 (10%)		・筆記試験 () % ・レポート () % ・実技試験 () % ・面接試験 () %
[参考文献] 「判例時報」「判例タイムズ」など					
[フィードバックの方法] 授業での教員のコメント・評価			[備考] 報告をしっかりと行い50点、その他の時に積極的に意見出すことで40点		

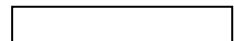
※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 発達保障の探求		授業の種類 (講義・演習・実技・実習)		授業担当者 野村 朋	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	4 セメスター
☑ 実務経験	発達支援センター発達相談員				
[授業の目的・ねらい] 障がいを持つ人のライフサイクルを通じた支援の在り方について考えるために学童期以降の障がい者問題について学ぶ					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 乳幼児期以降の障がい者問題を取り上げ、家族支援も視野に入れつつ、それぞれの時期における支援の在り方、「発達保障」の在り方を考察する。施設見学なども行い、実践的に学ぶ					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 「発達を保障する」支援のありかたについて自分の考えを述べるができる。 ライフサイクルを見通して、障がいをもつ人の支援の在り方について考察できる					
[準備学習の内容] 障害児保育で学んだ知識を整理する。資料を通読しておくこと。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1) 発達保障について 障がいをもつひとの生涯発達の保障について考える					
2) 障がい観を深める 映画 「どんぐりの家」 ろう重複障害者のための作業所を題材にしたアニメーション映画を視聴し、内容について論議する					
3) 障がい観を深める 障がい児保育・教育の制度的確立と発展 就学義務の免除・猶予の規定について、グループワークを通して自分なりに考え、障がい観を深める事例を通してグループワークを行う					
4) 障がいをもつひとの生涯発達の保障について考える 青年の学びの場、障害をもつ人の進路について (ゲストスピーカーを招いて学ぶ)					
5) 障がいをもつ人の自立について 青年の学びの場、障害をもつ人の進路について 障害のある人の就労と進路について学ぶ。グループワークを行う					
6) 障がいをもつ人の自立について 障がいをもつ人の生活について 余暇活動、障がい児・者の権利としての性 (ゲストスピーカーを招いて学ぶ)					
7) 障害を持つ子どもと家族 障害を持つ子どものきょうだいの支援の課題について学ぶ					
8) まとめとレポート 支援のありかたについて自分の考えをまとめる ライフサイクルを見通して、障がいをもつ人の支援の在り方について考察する					
試験)		[単位認定の方法及び基準]		【試験】	
[使用テキスト] 適宜プリントを配布する		【授業内評価】 ・平常点評価 (10 %)		・筆記試験 (%)	
[参考文献] 新版キーワードブック・特別支援教育ーインクルーシブ教育時代の基礎知識、編著、玉村公二彦、黒田学、クリエイツかもがわ		・到達度の確認 (%)		・レポート (40 %)	
		・実技・作品発表 (50 %)		・実技試験 (%)	
				・面接試験 (%)	
[フィードバックの方法] 毎授業内のリアクションペーパーの返却と応答を行う		[備考]			

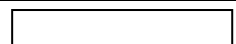
※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 臨床心理学		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 川岸 育子	
授業の回数	8 回	時間数 (単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
□ 実務経験あり	児童養護施設の心理士として“実親と暮らせない事情のある子どもたちとプレイセラピーを通して関わってきた経験”を活かし、学生自身が“自分自身の育ちや現在の心のありように目を向け、自分自身と出会いなおす”ことを促進し、『対象理解』の前提となる『自己理解』を深めることを目指す。				
[授業の目的・ねらい] 対人援助職で必要不可欠なのは『対象理解』であるが、『対象理解』のためには『自己理解』が前提となる。本講義ではプレイセラピーの事例について臨床心理学の観点から考えることを通じて、その考えている主体である自分自身へもスポットを当て、自分自身を客観視する力を養い、『自己理解』を深めることを目的とする。					主に対応するD P 1
[授業全体の内容の概要] 保育・幼児教育の現場で遭遇することが想定される具体的な事象についての臨床心理学的な視点を提示するとともに、学生自身が将来現場で働く中で体験するであろう“傷つき”へのセルフケアについても伝える。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 日頃から自分自身の「こころ」の在りようを意識し、自己客観視を行う習慣をつけ、自己理解を深める。授業で学んだ臨床心理学の考え方を日常の生活や仕事の現場で思い出して応用できるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 臨床心理学の実際：児童養護施設や幼稚園における臨床心理士の役割について学ぶ			予習：児童養護施設について調べる (15分) 復習：授業内容についてのレポート提出 (授業時間内)		
2) 臨床心理学の対象理解：【イ】児童虐待についてフィクション事例をもとに意見を出し合う			予習：テキスト及びレジュメの指定箇所を読み質問を考える (20分) 復習：授業内容についてのレポート提出 (授業時間内)		
3) 心の育ちについての臨床心理学の視点：プレイセラピーの事例より学ぶ			予習：テキスト及びレジュメの指定箇所を読み質問を考える (20分) 復習：授業内容についてのレポート提出 (授業時間内)		
4) 心の育ちについての臨床心理学の視点：プレイセラピーの事例より学ぶ			予習：テキスト及びレジュメの指定箇所を読み質問を考える (20分) 復習：授業内容についてのレポート提出 (授業時間内)		
5) 心の育ちについての臨床心理学の視点：プレイセラピーの事例より学ぶ			予習：テキスト及びレジュメの指定箇所を読み質問を考える (20分) 復習：授業内容についてのレポート提出 (授業時間内)		
6) 心の育ちについての臨床心理学の視点：プレイセラピーの事例より学ぶ			予習：テキスト及びレジュメの指定箇所を読み質問を考える (20分) 復習：授業内容についてのレポートを提出する		
7) 8) 臨床心理学のアセスメント[バウムテスト]：【オ】描画を描き、その作品をグループ内で互いに【エ】発表し合い、【ウ】発表者の描画についての感想を言い合う。			復習：臨床心理学の講義全体についてのレポートを提出する (30分)		
[使用テキスト] 『遊びからみえる子どものこころ』日本遊戯療法学会編 日本評論社					
※上記以外にも講義内にて随時、資料を配布する					
[参考文献] 『はじまりは愛着から』佐々木正美・福音館 『傷跡の真実』河野朗久・新興医学出版社ほか					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
① 平常点評価 (40%)	予習を行い自ら問いを持って主体的に授業に参加しているか。提出物を出しているか。				
② 到達度の確認 (40%)	授業を通しての自分自身の気づきを、体験と結び付けてレポートに書いているか。				
③ 実技・作品発表 (20%)	意欲的に発表するとともに、他者の発表に興味を持って聞き、質問や感想を言えているか。				
【定期試験】					
①筆記試験 (%)	③実技試験 (%)				
②レポート (%)	④面接試験 (%)				
[フィードバックの方法] 前回の講義終了時に提出されたレポートについて、各回講義の最初にフィードバックを行う					
[備考]◎教育実習等での公欠については、実習において困ったこととそれについてどう対応したかをレポートにまとめて提出することによって可とする。					
◎本講義で体験することがらは、臨床心理学についての理解促進のためのものであり、学生自身にとっての本格的な治療となるものではないことに留意すること。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

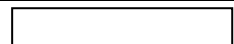
授業のタイトル (科目名) 子育て支援Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
☑実務経験	保育士の経験を活かし、子育て支援の基本、地域の子育て支援について講義・演習行う。				
[授業の目的・ねらい] 現代社会における子育て環境の変化や、子育て支援に求められている多様なニーズについて理解し、保育者として求められる役割について学び、子育て支援に必要な基礎力と実践力を身につけることを目的とする。					主に対応するD P 2
[授業全体の内容の概要] 現代における子どもの育ちや子育ての課題についての学びを深める。子育て支援の実態を知り、グループごとの課題に取り組む。子育て支援の現場を体験し、実際に学生主導で「子育てひろば」を開催することで地域の子育て支援のあり方を実践的に学ぶ。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)]					
1. 保育所・幼稚園・こども園における子育て支援に携わるための基本的な知識・技能を理解し、説明することができる。 2. 現代社会における保育者の役割と子育て支援の重要性を説明することができる。 3. フィールドワークや「子育てひろば」開催の経験を通して、専門職としての保育者の役割が説明でき、実践することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 子育て支援の現状と子育て支援の基本 子どもを取り巻く環境、子育て支援の現状、子育て支援の基本			「子育て支援Ⅰ」の復習をする。(60分) 子育て支援の現状と基本をまとめる。(60分)		
2) 地域の子育て支援に対する支援① 地域の子育て支援の現状、保育士が行う子育て支援の展開			地域の子育てひろばについて調べる。(60分) 子育て支援の展開についてまとめる。(60分)		
3) 地域の子育て支援に対する支援② ◎子育てひろばの見学 地域の子育て支援の現状と保育士が行う子育て支援の実際			見学する子育てひろばを調べる。(60分) 子育てひろば見学のレポート作成 (60分)		
4) 保育士が行う子育て支援の展開① 子ども・保護者の状況把握、支援の計画、環境の構成			子育てひろばの計画を考えておく。(60分) 子育てひろばの準備をする。(60分)		
5) 保育士が行う子育て支援の展開② 子育てひろばの実践① 子育てひろばの実践①			子育てひろばの準備をする。(60分) 子育てひろばの実践のレポート作成(60分)		
6) 保育士が行う子育て支援の展開③ 子育てひろばの記録・評価・反省			子育てひろば振り返り、課題の明確化(60分) 子育てひろばの準備をする。(60分)		
7) 保育士が行う子育て支援の展開④ ◎子育てひろばの実践② 子育てひろばの実践②			子育てひろばの準備をする。(60分) 子育てひろばの実践のレポート作成(60分)		
8) 保育士が行う子育て支援の展開⑤ 子育て支援の現状と課題、地域の社会資源の活用と関係機関との協働			子育てひろば振り返り、課題の明確化(60分) 8回の授業の振り返り要点をまとめる(60分)		
[使用テキスト] 授業内で必要に応じて資料を配布する。					
[参考文献] 厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館 2018年					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】			【定期試験】		
①平常点評価 (30 %)			①筆記試験 (%)		
②到達度の確認 (30 %)			②レポート (%)		
③実技・作品発表 (40 %)			③実技試験 (%)		
			④面接試験 (%)		
[フィードバックの方法] 提出された課題について授業内で解説し、フィードバックを行う。					
[備考] 子育てひろばの見学・実践を必須条件とする。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 社会的養護Ⅲ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義・演習		授業担当者 北川 拓	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	セメスター 必修・ 選択必修 ・選択
□ 実務経験 児童福祉司の経験を活かし実践の場で応用できる知識や技術について授業を行う					
[授業の目的・ねらい] 社会的養護の今期的問題や課題、児童福祉施設職員の業務内容についてより深く理解するとともに、対人援助に必要な知識や技術を身につける					主に対応するDP (未選択)
[授業全体の内容の概要] 児童福祉法と子どもの権利、社会的養護を必要とする子どもとその保護者支援、対人援助技術を演習問題などの具体的事例などを通して理解する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 社会的養護を必要とする子どもの背景を考察するとともに、子どもと保護者支援のための制度理解、機関連携、支援内容、援助技術、ケースの見立てができるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 必要な支援とはなにか ・「過剰支援」と「適正支援」を知る ・児童福祉施設職員に求められるソーシャルワークマネジメント			コミュニケーションの方法としてどのようなものがあるかを調べる		
2) 児童福祉法と子どもの権利 ・「国連子どもの権利条約と日本の子ども期第4・5最終所見を読み解く」 ・ディスカッション (子どもの人権とは何か)			子どもの権利条約を事前に調べる		
3) ヤングケアラーとは ・ヤングケアラーの概念 ・グループ討論と発表 (具体的事例を通して考えられる支援策)			ヤングケアラーの意味を調べる		
4) 虐待事例への対応 (告知と通告) ・虐待対応のステージ (発生予防・早期発見早期対応・保護・自立支援)			児童福祉法第25条 [通告義務] を調べる		
5) ジェノグラムの描き方と活用のコツ ・ジェノグラムの必要性と描き方 ・演習 (自分のジェノグラムを描く) ・演習 (事例問題のジェノグラムを描く)			「ジェノグラム」とは何か調べる		
6) 子どもの自尊心を育むいのちと性 ・性の発達と生命のつながり ・児童福祉施設における性教育について			エリクソンの8つの発達段階を調べる		
7) 児童虐待とヤングケアラー ・演習 (事例を通じたジェノグラム作成と要支援児童と要保護児童) ・模擬ケース会議 ・グループ討論 (事例についての具体的支援方法を考える)			「エコマップ」について調べる		
8) 全体の振り返り ・事例検討会 (家族診断と親子の再統合に向けての自立支援計画) ・グループ発表			児童福祉法第25条の2 [養護児童対策地域協議会]について調べる		
[使用テキスト] 毎授業ごとに資料を配布する					
[参考文献] 社会福祉小六法					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
① 平常点評価 (50%)	平常時におけるレポート提出や授業態度により評価する				
② 到達度の確認 (30%)	課題レポートの内容が適切であったか考察はできているかで評価する				
③ 実技・作品発表 (20%)	発表内容や事前準備ができているかで評価する				
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 各授業ごとに振り返りと質問時間を設けるとともに課題レポートの提出をする。					
[備考]					

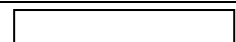
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 音楽Ⅱc(ピアノ発表会)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 猪瀬 千裕	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	3セメスター
□ 実務経験		ピアニストの経験を活かし演奏する上でのマナー、心意気、技術、表現力を指導する			
[授業の目的・ねらい] 本授業は保育・幼児教育の現場において、音楽を通して子どもたちのより豊かな情操を育むために、より高度なピアノ演奏技術と、ピアノを用いた創造的な保育の展開方法を習得し、演奏できるようになる					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 本授業は音楽Ⅰa(器楽)ピアノの単位修得者を対象とした科目である。音楽Ⅰa(器楽)で修得した基礎技能に加え、とり応用的なピアノ演奏技能と譜読み力を身につけるため、総合的な実技演習を行う。ピアノ独奏に加え、各自の能力に応じて弾き歌いや、連弾にも取り組み、アンサンブル能力を身につけ、楽しく豊かな表現力を習得できるよう導く。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] より高度な演奏技術と表現力を身につけ、発表会で披露することができる。様々なジャンルにまたがる多くのおひの曲のレパートリーを身につけ実際に弾くことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) ガイダンス それぞれのピアノ学習経験の違いを踏まえ、得意な点と不得意な点の確認を行いつつ、個人指導を中心に以下の項目を学習する。			自分が弾けるレベルの楽譜を持参する。発表会で弾きたい曲の候補が考えられる場合は譜面を用意する		
2)～6) ピアノ演奏法 演奏解釈 弾き歌い			前回指摘されたことを中心に少しでも上達できるように各自練習する		
7) プログラムビルディングとリハーサル					
8) 発表会 (実技テスト)			試験で力を発揮できるよう最大限の努力をする		
[使用テキスト] 個別の進度に合わせて担当教員が指定するテキスト					
[参考文献]特になし					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
① 平常点評価 (50%)		毎回の授業態度、取組み、日頃の練習			
② 到達度の確認 (%)					
③ 技・作品発表 (50%)		実技、表現力、演奏マナー			
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
④実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 授業内で講評を行う					
[備考]					

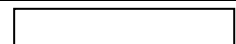
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 子どもと保育の音楽 I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演 習		授業担当者 井下 べに	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
□ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 声を出発点とした乳幼児のコミュニケーションの実際を理解し、音の環境、音の出るものはすべて子どもたちの音による表現の場となることを受けて、それらを子どもたちが自発的に表現することができるような感覚を保育者の視点から身につける。さらに、乳幼児期の子どもたちの音楽的な表現活動に関する理解を深め、実際に保育・幼児教育現場を想定した実践力を培う。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 乳幼児期の音楽的な表現活動の内容や方法を学び、子どもと保育の音楽に関する基本的な理解を深め、具体的な保育内容を構築し、実践できる力量形成を目指す。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 保育者の視点から子どもと保育の音楽に関する基本的な内容や方法を理解し、保育・幼児教育現場を想定した保育内容の構築および実践ができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション 本授業の目的、計画、耳をすまして音楽づくり					
2) 乳幼児の発達と音楽的表現活動 子どもの歌唱の実態と保育者の援助			子どもの全体的な発達について復習しておく。音楽的表現活動について調べる。		
3) 音楽的表現の内容と方法の検討① サウンドスケープの特徴と遊びの実践			音の聴取、音の探索、サウンドスケープについて調べる。		
4) 音楽的表現の内容と方法の検討② わらべうたの特徴と遊びの実践			わらべうたやわらべうた遊びについて調べる。		
5) 音楽的な表現活動の実践① 手づくり楽器の活用法			楽器や手づくり楽器、その活用法について調べる。		
6) 音楽的な表現活動の実践② ボディパーカッションで音楽づくり			言葉のリズム遊びについて復習する。ボディパーカッションについて調べる。		
7) 音楽的な表現活動の実践③ 視覚的教材の効果的な活用と音楽表現			ペープシアターの活用、音や音楽に関する絵本について調べる。		
8) まとめ・創造的な音楽表現に関するプレゼンテーション			発表準備をしておく。		
[使用テキスト] ※随時教材プリントを作成し配布する					
[参考文献] 井口太編 (2018) 『最新・幼児の音楽教育』朝日出版社。 今泉明美、有村さやか編 (2017) 『子どものための音楽表現技術』萌文書林。 小西行郎、志村洋子、今川恭子、坂井康子編 (2016) 『乳幼児の音楽表現：赤ちゃんから始まる音環境の創造 (保育士・幼稚園教諭養成課程)』中央法規。					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価 (30 %)		授業内課題、授業態度			
②到達度の確認 (20 %)		課題			
③実技・作品発表 (50 %)		作品発表、実技発表			
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 提出された課題については、授業内および後日の授業時にフィードバックを行う。また、質問に対しては、次回の授業時に全体に向けて回答・説明し、必要に応じて質問者に個別に回答・説明する。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 子どもと保育の音楽Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 猪瀬 千裕	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	4セメスター
□ 実務経験		幅広く学んできた音楽の知識を活かし保育現場で活用できるようなことを講義する			
[授業の目的・ねらい] 3セメスターで履修した「子どもの保育と音楽Ⅰ」での知識や技能を基として、さらにより豊かで発展的な展開ができるよう、4セメスターでは保育現場で有用な器楽用法の経験も加えて、音楽分野において幼児の心に寄り添える保育者として、現場で役立つ「子どもの保育と音楽」のより実践的な能力の習得を目指す。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 保育現場で役立つ音楽遊びについてより深く講義する。簡易楽器、手作り楽器の活用例、歌うこと、弾くこと、身体表現を行うこと、これらを軸に身近で実践的な保育音楽の様々な展開例を講義する					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 保育者として、子どもの豊かな情操、音楽的感性の発達、を支援できる知識と技能を獲得し、音楽関連分野での保育実践能力と応用展開能力の獲得をする					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 保育現場で用いられる楽器 簡易楽器の紹介 その扱い方や特徴、幼児の保育を想定した実習演習					
2) 簡易楽器で楽しむ保育の音楽 子どもが輝く保育の音楽 様々な楽器を用いてアンサンブルの楽しさを体験する					
3) 簡易な手作り楽器 その理論と製作Ⅰ 手作り楽器の意義と製作 その注意点について			何を作製するか考える		
4) 簡易な手作り楽器 その理論と製作Ⅱ 図画工作や遊びとは異なる手作り楽器を実際に作る。音楽的保育としての観点からそのポイントと活用法を学ぶ			必要な道具を用意する		
5) 幼児と保育者で楽しむ手話 ピアノ、手ぶり、身ぶり、身体表現、手話でコミュニケーションをはかる					
6) ~7) 幼児のリクエストに応えられるよう作曲に触れる 簡単なコードを使い自由にメロディーを考える			音楽Ⅱaから学んだコードの確認		
8) 各自考えた曲を発表し感想を言い合う			自身の曲を弾けるように練習する		
[使用テキスト] 随時教材プリントを作成し配布する					
[参考文献] 特になし					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
① 平常点評 (50%)					
② 到達度の確認 (%)					
③ 技・作品発表 (50%)					
【定期試験】					
① 筆記試験 (%)					
② レポート (%)					
③ 実技試験 (%)					
④ 面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 授業内で講評を行う					
[備考] 平常点は、授業目標に対する各授業時の発表と達成度により評価する					

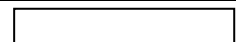
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 幼児体育Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 満園 結	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
□ 実務経験		保育士としての経験を活かす			
[授業の目的・ねらい] 乳幼児の発達に沿った子どもの保育活動としてのリズム運動・音楽リズムの基礎を、演習を通してその技能を習得する。子どもたちが取り組んでいるリズム運動・音楽リズム(ひびけ草原の歌含む)活動に関する理解を深め、実際に保育現場において実践力を培う。子どもたちが、身体を通して自発的に表現できるような感覚を保育者の視点から身につける。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 乳幼児期の保育内容や方法を学び、運動遊びの具体的な保育内容・指導法を構築し、実践できる力量形成を目指す。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 保育者の視点から子どもの文化・表現に関する基本的な内容や方法を理解し、保育・幼児教育現場を想定した保育内容の構築および実践ができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション 本授業の目的、計画を理解する					
2) リズム運動遊び(ひびけ草原の歌含む)の基礎を知る			使用テキスト 予習 7 8P～9 6P		
3) リズム運動の内容・意義を体験的に理解する					
4) 実際の保育で行われているリズム運動(ひびけ草原の歌含む)のねらい・内容・展開について実践的に理解する(乳児期)					
5) 実際の保育で行われているリズム運動(ひびけ草原の歌含む)のねらい・内容・展開について実践的に理解する(幼児期)					
6) 実際の保育で行われているリズム運動(ひびけ草原の歌含む)の展開や指導方法について実践的に理解する(乳児期)					
7) 実際の保育で行われているリズム運動(ひびけ草原の歌含む)の展開や指導方法について実践的に理解する(幼児期)					
8) まとめ レポート 実際の保育で行われているリズム運動の展開や指導方法について実践的に理解し、習得する			講義で配布するプリントを読み小レポートを作成する		
[使用テキスト] 「リズム運動と子どもの発達」かもがわ出版 「リズム表現曲集 I・II」子どもの未来社 ※プリントとして配布する					
[参考文献]※必要な教材プリントは順次配布する 「ひびけ草原の歌」歌集より					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
① 平常点評価(50%)					
② 到達度の確認(%)					
③ 実技・作品発表(50%)					
【定期試験】					
① 筆記試験(%)					
② レポート(%)					
③ 実技試験(%)					
④ 面接試験(%)					
[フィードバックの方法]					
[備考] 保育園に行き、子どもたちと実際にリズム運動を取り組みます。保育園までの交通費は実費です。持ち物・集合時間、諸注意は厳守してください。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) リズム運動・民族芸能		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 藤堂 真沙子 他	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
□ 実務経験		選択必修 (保)			
[授業の目的・ねらい] 乳幼児期の発達にそくした子どもの文化活動・保育活動としての民族芸能の基礎について、演習を通してその技能を習得する。子どもたちに伝承する文化・表現活動に関する理解を深め、実際に保育・幼児教育現場を想定した実践力を培う。子どもたちが自発的に表現することができるような感覚を保育者の視点から身につける。※今期の授業ではリズム運動は行いません。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 乳幼児期の文化・表現活動の内容や方法を学び、子どもと保育に関する基本的な理解を深め、具体的な保育内容を構築し、実践できる力量形成を目指す。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 保育者の視点から子どもの文化・表現に関する基本的な内容や方法を理解し、保育・幼児教育現場を想定した保育内容の構築および実践ができる。					
[準備学習の内容] 専門用語や音楽表現に関する文献を読み、知識・技能の定着を図ること。日常的に体力をつけておくこと。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1) オリエンテーション 本授業の目的、計画を理解する 民族芸能の基礎・踊りの所作にこめられた意味を知る					
2) 民族芸能の基礎・表現方法・魅力・楽しさを知る					
3) 日本の伝統文化である民舞を通して、民族芸能のすばらしさを体得する					
4) 民舞・表現の実践 アンサンブルについて学ぶ					
5) 民舞・表現の実践 アンサンブルについて考察する					
6) 民舞・表現の実践 アンサンブルについて習得しようとする					
7) まとめ 創造的な表現に関するプレゼンテーション こども園での発表					
8) まとめ 創造的な表現に関するプレゼンテーション こども園での発表					
試験)		[単位認定の方法及び基準]		【試験】	
[使用テキスト] ※必要な教材プリントは配布する		【授業内評価】 ・平常点評価 (50 %)		・筆記試験 (%)	
[参考文献]		・到達度の確認 (%)		・レポート (%)	
		・実技・作品発表 (50 %)		・実技試験 (%)	
[フィードバックの方法]		[備考]			

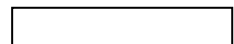
※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 子どもの遊びと文化Ⅳ(教材研究)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 高砂 朋子	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
☑ 実務経験		ネイチャーレクリエーション指導員の経験を活かし実践の場で応用できる知識や技能を身につける。			
[授業の目的・ねらい] 子どもの遊びと文化について、その基本的な考え方や必要な技能を理解する。乳幼児期の発達にそくした保育教材について研究する。実習で活用する保育内容・指導計画にそった教材の基本的な考え方や具体的な制作技術を習得し、保育技術の基礎を身につける。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 保育実習における保育教材の理解を深め、研究・制作を行う。保育技術の基礎を身につける。保育実習における指導計画や活動のねらいをもって取り組む。シェアリングネイチャーの教材を使って、乳幼児期の遊びを研究する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 乳幼児が発達に必要な体験を得られる保育教材について研究し、基本的な保育技術の実演ができる。					
[準備学習の内容]					
<p>(事前学習) 各自、裁縫道具箱(最低限必要なもの：縫い針・針やま・糸・糸きり鋏・布きり鋏等)を準備し、第1回に持参すること。大学・公共図書館で保育教材が掲載されている本を選書し、教材研究の参考になるページを複写して準備しておく。</p> <p>(事後学習) 授業内容を振り返り、授業内で配布された資料をまとめて整理する。実習に向けて授業内に研究した保育教材を実践的に発表したことを考察する。</p>					
[授業の日程 (担当者) と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学習の内容の詳細]	
1) 本講義のオリエンテーション 教材(保育教材)とは何か。環境を通して行う保育、シェアリングネイチャーレクリエーションの技法を学ぶ。				大学・公共図書館にある保育教材の本を選書して、教材研究の参考になる本を読む。	
2) 保育教材の研究：保育実習指導計画 乳幼児期の遊びと手作りのおもちゃ (教材制作 手あそび 絵本の読み聞かせと選書等)				第1講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。	
3) 保育教材の研究②：保育実習指導計画 乳幼児期の遊びと手作りのおもちゃ (教材制作 手あそび 絵本の読み聞かせ等)				前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。	
4) 保育教材の制作：保育実習指導計画 乳幼児期の遊びと手作りのおもちゃ (教材制作 手あそび 絵本の読み聞かせ等)				前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。	
5) 保育教材の制作②：保育実習指導計画 乳幼児期の遊びと手作りのおもちゃ (教材制作 手あそび 絵本の読み聞かせ等)				前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。	
6) 保育教材の実践：保育実習指導計画 乳幼児期の遊びと手作りのおもちゃ (教材制作 手あそび 絵本の読み聞かせ等)				前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。	
7) 保育教材の考察 保育教材と子どもとのかかわり方について、指導・援助・保育者の心構えについて知る。				前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。	
8) 授業のまとめ・到達度の確認。実践的に取り組み、プレゼンテーションを行う。 保育技術へのコメントを行う。実習に臨む準備として位置付ける。				全体を振り返り、到達度の確認に臨めるよう復習する詳細は授業内に説明する。	
[使用テキスト]適宜、必要なプリントを配布します。「保育所保育指針解説書」					
[参考文献]「保育小事典」大月書店、「保育用語辞典」ミネルヴァ書房、「保育所保育指針解説書」『子どもと楽しむ手遊びわらべうた』/『子どもと楽しむ自然体験活動』光生館 神長美津子他 日本ネイチャーゲーム協会監修「子どもと楽しむ自然体験活動」光生館、「とぎすまそう安全への感覚 里山活動でのリスク管理」「シェアリングネイチャー自然のよるこびをわかちあおう」「ジョセフ・コーネル執筆・講演集」、「ジョン・ミューア 自然と共に歩いた人生」授業内で必要に応じて絵本、著書を紹介する					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】			【定期試験】		
① 平常点評価 (40%)			② 筆記試験 (%)		
② 到達度の確認 (60%)			②レポート (%)		
③ 実技・作品発表 (%)			③実技試験 (%)		
			④面接試験 (%)		
[フィードバックの方法]レポート課題提出後に参考例を開示する。			最終講：教材研究、その発表への講評を行う。		
[備考]			準備物として制作キット(授業内で配布予定)保育教材は、発表後提出すること。		

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

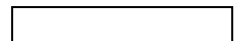
授業のタイトル (科目名) 保育実習指導Ⅲ b (児童福祉施設)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 実習		授業担当者 北川拓 他	
授業の回数 80時間	時間数(単位数) 2	単位 配当	4	セメスター	必修・ 選択必修 ・選択
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	児童相談所 (児童福祉司)				
[授業の目的・ねらい] 児童福祉施設における活動を実際に経験し、その機能と役割について理解すると同時に職員として必要な資質・能力・技術を習得する					主に対応するDP (未選択)
[授業全体の内容の概要] 児童養護施設において現場の実習指導者の下、実習を行う ○現場実習 …自己課題を中心に対人援助技術や児童福祉施設の機能・役割について理解する ○事後学習 …お礼状、振り返り、まとめ、報告会					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 定められた期間の実習を達成し、事前に受講生自身が設定した課題についての達成を目指す。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
<ul style="list-style-type: none"> ・児童養護施設の機能、役割、活動内容等を実際の体験を通じて理解する。 ・児童養護施設の一日の流れを理解し、参加する。 ・子どもとのかかわりのなかで児童の理解を深める。 ・児童養護施設職員による援助業務の種別と役割を理解する。 ・児童養護施設職員における各種事業等を理解する。 ・児童養護施設での実習を通して社会的養護の今日的課題について理解する。 ・実習後の振り返りを通して自身の到達とは課題について理解する。 				『実習ハンドブック』 保育実習指導Ⅲ b (演習) で事前指導を行う	
[参考文献]					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
④ 平常点評価 (60%)	実習態度や実習記録の書き方実習課題に対して取り組みなど総合的に評価する				
⑤ 到達度の確認 (40%)	実習課題が達成できているかレポートや発表内容などで総合評価する				
⑥ 実技・作品発表 ()%					
【定期試験】					
①筆記試験 ()%					
②レポート ()%					
③実技試験 ()%					
④面接試験 ()%					
[フィードバックの方法] 各授業ごとに振り返りと質問時間を設ける					
[備考]実習・					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 保育実習指導Ⅲc (障害児・者施設)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 実習		授業担当者 野村 朋	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	4 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		発達相談員			
[授業の目的・ねらい] ・障害児・者を対象とした施設における保育や生活に参加し、保育活動や生活援助の中で対象者の理解を深め、説明できる。 ・障害児・者施設の対象者とその家族の抱える問題やその社会的背景について理解し、保育士の保育内容や他職種との連携について学ぶ。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] ・障害児施設実習にあたり発達と基礎知識 (教材含む) を復習し、実習に活かせるようにまとめの冊子を作る。 ・障害児施設の概要を理解し、グループワークの中で報告し、学びを共有する。 ・障害児・者を対象とした施設における実習に向けて事前・指導を行い、必要な指導計画の立案、教材準備を行う。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 実習事前事後の学びを深めることによって、自らの人間観につながるものとしての障害観を深め、保育観の基礎を築く					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション; 今までの実習の振り返り・実習指導における講義計画・実習に必要な書類の作成			今までの実習記録を読み返す		
2) 実習施設の概況と保育内容の研究; 事前訪問について、自己課題設定			振り返りシートの記入		
3) 発達と障害についての基礎知識①; 障害についての調べ学習を行う			調べ学習に必要な資料をそろえる		
4) 発達と障害についての基礎知識②; 調べたことを冊子にまとめ報告しあうことで、学びの共有をする。			調べ学習に必要な資料をそろえる		
5) 保育計画の作成・教材づくり①			担当するクラスについて調べておく		
6) 保育計画の作成・教材づくり② 指導計画案に基づく模擬保育を行い、グループ討議を行い、深める。			指導計画の作成		
7) 実習直前指導; 実習の心構え、教材準備			事前学習の内容を復習する		
8) 事後指導; 実習を振り返り、まとめをプレゼンテーションすることで、学びを共有する。			実習での学びを振り返り、まとめる		
[使用テキスト] 授業の配布資料「実習の記録」「実習ハンドブック」					
[参考文献]編 近藤直子・白石正久・中村尚子「保育者のためのテキスト障害児保育」全障研出版部					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
① 平常点評価 (60%)	事前事後指導の参加態度、提出物、発表内容など				
② 到達度の確認 (40%)	実習記録の内容、実習先からの評価				
③実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 保育実習Ⅲcと総合的に評価し、講評する。					
[備考]					

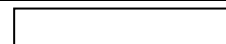
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 保育実習指導Ⅲd (児童館・放課後児童クラブ)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 代田 盛一郎	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	4セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		選択必修			
[授業の目的・ねらい] 「保育実習Ⅲd (児童館・放課後児童クラブ)」の事前準備を行い、実習課題達成をその目的とする。また実習後の振り返りを通して自身の到達と課題について理解する。					主に対応するDP 1, 2, 3, 4
[授業全体の内容の概要] 以下の内容について受講生が主体的にとりくむ。 ○事務的準備…アポイントメント、事前訪問、書類の整備と提出など ○対象理解…実習施設の機能と役割の理解、対象児童の理解、事業所概要の理解など ○実習準備…保育指導計画(案)の策定、教材等準備など ○事後課題…お礼状、振り返り・まとめ、報告会準備など					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 定められた期間の実習を達成するための課題に対し主体的にとりくむことができる。また実習後の振り返りを通して自身の到達と課題について説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 実習及び実習指導の概要・事務的準備に関するガイダンス			児童館関連の授業科目を復習しておくこと		
2) 対象理解と事前訪問準備			(以下、同じ)		
3) 実習準備 (遊びのプログラムづくり①)					
4) 実習準備 (遊びのプログラムづくり①)					
5) 直前指導 (記録指導を含む)					
6) 事後指導					
7) ふりかえり・まとめ①					
8) ふりかえり・まとめ②					
[使用テキスト] 『児童館論』、『実習の記録』卒業実習Ⅱ(児童館)、実習ハンドブック、その他配布資料					
[参考文献] 授業初回に紹介する					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価 (60%)					
②到達度の確認 (40%)					
③実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 保育実習Ⅲdと総合的に評価し、講評する。					
[備考] ※履修前に設定されたオリエンテーションに必ず参加し、説明内容を理解すること					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 保育実習Ⅲb (児童福祉施設)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 実習		授業担当者 北川拓 他	
授業の回数 80時間	時間数(単位数) 2	単位 配当	4	セメスター	必修・ 選択必修 ・選択
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	児童相談所 (児童福祉司)				
[授業の目的・ねらい] 児童福祉施設における活動を実際に経験し、その機能と役割について理解すると同時に職員として必要な資質・能力・技術を習得する					主に対応するDP (未選択)
[授業全体の内容の概要] 児童養護施設において現場の実習指導者の下、実習を行う ○現場実習 …自己課題を中心に対人援助技術や児童福祉施設の機能・役割について理解する ○事後学習 …お礼状、振り返り、まとめ、報告会					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 定められた期間の実習を達成し、事前に受講生自身が設定した課題についての達成を目指す。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
<ul style="list-style-type: none"> ・児童養護施設の機能、役割、活動内容等を実際の体験を通じて理解する。 ・児童養護施設の一日の流れを理解し、参加する。 ・子どもとのかかわりのなかで児童の理解を深める。 ・児童養護施設職員による援助業務の種別と役割を理解する。 ・児童養護施設職員における各種事業等を理解する。 ・児童養護施設での実習を通して社会的養護の今日的課題について理解する。 ・実習後の振り返りを通して自身の到達とは課題について理解する。 				『実習ハンドブック』 保育実習指導Ⅲb (演習) で事前指導を行う	
[参考文献]					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
⑦ 平常点評価 (60%)	実習態度や実習記録の書き方実習課題に対して取り組みなど総合的に評価する				
⑧ 到達度の確認 (40%)	実習課題が達成できているかレポートや発表内容などで総合評価する				
⑨ 実技・作品発表 ()%					
【定期試験】					
①筆記試験 ()%					
②レポート ()%					
③実技試験 ()%					
④面接試験 ()%					
[フィードバックの方法] 各授業ごとに振り返りと質問時間を設ける					
[備考]実習・					

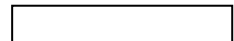
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

--

子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 保育実習Ⅲc (障害児・者施設)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 実習		授業担当者 野村 朋	
授業の回数	80 時間	時間数(単位数)	2 単位	配当	4 セメスター
□ 実務経験		発達相談員			
[授業の目的・ねらい] ・ 障害児・者を対象とした施設における保育や生活に参加し、保育活動や生活援助の中で対象者の理解を深める。 ・ 障害児・者施設の対象者とその家族の抱える問題やその社会的背景について理解し、保育士の保育内容や他職種との連携について学ぶ。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 事前指導を受け、必要な準備をすべて整えた上で保育実践現場に実習生として参加する。事後指導において学んだことをまとめ、発表する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 障害を持つ人の保育・養護において保育士として必要とされる技術・理解力・判断力を養うとともに、自らの人間観につながるものとしての障害観・保育観を深める。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 障害児・者を対象とした施設の人的配置や、物的条件について知る。			事前指導の内容を理解し必要事項を準備する		
2) 障害児・者を対象とした施設の業務内容を体験的に把握する。			事前指導の内容を理解し必要事項を準備する		
3) 障害児・者を対象とした施設の生活や保育の流れを把握し、生活援助や発達援助の内容を知り、実践する。			事前指導の内容を理解し必要事項を準備する		
4) 対象児・者との生活場面での援助の中でかかわりをつくり、対象者理解を深める。			事前指導の内容を理解し必要事項を準備する		
5) 障害児・者を対象とした施設における援助計画と実際の保育のかかわりを知る。			事前指導の内容を理解し必要事項を準備する		
6) 実習指導者との綿密な連携の下に指導員の補助的立場として対象者に対応する。			事前指導の内容を理解し必要事項を準備する		
7) 対象児・者を対象の家族背景や、他職種や他機関との連携の実際について事例を学び、障害者問題の理解を深める			事前指導の内容を理解し必要事項を準備する		
[使用テキスト]授業時に資料を配布する。					
[参考文献] 編 近藤直子・白石正久・中村尚子「保育者のためのテキスト障害児保育」全障研出版部					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
① 平常点評価 (60%)	事前事後指導の取り組み、提出物、態度その他				
② 到達度の確認 (40%)	実習記録の内容、実習施設の評価その他				
③実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 保育実習指導Ⅲc と総合的に講評する。					
[備考]					

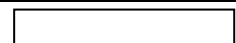
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 保育実習Ⅲd (児童館・放課後児童クラブ)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 代田 盛一郎	
授業の回数	80 時間	時間数(単位数)	2 単位	配当	4 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		選択必修			
[授業の目的・ねらい] 児童館での活動を実際に経験し、その機能と役割について理解すると同時に職員として必要な資質・能力・技術を習得する。					主に対応するDP 1, 2, 3, 4
[授業全体の内容の概要] 児童館において現場の実習指導者の下、実習を行う。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 定められた期間の実習を達成し、事前に受講生自身が設定した課題についての達成を目指す。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
<ul style="list-style-type: none"> 児童館の機能、役割、活動内容等を実際の体験を通じて理解する。 児童館の一日の流れを理解し、参加する。 子どもとのかかわりのなかで児童の理解を深める。 児童館職員の業務を観察し、その役割を理解する。 児童の遊びの実態を理解する。 児童館における子どものためのプログラムを理解する。 遊びの指導計画の立案、実施、評価を行う。 児童館における子育て支援機能について理解する。 			児童館関連の授業科目を復習しておくこと		
[使用テキスト] 『児童館論』、『実習の記録』卒業実習Ⅱ (児童館)、実習ハンドブック、その他配布資料					
[参考文献] 「保育実習指導Ⅲd」授業内に紹介					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価 (60%)					
②到達度の確認 (40%)					
③実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 「保育実習指導Ⅲd」授業内に行う					
[備考] ※履修前に設定されたオリエンテーションに必ず参加し、説明内容を理解すること					

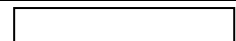
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 特別なニーズをもつ子どもの教育		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 五島丸太・野村 朋	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	4 セメスター
☑ 実務経験		発達相談員			
[授業の目的・ねらい]障がいをもつ人のライフサイクルを通じた支援の在り方について考えるために学童期以降の障害者問題について学ぶ、特別なニーズをもつ子どもの発達保障を軸にした教育を考察していく					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 乳幼児期以降の障害者問題を取り上げ、家族支援も視野に入れつつ、それぞれの時期における支援の在り方、「発達保障」の在り方を考察する。特別なニーズをもつ子どもとの交流なども行い、実践的に学ぶ					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 「発達を保障する」支援のありかたについて自分の考えを述べる事ができる。ライフサイクルを見通して、障がいをもつ人の支援の在り方について考察する					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) インクルーシブ教育の国際動向/特別支援教育とインクルーシブ教育			1 年次の障害児保育の復習		
2) 保育所・幼稚園での特別なニーズを持つ子どもの保育; グループ討議			1 年次の障害児保育の復習		
3) 特別なニーズをもつ子どもとともに楽しむ遊びの実践					
4) 特別なニーズをもつ子どもと家族			事前課題に取り組む		
5) 特別なニーズをもつ子どもの教育を考える①: 外国にルーツのある子どもの保育について考える。グループ討議			事前課題に取り組む		
6) 特別なニーズをもつ子どもの教育を考える②: 難病・病弱児の保育・教育。グループ討議			事前課題に取り組む		
7) 特別なニーズをもつ子どもの教育を考える③: 保護者の疾病、ヤングケアラーの問題について考える。グループ討議。			事前課題に取り組む		
8) 特別なニーズをもつ子どもの教育を考える④: ゲストスピーカーを招き、セクシャル・マイノリティについて考える。			事前課題に取り組む		
9) 保育教育支援計画①: 遊びの計画づくり: 特別なニーズをもつ人とともに楽しめる遊びを体験する					
10) 保育教育支援計画②: 遊びの指導案づくり: ゲストスピーカーを招いて、特別なニーズをもつ人との遊び(指導案)を考える			資料を用意する		
11) 保育教育支援計画③: 遊びの指導案づくり: 特別なニーズをもつ人との交流を通して遊びを考える。遊び(指導案)を具体化する			遊び実施に必要なものを用意する		
12) 保育教育支援計画④: 遊びの計画づくり: 特別なニーズをもつ人との交流を通して遊びを実施する(ゲストスピーカーを招く)			遊び実施に必要なものを用意する		
13) 実践に学ぶ①: 実践の読み取りと分析を行う			資料を通読する		
14) 実践に学ぶ②: 実践を分析し、グループ討議で深める			課題に取り組む		
15) 授業内試験 レポート試験を行う			レポートに必要な資料を用意する		
[使用テキスト]資料を適宜配布する					
[参考文献] 「気になる子」が変わる時: 困難をかかえる子どもの発達と保育, 木下孝司, かもがわ出版 「新版・キーワードブック特別支援教育・インクルーシブ教育時代の基礎知識」玉村公二彦, 黒田学, 向井啓二, 平沼博将, 清水貞夫/編, クリエイツかもがわ					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価 (40%)		提出物及び演習参加態度			
②到達度の確認 (%)					
③実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (60%)		課題レポートの内容評価			
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法]					
[備考]					

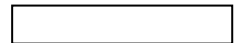
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 教育方法論		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 今滝 憲雄	
授業の回数	15回	時間数(単位数)	2単位	配当	3 セメスター
□ 実務経験		選択必修/必修 (幼)			
[授業の目的・ねらい]					主に対応するDP
子どもの育ちを支える人となるために、教育方法に関する知識・技能を理解し、説明できるようになる。					1
[授業全体の内容の概要]					
さまざまな教育実践・保育実践に学びながら、教育方法とは何かについて考える。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)]					
どのような教育方法が子どもの育ちを支えるかについて、自分の考えを深め、説明することができる。					
[準備学習の内容] それぞれの教育方法について、ミニレポートにまとめる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1) オリエンテーション 教育方法論の目的、概要、到達目標、評価などについて説明を受けると共に、教育方法とは何かについて考える。					
2) 養護と教育の一体 養護と一体性をもつ教育について、その意義と方法を学び、ディスカッションを行う。					
3) 生活と教育 生活と教育について、その意義と方法を学び、ディスカッションを行う。					
4) 遊びを通じた教育 遊びを通じた教育について、その意義と方法を学び、ディスカッションを行う。					
5) 環境を通じた教育 環境を通じた教育について、その意義と方法を学び、ディスカッションを行う。					
6) 科学と教育 科学と教育について、その意義と方法を学び、ディスカッションを行う。					
7) 教材・教具【ゲストスピーカー】 教育における教材・教具について、その意義と方法を学び、ディスカッションを行う。					
8) 中間まとめ 様々な教育方法について理解を深めると共に、興味・関心を持った教育方法についてプレゼンテーションを行う。					
9) 情報機器と教育 教育における情報機器の役割及びパソコンを使用した文書の作り方を学ぶ。					
10) 保育士・教師の教育技術【ゲストスピーカー】 保育士・教師の教育技術について学び、ディスカッションを行う。					
11) 保育士・教師と子ども 系統主義と子ども中心主義、保育士・教師と子どもの関係について学び、ディスカッションを行う。					
12) 子どもと子ども (現代的な課題への対応) 子どもと子どもの関係、集団づくりについて学び、ディスカッションを行う。					
13) 行事の位置づけと展開【ゲストスピーカー】 幼稚園等における行事について、その意義と方法を学び、ディスカッションを行う。					
14) 「資質・能力」とは何か 「資質・能力」を育む教育について、その意義と方法を学び、ディスカッションを行う。					
15) まとめ 講義全体のまとめを通して教育方法への理解を深めるとともに、実践家として学び続けることの大切さについて学ぶ。					
試験) 学期末にレポート試験を実施する。			[単位認定の方法及び基準]		【試験】
[使用テキスト]			【授業内評価】		・筆記試験 () %
[参考文献]			・平常点評価 (70 %)		・レポート (30 %)
『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』『保育所保育指針解説』ほか、授業内で紹介する。			・到達度の確認 () %		・実技試験 () %
[フィードバックの方法]			・実技・作品発表 () %		・面接試験 () %
ミニレポート等に対してフィードバックを行う			[備考] 期末レポートの他、平常点としてミニレポート等授業内課題の提出を求める。		

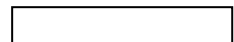
※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 子どもと学習活動		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 今滝 憲雄	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	4 セメスター
□ 実務経験		選択必修/必修 (幼)			
[授業の目的・ねらい]子どもが人として成長し、人格を形成していく道筋やそのための条件、おこなう学習活動について学び、子どもへの理解を深めるとともに、指導する視点を整理し説明できるようになる。					主に対応するDP 1, 3
[授業全体の内容の概要]子ども (人間) の成長と発達の道筋や成長の節目、子どもが育つ条件や環境の時代的な変化と現状、子どもの成長に果たす教育および学習の役割などについて学ぶ。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 子ども (人間) が発達し成長していく過程についての理解を深める。また、そのために保育士・教師にとって必要な考え方、子ども観、指導の視点を持ち、自分の言葉で説明することができる。					
[準備学習の内容] 子どもが成長できる環境、条件について考え、子どもにとって必要な学習活動についてレポートにまとめる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1) オリエンテーション 子どもと学習活動の目的・ねらい、概要、到達目標、評価などについて説明を受ける。					
2) 乳児の活動と学び① 乳児がどのような方法で、どのようなことを学習しているのかについて学ぶ。					
3) 乳児の活動と学び② 乳児がどのような方法で、どのようなことを学習しているのかについて、学びを深める。					
4) 幼児の活動と学び① 幼児がどのような方法で、どのようなことを学習しているのかについて学ぶ。					
5) 幼児の活動と学び② 幼児がどのような方法で、どのようなことを学習しているのかについて、学びを深める。					
6) 子どもの発達・成長と言葉① 子どもの発達・成長と言葉について学習する。					
7) 子どもの発達・成長と言葉② 子どもの発達・成長と言葉について、学びを深める。					
8) 子どもの発達・成長と集団① 子どもの発達・成長における集団の意義、役割について学ぶ。					
9) 子どもの発達・成長と集団② 子どもの発達・成長における集団の意義、役割について、学びを深める。					
10) 子どもの学び①【ゲストスピーカー】 子どもの学習、活動、体験の関係について学ぶ。					
11) 子どもの学び② 子どもの学習、活動、体験の関係について、学びを深める。					
12) 子どもの発達・成長と社会的な課題①【ゲストスピーカー】 子どもの発達・成長の視点から、社会的な課題について学ぶ。					
13) 子どもの発達・成長と社会的な課題② 子どもの発達・成長の視点から、社会的な課題について、学びを深める。					
14) 子ども観、指導の視点の問い直し①【ゲストスピーカー】 子どもが育つ今の社会や環境をふまえ、今の子どもをどう見るか、求められる指導の視点について学ぶ。					
15) 子ども観・指導の視点の問い直し② 子どもが育つ今の社会や環境をふまえ、今の子どもをどう見るか、求められる指導の視点について、学びを深める。					
試験)		[単位認定の方法及び基準]		【試験】	
[使用テキスト] 使用しない。		【授業内評価】 ・平常点評価 (100 %)		・筆記試験 (%)	
[参考文献] 授業でその都度紹介する。		・到達度の確認 (%)		・レポート (%)	
[フィードバックの方法] レポートに対し、フィードバック行う。		・実技・作品発表 (%)		・実技試験 (%)	
		[備考] 平常点としてテーマ毎にレポートの提出を求める。		・面接試験 (%)	

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 教育実習指導 (教育実習指導 I・II)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 大内田 ()、野村、 井下、伏尾、池脇	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] ○幼稚園教諭 2 種免許状の取得希望者を対象に、「幼稚園実習」の事前準備を行い、実習課題達成を目的とする。○幼稚園等の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。○子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、教育・保育の理解を深める。○教育課程論・実践・観察・記録及び自己評価について、実際に取り組み、理解を深める。○教諭の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結び付けて理解する。○実習における自己の課題の明確化と実習後の振り返りを通して、自身の到達と課題について理解する。					主に対応するDP 1, 2, 3, 4
[授業全体の内容の概要] ○幼稚園実習の目的、内容、方法、留意点を具体的に理解する。○教育・保育観察の方法、実習の記録の書き方のポイントを学ぶ。○子どもの発達、集団教育に応じた指導計画案の立案、教材準備を進める。○実践に活かせる教育・保育技術、技法を身につける。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ○実習に必要な書類や手続きの準備を主体的に行うことができる。○実習施設の役割・機能、子どもの発達の特徴、配慮すべき事項について理解し、説明できる。○指導計画案を立案し、教材や実践に必要な教育・保育技術について積極的に準備を進めることができる。○実習後の振り返りをまとめ、報告し合うことで、学びを共有し、自己評価できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション 実習の意義、目的の理解			他の実習の振り返り、自己課題を明確にする		
2) 幼児教育の基本について 幼稚園の役割、機能の理解			幼稚園、認定こども園について調べる		
3) 実習記録の書き方 幼稚園の一日の流れ、実習の記録の書き方の理解			実習記録の書き方を復習しておく		
4) 事前訪問の準備 実習の目的、自己課題の明確化			事前訪問の注意事項を熟読しておく		
5) 指導計画 (全日実習) の書き方 指導計画の意義、書き方の理解			指導計画の書き方の復習をしておく		
6) 指導計画の立案 指導計画の作成、教材研究			指導計画案の完成、教材の準備・研究を行う		
7) 立案した指導計画の実践① 実践、記録、評価・反省、改善			指導計画案の完成、教材の準備・研究を行う		
8) 立案した指導計画の実践② 振り返り、課題の明確化			指導計画案の完成、教材の準備・研究を行う		
9) 実習直前指導 実習の心構え、実習中の諸注意の理解			実習の注意事項を熟読、最終準備、確認を行う		
10) 実習事後指導 実習の振り返り、お礼状の作成			実習の評価・反省、課題をまとめる		
11) 実習報告会① 実習のまとめ、実習での学びを深める			実習での気づき、学びをまとめる		
12) 実習報告会② グループ討議・「実習のまとめ」報告書作成			グループ討論での気づき、学びをまとめる		
13) 全体報告会③ グループによる報告書の発表①			グループ発表の内容、学びをまとめる		
14) 全体報告会④ グループによる報告書の発表②			グループ発表の内容、学びをまとめる		
15) まとめ 振り返り・自己評価			実習や報告会での自己課題をまとめる		
[使用テキスト] 実習の記録、実習ハンドブック、配布資料					
[参考文献] 久富陽子編著 『幼稚園・保育所実習 指導計画の考え方・立て方』 萌文書林 2017 年					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価 (60 %)					
②到達度の確認 (%)					
③実技・作品発表 (40 %)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 最終授業で講評を行う。					
[備考]					

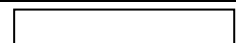
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 幼稚園実習 (幼稚園実習Ⅰ、Ⅱ)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 実習		授業担当者 大内田、()、野村、井下、伏尾、池脇	
授業の回数	4週間	時間数(単位数)	4 単位	配当	3 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		必修 (幼)			
[授業の目的・ねらい] ○幼稚園等の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 ○子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、教育・保育の理解を深める。 ○既習の教科目や他の実習の経験を踏まえ、子どもの教育・保育について総合的に理解する。 ○教育課程論・実践・観察・記録及び自己評価について、実際に取り組み、理解を深める。 ○教諭の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結び付けて理解する。 ○実習における自己の課題を明確化する。					主に対応するDP 1, 2, 3, 4
[授業全体の内容の概要] 幼稚園での観察実習・部分実習・責任実習を行いながら、現場に必要な「保育者像」を学ぶ。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ○教育・保育者の仕事に触れ、幼稚園やこども園の役割や機能について理解し、説明できる。 ○集団教育・保育の中で大切にすることや教育・保育の方法を学び、理想の教師像を形成できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
○積極的に子どもと関わりながら子ども理解を深め、子どもの発達に即した指導や援助のあり方を学ぶ。 ○実習園の教育・保育目標、特色、行事などに参加し、その意味と方法を把握する。 ○年間、学期、月、週、一日の流れを把握し、クラスの子どもの実態に即した指導計画の立て方を学び、実践する。 ○保護者とのコミュニケーションの方法を学ぶ。 ○幼稚園等と地域社会との連携の方法を学ぶ。 ○幼稚園教諭、保育教諭に求められている資質や技能に照らし合わせて、自己の課題を明らかにする。			「教育実習指導Ⅰ・Ⅱ」で事前・事後指導を行う。		
[使用テキスト] 実習の記録、実習ハンドブック、配布資料					
[参考文献] 久富陽子編著 『幼稚園・保育所実習指導計画の考え方・立て方』 萌文書林 2017年					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価 (60 %)					
②到達度の確認 (40 %)					
③実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 実習終了後に面談を行う。					
[備考] 教育実習指導Ⅰ・Ⅱと合わせて、総合的に評価を行う。					

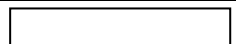
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 算数教育		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 代田 盛一郎	
授業の回数	15回	時間数(単位数)	2単位	配当	4 Semester
□ 実務経験		選択/必修 (幼)			
[授業の目的・ねらい] 幼稚園教育 (幼児教育) における「数量・図形, 標識や文字などへの関心・感覚」を“算数”体験として理解し、生活や遊びの中の“算数”体験を意識した実践を行うための基礎知識及び技能を習得する。					主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] 幼稚園教育 (幼児教育) における“算数”体験について理解し、さらに生活や遊びの中の“算数”体験の意識化や“算数”を楽しむ遊びについても実践的な学習を行う。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 幼稚園教育 (幼児教育) における“算数”体験を理解し、“算数”を楽しむ遊びを行うことができるようになることを目標とする。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション “算数” ってなんだ? みなさんは “算数” が好きですか?			幼稚園教育要領の熟読、生活と遊びの中の “算数” 的要素の日常的な意識。		
2) “算数” の正体 (その1) ~ “算数” を構成するも			(以下、同じ)。		
3) “算数” の正体 (その2) ~ “算数” における「解答スキル」と「幅広い『思考力』」					
4) 幼稚園教育 (幼児教育) における “算数” 体験 (その1)					
5) 幼稚園教育 (幼児教育) における “算数” 体験 (その2)					
6) 生活、遊びの中の “算数” 体験 (その1) ~ 隠れた “算数” を探してみよう					
7) 生活、遊びの中の “算数” 体験 (その2) ~ 遊びの中に潜む “算数”					
8) “算数” で遊ぶ (その1)					
9) “算数” で遊ぶ (その2)					
10) “算数” で遊ぶ (その3)					
11) “算数” で遊ぶ (その4)					
12) 幼稚園教育 (幼児教育) における “算数” が育むもの (その1) ディスカッション・グループワーク					
13) 幼稚園教育 (幼児教育) における “算数” が育むもの (その2) プレゼンテーション準備					
14) 幼稚園教育 (幼児教育) における “算数” が育むもの (その3) プレゼンテーション・発表					
15) ふりかえり・まとめ					
[使用テキスト] なし (資料、プリントを配布)					
[参考文献] 授業において紹介する					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】			【定期試験】		
① 平常点評価 (60%)			① 筆記試験 (%)		
② 到達度の確認 (40%)			② レポート (%)		
③ 実技・作品発表 (%)			③ 実技試験 (%)		
			④ 面接試験 (%)		
[フィードバックの方法] 授業内で行う					
[備考]					

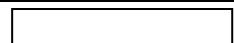
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 国語教育		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 杉山 和正	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	4 セメスター
□ 実務経験		小学校教員の経験を活かし、児童文学や絵本の魅力についても講義する。			
[授業の目的・ねらい] 様々なジャンルの文章の鑑賞や表現活動を通じて、言語感覚を養い、読解力、表現力、コミュニケーション力、さらに豊かな人間性を身につけることができる。					主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] 児童文学、絵本、小説、詩などの鑑賞と好きな作品の紹介。新聞記事や時事問題などの文章を読み意見交換をする。グループワークを通して言語への関心を高める。書くこと話すことを通して相互理解を深める。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標) 文学 (小説、詩、絵本等) への関心を高め、その役割について明らかにできる。「読む」「書く」「話す」「聴く」力を伸ばし、豊かな人間性、感性と表現力を身につけることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) ガイダンス コミュニケーションの基本 (聴くこと、話すこと)、自己表現と文章の関係について考える。					
2) 群読を通して、音読の魅力、意義について学ぶ。(グループワーク)					
3) 絵本の紹介、読み聞かせの方法、絵本の紹介文を書く。(次時から、読み聞かせの交流)			薦めたい絵本を決めて臨む。		
4) 実習時、印象に残った子どもについて書く。			どんな点が印象に残ったかメモをして臨む。		
5) 上記文章を読み合い、子ども理解、教育のあり方への理解を深める。			前時課題を仕上げて臨む。		
6) 「アナグラム」や「折句」を通して言葉の魅力について学ぶ。(グループワーク)			「アナグラム」「折句」について調べる。		
7) 誤用しやすい言葉を取り上げ、言葉に対する関心を高める。			日常生活で誤用しやすい言葉を調べる。		
8) 「不適切な言葉」について取り上げ、言葉に対する関心を高める。			不適切だと思える言葉を考えて臨む。		
9) 新聞記事を読み、自分の考えを書く。					
10) 前時に書いた文章を用いて、交流、ディスカッションをおこなう。			前時課題を仕上げて臨む。		
11) 名詩を鑑賞する。					
12) 自己表現と伝達の文章の相違点を学ぶ。自己表現の文章の書き方を学び、実際に書く。			題材を決めて臨む。		
13) 自己表現の文章を鑑賞する。①			作品に対する感想レポートの作成。		
14) 自己表現の文章を鑑賞する。②			作品に対する感想レポートの作成。		
15) 授業のまとめ「言葉は人をつくる」「言葉は人を励ます」					
[使用テキスト]レジュメ、資料をプリントで配布する。					
[参考文献]随時、授業で紹介する。					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価 (50%)	毎時間のレポート提出状況				
②到達度の確認 (50%)	「絵本紹介文」「新聞記事への意見文」「自己表現文章」などの内容				
③実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法] 提出された課題について、毎授業時解説し、フィードバックを行う。					
[備考]					

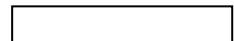
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 保育と医療的ケア		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 清水 従子	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	セメスター 選択
<input type="checkbox"/> 実務経験	ペガサス保育園つばさ園長としての経験から医ケア児とのインクルーシブ保育について講義する。				
[授業の目的・ねらい] 医療的ケア児に対して関心を持ち、医療的ケア児とその家族の置かれている環境を知り、危険行為やリスクを把握した上で適切な援助・保育が提供できる。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 実際のインクルーシブ保育の現場の様子をスライドで見ながら講義を進めます。現場で使用している医療機器を手に取ったり、医療的ケア児の為に玩具作りなども行います。保育園の見学実習に行き、理解を深めます。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 医療的ケア児の疾患や特性を理解し、リスクを把握した上で安全に保育を提供することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 講義「医療的ケアについて・概要」・胃ろう注入体験					
2) 講義「あそびと保育」・おもちゃ作り			医療的ケア児について調べる		
3) 講義「家族支援・疾患について」					
4) 講義「制度・法律・痙攣」モニター体験					
5) 見学実習 インクルーシブ保育実施保育園			手遊びを1つ準備する		
6) 講義「救急対応・窒息・溺水」アンビュ体験			救急対応についての小レポート作成		
7) 講義「医ケア児の一日の生活」おもちゃ作り					
8) 「振り返り・試験 (論文)」					
9)					
10)					
11)					
12)					
13)					
14)					
15)					
[使用テキスト]					
[参考文献]					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価 (%)					
②到達度の確認 (%)					
③実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
②筆記試験 (%)					
②レポート (100%)	講義で学んだ事、現場で実践したい事などをレポートで提出します。				
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
[フィードバックの方法]					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 医療的ケア演習		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	4セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		選択			
[授業の目的・ねらい] 医療的ケアを実施する上で必要な事項について理解する					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 医療的ケアの実施について具体的事例に関するディスカッションやグループワークを通して理解する					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 医療的ケアを実施する上で必要な事項について論述できる					
[準備学習の内容] 授業「保育と医療的ケア」について復習しておくこと					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1) 医療的ケアの実施における留意点①喀痰吸引					
2) 医療的ケアの実施における留意点②経管栄養					
3) 医療的ケアの実施における留意点③救急蘇生					
4) 清潔保持と感染予防①					
5) 清潔保持と感染予防②					
6) リスクマネジメントとヒヤリハット① (事例検討とグループワーク)					
7) リスクマネジメントとヒヤリハット② (事例検討とグループワーク)					
8) 授業のふりかえりとまとめ					
試験)		[単位認定の方法及び基準]		【試験】	
[使用テキスト] 適宜プリント配布		【授業内評価】 ・平常点評価 (50%)		・筆記試験 (%) ・レポート (%)	
[参考文献] 授業時に紹介		・到達度の確認 (50%) ・実技・作品発表 (%)		・実技試験 (%) ・面接試験 (%)	
[フィードバックの方法] 最終講義日に行う		[備考]			

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) ベビーマッサージ演習		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	4セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		選択			
[授業の目的・ねらい] 乳幼児のケアに関する基本的理解と保育現場において求められるケアについて理解する。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 乳幼児のケアにおける専門職の役割について実例を用いて理解する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 乳幼児のケアに関する基本的理解と保育現場において求められるケアについて説明できる。					
[準備学習の内容] 乳幼児のケアに関する基本的事項を、1年次の基礎学習・専門用語などレポートしておくこと。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1) 本講のオリエンテーション 乳児の健康な身体づくり総論					
2) 身体の発達を促すあそびについて理解する					
3) ベビーマッサージ・赤ちゃん体操総論					
4) 乳児の健康な身体づくりの基本的理解 (中間まとめ)					
5) ベビーマッサージの実践方法 (演習)					
6) 赤ちゃん体操の実践方法 (演習)					
7) ベビーマッサージ・赤ちゃん体操模擬					
8) 授業のふりかえりとまとめ					
試験)		[単位認定の方法及び基準]		【試験】	
[使用テキスト] 授業内で配布する		【授業内評価】 ・平常点評価 (50%)		・筆記試験 (%)	
[参考文献] 授業内で紹介する		・到達度の確認 (50%) ・実技・作品発表 (%)		・レポート (%) ・実技試験 (%) ・面接試験 (%)	
[フィードバックの方法] レポートの返却。講評は授業内で行う。		[備考]			

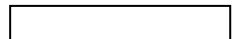
※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) キャリアアップ教育V (インターンシップ)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 代田 盛一郎	
授業の回数 40 時間	時間数(単位数)	1 単位	配当	1. 2. 3 セメスター	選択
☑実務経験					
[授業の目的・ねらい] 将来の進路・就職に関係する施設や職場などで、実践的な実習を通して就業体験を行う。そして、実習先の施設や職場での就業体験をもとに進路、就職を考える。					主に対応するDP 1, 2, 4
[授業全体の内容の概要] 実習前には事前オリエンテーションを受け、インターンシップ契約(協定)を結んだ実習先(事業所)で実習を行う。1日8時間の実習を5日間行うのが原則だが、実習先との関係で実習期間の分割、特定の曜日のみ実習を行うことも可能である。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 実践的な就業体験を通じて、実際の仕事や職場の状況を知り、自らの職場適性を把握し、自分自身の進路、就職の課題について述べるができる。					
[準備学習の内容] 事前指導は原則行わないので、実習施設についての事前学習を各自がしっかりと行うこと。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1) 実習施設について理解する					
2) 実習施設での実習内容を理解する					
3) インターンシップとして実習することの意義を十分に理解する					
4) 実習先での職業倫理、仕事をする上での社会的マナーや態度を学ぶ					
5) 実習を通して自らの職業適性を知り、現状の課題、今後学ぶべき課題を把握する					
6) インターンシップ終了後は、ふりかえりレポートを作成する					
試験)		[単位認定の方法及び基準]		【試験】	
[使用テキスト] 「キャリア支援ガイド」(大学作成)		【授業内評価】		・筆記試験 (%)	
[参考文献] 特になし。		・平常点評価 (20%)		・レポート (80%)	
[フィードバックの方法] 特になし。		・到達度の確認 (%)		・実技試験 (%)	
		・実技・作品発表 (%)		・面接試験 (%)	
		[備考] ◎実習先については原則自己開拓であり、インターンシップを希望する学生が実習施設に依頼し、受諾された後に、大学と実習施設がインターンシップ契約(協定)を結び、実習を行う。			

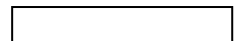
※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習)	授業担当者
児童館・放課後児童クラブの機能と運営		講義 (一部演習・実技含む)	古田 説子
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位
		配当	4 セメスター
			必修・選択必修・選択
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	児童健全育成指導士 (児童館及び放課後児童クラブ事業運営の職員としてまたその主管部所担当とした勤務経験を踏まえ実践的内容を講義する)		
[授業の目的・ねらい]		児童福祉の基本理念である「健全育成」の考え方を理解し、子どもの健全育成上の課題について学ぶ。また、その理念を地域で具現化する児童館・放課後児童クラブの機能を理解する	主に対応するDP (未選択)
[授業全体の内容の概要] 児童福祉法の経緯、健全育成の考え方、具体的内容、現代の子どもの健全育成上の課題、遊びの意義。児童館の起源、経緯、施設概要、施設の規模別特徴、機能と運営上の留意点、児童館ガイドライン、課題と展望。放課後児童健全育成事業の概要、活動内容と留意点、設備及び運営に関する基準、放課後児童クラブの運営指針、課題と展望、都道府県認定資格研修			
[授業修了時の達成課題 (到達目標)]			
児童厚生員として適切な児童の支援方法を説明、実演でき、児童の健全育成に資する遊びの企画、指導ができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		[準備学修の内容]	
1) オリエンテーション「児童館・放課後児童クラブ・児童厚生員」(講義)		受講前に施設見学及び、情報収集。	
2) 児童福祉法の理念と健全育成の内容、子どもと遊び (講義)		予習教科書 p6~7 p25~28	
3) 児童館の概要と特性「その源流から現在の状況まで」(講義)		予習教科書 p6~28 前週で取り上げてない所	
4) 放課後児童クラブの概要と特性「設備運営基準、運営指針」(講義)		放課後児童クラブについて情報収集	
5) 児童館機能①「小学生対応」「児童館内の放課後児童クラブ」(講義)		予習教科書 p30~34 p41~45	
6) 児童館機能②「子育て支援」「中高生世代対応」(講義)		予習教科書 p35~40 p46~49	
7) 児童館機能③「配慮を要する児童への関わり」(講義)		予習教科書 p50~54	
8) 児童館・放課後児童クラブの確認と小テスト (講義・1~7の内容確認小テスト) 遊びを考える(グループワーク)		講義 1~7の内容を確認しておく	
9) 児童館機能④「相談援助」「地域子育て環境づくり」(講義)		予習教科書 p55~64	
10) 児童館機能⑤「子どもの参画」「ボランティアの発掘育成」(講義)		予習教科書 p65~73	
11) 安全対策・衛生管理「安全管理・アレルギー感染症等」(講義と演習)		予習教科書 p120~122	
12) 安全対策・衛生管理「防犯・防災・衛生管理 等」(講義と演習)		予習 前週配布(新省令に基づく安全計画策定の規定内容)	
13) 大型児童館の機能と役割、職員の資質と役割 (講義)		予習教科書 p123~125 教科書	
14) 職場倫理・法令遵守(コンプライアンス)・権利擁護、倫理綱領 (講義と演習)		予習教科書 p76~90 教科書	
15) 機能と運営の内容確認 (レポート作成・プレゼンテーション・講義)		事前に指定した内容のレポート作成事前提出	
[使用テキスト] 『児童館論』(児童健全育成推進財団 発行)			
[参考文献] 「子どもは歴史の希望-児童館理解の基礎理論-」「健全育成論」「安全指導・安全管理」「ソーシャルワーク」(児童健全育成推進財団 発行)・放課後児童支援員都道府県認定資格研修教材、まちのしせつ2じどうかん			
[評価の実施方法と基準]			
【平常試験】			
①平常点評価 (40%)	遅刻・出席を重視、教科書の準備学修の確認		
②到達度の確認 (60%)	中間点で筆記の理解確認、最終日に事前提出のレポートを提出、発表で、理解度を図る		
③実技・作品発表 (%)			
【定期試験】			
①筆記試験 (%)			
②レポート (%)			
③実技試験 (%)			
④面接試験 (%)			
[フィードバックの方法]小テスト形式で理解度を確認し同授業内で自己採点また、個々が作成したレポートを元にプレゼンテーションを講義内で行うことでフィードバックする			
[備考]			

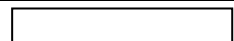
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習)		授業担当者	
児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法		講義		代田 盛一郎	
授業の回数	15回	時間数(単位数)	2単位	配当	3セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		選択/必修 (児)			
[授業の目的・ねらい] 児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法について理解し、実践的な力量を身につけることを目的とします。またその児童館・放課後児童クラブの福祉的側面を踏まえ、今日的な課題について実際の事例に基づき考察を深めます。					主に対応するDP 1,2
[授業全体の内容の概要] 受講生による事前学習に基づき各項目への理解を深めます。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法について理解し、自身のことばで語ること、実践できるようになることを到達目標とします。併せてその背景となっている社会とその問題をとらえる視点の獲得を目標とします。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション～科目の目的、方法、ガイダンスを含む			「児童館ガイドライン」の熟読		
2) 児童館・放課後児童クラブの1日(週、年)の流れと活動のねらい					
3) 児童館・放課後児童クラブにおける遊びの環境構成					
4) 遊びを通じた支援の実際(プログラム作り、具体的展開、支援法)					
5) 遊びを通じた児童の健全育成～基本的事項と事例検討					
6) 児童館・放課後児童クラブにおけるグループワーク～基本的事項と事例検討					
7) 児童館・放課後児童クラブにおけるケースワーク～基本的事項と事例検討					
8) 小学生の仲間づくり・居場所づくり					
9) 子育て支援活動～子ども家庭福祉、地域子ども・子育て支援事業として					
10) ボランティアの育成・支援					
11) 児童館・放課後児童クラブにおける生活・学習支援					
12) 保護者・学校・地域との連携					
13) 子どもたちのニーズに基づいた行事やイベントの企画立案(演習)					
14) 企画発表会、講評					
15) まとめ					
[使用テキスト]					
なし(授業ごとに資料を配布します)。					
[参考文献] 初回の授業にてリストを配布し紹介します。					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①平常点評価(50%)					
②到達度の確認(50%)					
③実技・作品発表()%					
【定期試験】					
①筆記試験()%					
②レポート()%					
③実技試験()%					
④面接試験()%					
[フィードバックの方法]					
最終回に解説、フィードバックします。					
[備考]					
「児童館ガイドライン」はインターネットで閲覧可能です。フィールドワークを予定しています。詳細は授業内でガイダンスを行います。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。



子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名) 国際理解		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 鴻上 野村	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 1,3 セメスター		卒業：選択	資格：選択
□ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 学生間の交流をとおして豊かな人間性と社会性を身につけ、異文化の人とコミュニケーションを取れるようになる。また、異文化コミュニケーションのなかから、社会福祉について広い視野でとらえられるようになる。					主に対応するDP (未選択)
[授業全体の内容の概要] 異文化コミュニケーションを通して、文化と福祉について理解する。履修者は授業内で提示される活動に主体的に参加し、様々な文化や価値観との交流を行う。その事前事後学習を通して、社会福祉について考える。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 国際的視点から、異文化交流の意義や社会福祉のあり方について説明出来る。					
[準備学習の内容] 広く国際社会に関心を持ち、ニュースや書籍に目を通しておく (毎日 15 分 1 ヶ月程度)。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1) オリエンテーション 本科目の説明、受講ルールおよび評価方法について説明する。					
2～3) 自己紹介 日本、フィリピン、ネパールの受講者が互いに、これまで生きてきた環境や経験、文化的要素などを紹介する。					
4) 母国の紹介① フィリピン、ネパールで、子どものころにした遊びや歌を紹介する。					
5～9) 母国の紹介② 日本人学生は日本の伝統的な遊びや季節の行事を紹介する。フィリピン、ネパール留学生から、各国の歴史、制度、政治、文化、習慣などを紹介する。ポスターを作成したうえでプレゼンテーションする。 第 5～6 回授業は準備、7～9 回授業でプレゼンテーションする。					
10～11) 分野別仕事紹介 子ども福祉学科学生、介護福祉学科学生から、互いに保育・介護の仕事について紹介をする。					
12～13) ゲストスピーカー 在日ネパールの方による、ネパールの貧困の実態についての講演。					
13～14) フィールドワーク＝保育、介護現場訪問 (見学)					
15) まとめ					
試験)		[単位認定の方法及び基準]		【試験】	
[使用テキスト] 授業ごとに資料を配布する。		【授業内評価】 ・平常点評価 (100 %)		・筆記試験 (%)	
[参考文献] 授業ごとに紹介する		・到達度の確認 (%)		・レポート (%)	
		・実技・作品発表 (%)		・実技試験 (%)	
[フィードバックの方法] 報告会において、講評を行う。		[備考]			

※使用テキスト及び参考書は図書館に納められています。

